



新庄・最上ジモト大学推進 コンソーシアム



- 目 次 -

【目的・体制】

○ 新庄・最上ジモト大学推進事業/コンソーシアム組織体制.....	2
-----------------------------------	---

【新庄・最上ジモト大学に寄せて】

○ 東北芸術工科大学 コミュニティデザイン学科 専任講師 牛木 力氏.....	4
○ 新庄南高等学校 校長 相澤 哲哉氏.....	5
○ 新庄商工会議所 専務理事 佐藤 亜希子氏.....	6

【令和4年度事業報告】

○ 令和4年度事業一覧.....	8
○ 新庄・最上ジモト大学プログラム提供者アンケート実施結果	11
○ 新庄・最上ジモト大学プログラムパンフレット.....	13
○ ジモト大学グランドルール/Love ルール	15
○ プログラム参加者数（高校別・延べ人数/市町村別・延べ人数/実人数）	16
○ プログラム実施報告書	
1. 城下町・新庄謎解きウォークラリー	21
2. 自分の命と地域を災害から守ろう！	22
3. 「手で話そう」～手話通訳という資格を知ろう～	23
4. ジモト食材革命！高校生発 居酒屋メニュー開発作戦.....	24
5. モノづくりの面白さ～「好き」を仕事に～	25
6. 君とつくる地図～巡って撮ってアップする、デジタル観光マップ～	26
7. まちの魅力をカタチにしたら～ノベルティで町をPR～	27
8. 役場の仕事をみてみよう！	28
9. 愛の不時着～サケ編～	29
10. オリジナル地元新聞を作ろう！	30
11. ヨット体験&イベント運営にチャレンジ - 徳良湖が作る歴史とドラマ -	31
12. おばねそばのそばを学んで発信！みんなの楽しいそばレシピ	32
13. 「ふるさとからの返礼品」探求プロジェクト	33
14. 医療福祉座談会	34
15. しごとトーク ～若手従業員のリアルなお話～（新庄南高等学校金山校）	35
16. しごとトーク ～若手従業員のリアルなお話～（新庄北高等学校）	36
17. しごとトーク ～若手従業員のリアルなお話～（新庄神室産業高等学校）	37
18. しごとトーク ～若手従業員のリアルなお話～（新庄南高等学校）	38
19. しごとトーク ～若手従業員のリアルなお話～（新庄東高等学校）	39

20. しごトーーーク ～若手従業員のリアルなお話～（新庄北高等学校最上校）	40
21. しごトーーーク ～若手従業員のリアルなお話～（新庄神室産業高等学校真室川校）	41
22. ふるさとをまもり未来をつくる土木技術者たちのはなし	42
23. Youは何する？最上（てっぺん）で！	43
24. 最上小国川鮎釣り甲子園大会～最上小国川の文化に触れる～	44
25. バズるディサービスの夏祭り	45
26. モガミノノロシ MOGAMI NO NOROSHI	46
27. 企業広告を作って、サイネージで流そう！	47
28. 高校生に学んでほしい SDGs	48
29. ユニクロに潜入！全身ユニクロコーデスタイリングに挑戦！	49
30. 今年の祭りは浴衣で出掛けよう！	50
31. 新庄オリジナルの財布をデザインして全国に発信しよう	51
32. 「18歳のリアル」ジブンとエネルギー社会のあした	52
33. Under construction！高校生たちがイチから作り上げるプログラム	53
34. グローバル経済をシミュレーションするワークショップ	54
35. 作って食べよう！これから一人暮らしをはじめる君に捧げる YouTube 動画作成 part2	55
36. YouTube ライブ配信でかたるにゃあ～♪	56
37. 押し語りしたくないか？俺はしたい。	57
38. ボードゲームで新庄を豊かに	58
39. TASKI 塾 ～地元の魅力と防災編～	59
40. 古着トーーーク！（ヴィンテージファッション体験）	60
○ 令和4年度 新庄・最上ジモト大学 プログラム参加者アンケート結果	61
○ 令和4年度 新庄・最上ジモト大学 プログラム協力者アンケート結果	65
【記事・広報】	68
【新庄・最上ジモト大学推進コンソーシアム 規約】	85

目的・体制



「新庄・最上ジモト大学」の概要

最上地域の課題

- ・高校生の約5割が進学等により県外へ転出
- ・しかし、卒業後地元に戻らない傾向
- ・少子化は加速、地域課題も山積
- ・将来の地域を担う人材が不足



地域課題に対し
若い世代の関心を高め、
地域に貢献する次世代の
人材育成が必要

新庄・最上ジモト大学

地域の大人と高校生が
地域のことを**本気で語り、学び、交流する場**づくり

地域の大人



高校生

『新庄・最上ジモト大学推進 コンソーシアム』



《プログラムの企画運営》

- 官民においてプログラムを提供
- 内容：課題等の共有、認識のためのワークショップや体験活動等

《高等学校の活動との連携・協働》

- 地域における活動を通じた探究的な学びの実現
- 学校の中だけではできない多様な社会体験の推進

【実施方針】

安全・安心に実施するために、感染症防止対策を講じたうえで実施。

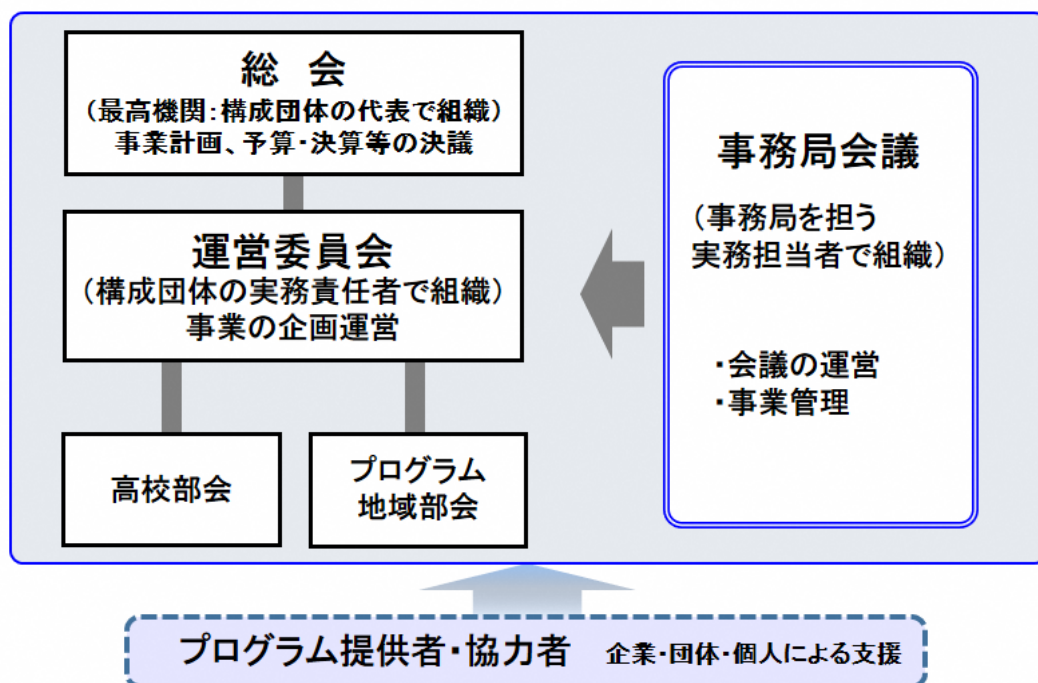
令和3年度からは、「尾花沢キャンパス」が加わる。

・北村山高等学校 ・尾花沢市 ・村山総合支庁 北村山地域振興局



新庄・最上ジモト大学推進コンソーシアム組織体制

(イメージ)



新庄・最上ジモト大学 に寄せて



「みんなで創り、みんなで学ぶプロジェクト」

東北芸術工科大学 デザイン工学部

コミュニティデザイン学科 専任講師 牛木 カ

ジモト大学に関わらせていただくようになって三年目が終わります。それぞれのプログラムの中に出会いがあり感動がありストーリーがあったことと思います。そんな中、私がコメントを残すこと自体恐縮ですが、こうして機会を頂けたことをありがたく思っています。私自身が、このジモト大学に触れる中で、こうした機会でなければ出会えなかった、多様な世代の、多様な立場の魅力的な方達とかけがえのない縁を頂き感謝でいっぱいです。

コロナ禍は終止符は打たれていないとはいえ、この三年間、実施すること自体困難の連続だったのではと思いますが、学びの機会を提供することをやめなかったことの価値は大きいと思います。多くの障壁がありながら、ここまでの間に、講座の数も、クオリティも、多様性も格段に進化し、そこに関わる高校生的人数も増えてきていることも見聞きしてきました。さらには、それぞれの講座を契機にしたその後の活躍や成長も実感できるレベルになってきています。

こうしたプログラム自体の充実も大事な点だと思うのですが、私は、ジモト大学という壮大なプロジェクトを通して新庄最上でこれまで積み重ねられてきた対話こそが財産なのではないかと思っています。多様なセクターにある大人同士がそれぞれに垣根を越えて語り合い、試行錯誤し、時に考え方の違いを感じ、それでもまた共感していくプロセスを繰り返しています。越境という言葉がありますが、とても勇気のいる行為です。自分の殻から飛び出なければいけず、時に大人ながら上手くいかない場面に出会ったり、自分の能力の不足に気づかされたりするからです。それでもそんな大人の姿にこそ、学びの種があります。

こうした世代を超えた対話や越境の経験を、次の進化につなげていくには、その中での学びや気づき、変化を記録することが欠かせないのではないのでしょうか。また、高校生の変容や高校生への働きかけだけではなく、大人がどう変わっていったか、何を学んでいったのかも言語化していく必要があるのではないのでしょうか。僕もこのジモト大学で自分にどんな学びや成長があったのか、しっかり言語化する時間が取れていません。ぜひこれに関わる皆さんと楽しみながら振り返ることができたら嬉しいです。それを繰り返す中で、ジモト大学が、体験や学び提供する場から、大人も高校生も、地域にとっても必要な新しい知見を生み出す場に変容していくのではないかと思います。

ジモト大学は、壮大なプロジェクトであり探究です。一人ではなく、一つの地域や学校で完結するのでもなく、みんなで遠くを目指すにはどうしたいいのか、目指すことで何が起こるのかを探究するための試みです。このプロジェクトの末端に加えていただいていることを嬉しく思うと共に、これからも皆さんと新しい地境を目指したいと思います。

社会参加の効力感

新庄南高等学校長 相澤 哲哉

コロナウィルス感染症拡大防止のため、今年度も学校では厳しい交流制限、生活制限が余儀なくされました。制限が多い学校生活による高校生の成長への悪影響を懸念しています。こんな中で、学校外での体験活動や交流活動など、生徒の成長の場を提供していただきました「新庄・最上ジモト大学」の関係者の皆様には深く感謝しております。特に、プログラムの企画・実施に当たってこられた皆様のご苦勞は、大変なものだったと拝察いたします。コロナ禍であっても決して悲観せず、諦めずに、情熱を持って取り組んで下さったことに重ねてお礼申し上げます。

さて、高校生の社会参加意識について考えさせられた報告書があります。それは、「高校生の社会参加に関する意識調査報告書 -日本・米国・韓国の比較-」（国立青少年教育振興機構 令和3年6月）です。この調査によると、日本の高校生は、10年前の調査と比較して社会参加の意義や必要性に対する意識が高まっているものの、社会に関与したくないという消極的な姿勢も示されました。

この結果に、同機構研究員の両角達平氏は、意見表明や社会参加の活動をする際に障壁や阻害があるからではないか。声をあげても影響力が発揮できず、変わらない現実直面することが常態化しているからではないか。故に、「関与したくない」「影響を与えられない」という社会参加への反発、あるいは諦めの感情が生じたと考えることはできないだろうか。と指摘した上で、信頼をベースに若者と大人が対等にかかわり、声を受容され、結果として提案による変化があろうがなかろうが、コミュニケーションが成立したという実感こそが、社会参加の効力感を生み出すのではないだろうか。と提言されています。

この「社会参加の効力感」を生み出した取組が今年度の新庄南高校総合ビジネス科にありました。それは、「課題研究」という、地域の活性化をテーマに生徒が地域で活動しながら活性化策を考える1年間の授業でした。上半期は、東北芸術工科大学の牛木先生がご指導されている学生が、生徒のグループ研究を学生メンターとして支援してくださり、活性化案を取りまとめ、「ゆめりあ」での発表までこぎつけました。ここで終わるのかと思いきや、活性化案を実行してみようと、生徒主体で下半期の研究活動は継続されました。そこで見えたのは、現場の大人と自らコミュニケーションし、計画を修正するなど細かく検討する姿でした。あるグループは、2月にコラッセ新庄で古着ショップの限定開店を実現させました。なぜ、生徒は自走したのか、それは、氏の提言どおり、最初に大学生、次に地元の大人が、信頼関係の中で生徒と対等に関わってくださり、生徒の声を受容し、コミュニケーションが成立したという実感を生徒に抱かせてくれた「社会参加の効力感」があったからではないかと考えています。

昔、生徒に「世の中は、君が学校を卒業して早く社会に出てくることを楽しみに待っているんだよ」と言ったところ、「先生！それは本当か！」と驚かれたことがあります。こんな当たり前のことが、もし高校生に伝わっていないとしたら、「競争」「生き抜く」「困難」が社会だと思っていないのでしょうか。新庄・最上の地元高校と「ジモト大学」が力を合わせて、社会を大切にする大人、社会から大切にされる大人に育てようと、コミュニティを創っていけば、高校生は自ずとジモトを大切にする大人、ジモトから大切にされる大人になろうとするのではないのでしょうか。

「学びの場が創る地域の未来」

新庄商工会議所 専務理事 佐藤 亜希子

ステージに立った彼らは、自信に満ち溢れ輝きを放っていました。去る2月4日に開催された「新庄・最上ジモト大学フォーラム」。令和4年度の集大成ともいうべき席上でおこなわれた、ジモト大学プログラム参加高校生による事例発表は、実に見事なプレゼンテーションが次々と繰り広げられました。会場にいた誰もが心を動かされたに違いありません。

地域が抱える課題に地域の大人と真剣に向き合い、その解決の糸口を探るために多くの学びを積み重ね、活動してきた時間は、きっと彼らの将来にとって大きな宝となるに違いありません。新庄最上地域の未来はきっと明るいものになる、そんな印象すら受けました。

今年6年目を迎えた「新庄・最上ジモト大学」。年数を重ねるごとに、事業自体がブラッシュアップされ、地域における認知度も大きくなっているように感じます。さらに、地元企業のプログラム提供も創出されるなど、地域全体で、高校生の学びや気づきの場を創っていかうというそんな思いが伝わります。このように官民が一体となった好循環の事業が展開できるのも、やはり新庄最上地域にとって若者の地元定着が大きな課題であるからなのではないかと感じています。誰もが地域の未来に危機感を抱いているからこそ、現状に真摯に向き合い、学生や企業、そして地域の大人たちの声を集め、活路を見出していこうという動きが、自然に生まれていくのかもしれませんが。まさにそれこそがジモト大学の取り組みなのではないかと思うのです。

少子高齢化を要因とする人口減少が続く中、地域内における事業者数も減少の一途をたどっています。厳しい状況の中ではありますが、新庄商工会議所としても地元企業の持続可能な経営環境の整備に向けた事業を日々展開しております。若者の地元定着を推進するためには、働く場の確保が最も重要です。生まれ育った場所で暮らしていくための環境を整備し、次世代にバトンを渡すこともまた、今ここに住む私たち大人が果たすべき大きな役割であると認識しております。

そういった意味においても、地域の大人と高校生がともに学びともに気づき、ともに行動することはとても重要であり意義があるものだと考えます。

フォーラムの席上、プログラムに携わった大人の方々のお話をおうかがいして感じたことがあります。それは、高校生に教えるのではなく、高校生とともに学ぼうという姿勢、そして実は高校生以上に大人の皆さんがこの事業自体を楽しまれているということです。高校生と同じフィールドに立つ。実はスポンジのように多くのことを吸収し、大人には思いつかないようなアイデアを生み出す若者に、私たち大人の方が学ぶことが多いのかもしれない。

ジモト大学を経験して巣立った高校生が、すでに社会人として羽ばたいている今こそ、このネットワークを生かして、緩やかな関係性を築いていけたらと願っています。改めてジモト大学が地域に果たす役割は、やはり大きいと感じます。だからこそ、これをしっかりと継続していけるような仕組みづくりをこれからも、地域がワンチームとなって進めていく必要があると思いますし、私も地域に住む一人として、その実現を期待しています。ジモト大学の灯りがずっとこの地域にとり続けますように。

令和4年度 事業報告



新庄・最上ジモト大学推進コンソーシアム 令和4年度事業一覧

1. ジモト大学プログラムの実施

プログラム数 40プログラム（当初：42プログラム、中止：2プログラム）

参加者数 781名

※各プログラムの実施状況については、別紙（P.21～P.60）のとおり

2. 事業への相互理解を図る取組み

（1）「新庄・最上ジモト大学フォーラム～地域に根ざしたジモト大学を目指して～」

日時：令和5年2月4日（土）10:00～11:45

場所：ゆめりあ 花と緑の交流広場

① ジモト大学の紹介

② 【第1部】ジモト大学プログラム参加高校生による事例発表

- ・高校生に学んでほしいSDGs

新庄北高等学校、(株)ヌマザワ

- ・ジモト食材改革！高校生発居酒屋メニュー開発作戦

新庄南高等学校金山校、金山町総合政策課

- ・ボードゲームで新庄を豊かに

新庄東高等学校、一般社団法人とらいあ

③ 【第2部】トークセッション

～高校生も大人も参加したい、学びたくなるジモト大学にするためには～

- ・ファシリテーター 東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科

専任講師 牛木 力氏

- ・第1部参加の皆さん



（2）新庄・最上ジモト大学オープンキャンパス

令和4年度プログラムの様子を紹介するパネル展示を実施。

日時：令和5年2月1日（水）～2月8日（水）

場所：ゆめりあ 花と緑の交流広場

日時：令和5年2月20日（月）～2月28日（火）

場所：最上総合支庁ロビー

日時：令和5年3月1日（水）～

場所：新庄市立図書館



3. ジモト大学の管理運営

(1) 総会

日時：令和4年4月19日（火）13:30～15:00

場所：最上総合支庁 講堂

- ・令和3年度事業報告及び収支決算
- ・令和4年度運営方針及び事業計画、収支予算
- ・運営委員の選任について

【講演】

大正大学 地域創生学部 教授 浦崎 太郎氏
～「最上級」のコンソーシアムに向けた次なる挑戦～



(2) 運営委員会

【第1回】

日時：令和4年5月24日（火）10:00～11:15

場所：わくわく新庄

- ・運営委員長の選出について
- ・令和4年度運営方針について
(令和4年度プログラムの実施について、効果検証の実施について)
- ・各団体から状況報告、意見交換

【第2回】

日時：令和5年3月15日（水）13:30～15:00

場所：ゆめりあ会議室

- ・令和4年度の実績報告及び収支決算について
- ・令和5年度運営方針及び事業計画、収支予算について

(3) ジモト大学説明会

日時：令和4年6月20日（月）～7月7日（木）

場所：全高校において実施

- ・ジモト大学の趣旨説明
- ・Web 申込システムへのユーザー登録方法の説明
- ・プログラム提供者によるプログラム内容の紹介



(4) プログラム勉強会

日時：令和4年6月28日(火) 10:00～11:30

場所：オンライン

【講義】

東北芸術工科大学デザイン工学部

コミュニティデザイン学科 専任講師 牛木 力氏

『若者参画のはしご』を元を考える、提供プログラムへの高校生の参画のあり方



(5) 高校部会

【第1回】

日時：令和4年5月24日(火) 11:25～11:50

場所：わくわく新庄

【第2回】

日時：令和4年10月17日(火) 10:00～11:30

場所：最上総合支庁 202 会議室

(6) プログラム地域部会

日時：令和4年11月22日(火) 18:45～21:00

開催方法：オンライン

【講話】 講師：横浜創英中学・高等学校長 工藤 勇一氏

テーマ：「社会の変化とこれからの学校の姿 ～自律と対話～」

4. 情報発信

- ・パンフレット(5,000部)
- ・ポスター(200部)の作成・配布
- ・SNS等での情報発信



(Facebook)



SHINJO.MOGAMI.JIMOTODAIKAKU

(Instagram)

5. 高校生の相談窓口

- ・プログラム提供を希望する高校生に対する伴奏支援
- ・プログラム終了後の探究活動に対する伴奏支援

6. 効果検証アンケートの実施

事業開始から6年目を迎え、プログラム提供のあり方等について見直しを図るため、これまでプログラム提供いただいた団体等を対象に、アンケート調査を実施。

※実施結果については、別紙(P.11～P.12)のとおり

新庄・最上ジモト大学 プログラム提供者アンケート実施結果

【概要】

1 調査目的

ジモト大学の活動に対して、企業・団体等を含めた地域住民のさらなる理解を得て参画を促していくため、プログラム提供者が感じている効果や課題等を把握するアンケート調査を実施。

2 調査対象

平成 29 年度から令和 4 年度まで、プログラムを提供した市町村、企業・団体等。

計 43 団体（内訳：市町村 9、県機関 5、企業・団体 29）

3 調査項目

【市町村・県】 ・ 実際感じている効果（自団体としての効果、地域内における効果）

・ プログラム提供を行ううえでの課題

・ プログラム提供の進め方等についての改善点

・ 企業・団体等の参画を広げていくために必要な取り組み

・ 今後さらに高校生と地域との結びつきを強めていくために必要な取り組み

【企業・団体】 ・ プログラム提供理由

・ 企業・団体等がジモト大学に参画する意義

・ 実際感じている効果

・ プログラム提供を行ううえでの課題

・ プログラム提供の進め方等についての改善点

・ プログラム提供以外のサポートの在り方

・ 地域への関心や参画度合いを高めていくためのアイデア

4 調査期間

令和 4 年 9 月 9 日～令和 5 年 2 月 28 日

5 調査方法

電子メールにより調査票（エクセル）を送付

6 回答数

市町村 8、県機関 4、企業・団体 8 計 20 団体

【調査結果（主なもの）】

（１）市町村、県機関が感じている効果について （回答 12 団体）

- 「高校生（若い世代）の考えやニーズを把握する機会」として効果を感じるという声が最も多い。
 - ・感想や意見を直接聞けるため、プログラムや関係事業のブラッシュアップが図れる。
 - ・プログラム終了後も町に関わってくれるようになり、高校生の考え等を聞く機会が増えた。
- 次に、「プログラムに関わった職員の育成の機会」として効果を感じるという声が多い。
 - ・職員にとって、普段の業務を超えて町を深く知る機会となっている。
 - ・企画運営、関係者との連携、当日までの段取り等のノウハウを実践的に学ぶことができる。
- 「施策等の周知・普及の機会」、「既存事業の見直しや新たな事業の検討・試行の機会」としても概ね効果を感じている。
 - ・プロジェクトや条例について、高校生に周知し、興味・関心を持ってもらう良い機会になっている。
 - ・地域おこし協力隊員の新たな事業の検討・試行の場として活用している。

（２）企業・団体の有益・有意義に感じている点について （回答 8 団体）

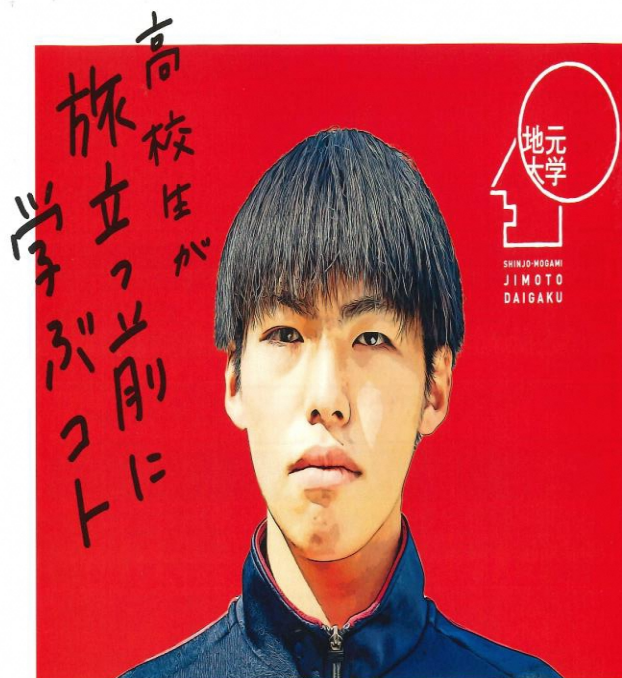
- 「若い世代の考え方やニーズが把握できる」、「高校生との活動を通して自社の振り返りができる」、「新たな気づきや学びを得られる」などの意見。
 - ・企業のビジョン等に触れることで、高校生が自身の将来を思い描くことにつながる。
 - ・親と教師以外の大人と交流することで、高校生が物事の見方や考え方を変えていくきっかけとなる。
 - ・地域内で新たなつながりを作ることができる。
 - ・自社について若い世代に知ってもらえる有効な機会。
 - ・活動を通して新しい視点に気付くことができた。
 - ・高校生の考えや価値観等に触れることで、自社の活動の振り返りができる。
 - ・高校生が自分たちの力で課題を乗り越えていく姿から元気をもらっている。

（３）プログラム提供における課題

- 「参加高校生の確保」が最も多い。
 - ・学校の年間スケジュールや部活動の予定との事前のすり合わせが必要。
 - ・高校生が参加したいプログラムになるよう助言や情報提供がほしい。
 - ・域外の高校への周知の強化が必要。
- 事務手続きについての主な意見
 - ・パンフレット作成までに実施時期や内容を固めることが難しい。
 - ・報告書作成に時間を要する。
 - ・プログラム実施時期の柔軟化。

（４）ジモト大学のこれからに向けた提案

- ・プログラムを直接提供していなくても何らかの形で協力できる等の企業や団体を募り、情報提供してもらえると連携して取り組める。
- ・高校生自らがプログラム提供しやすいよう、予算面や運営支援等、地域の大人がサポートする体制があると良い。



新庄・最上ジモト大学2022開校

高校生と語る。地域を考える。新しいジモトと出会う。
それって 将来楽しみじゃん。

ジモト世代。

2022.7.16-2023.1.31

上京してもいい。でもいつか大人になった時に、この地域を引き継いで欲しい。
そんな大人たちの熱い思いと対話するプロジェクトが今年もスタート。

主催：新庄・最上ジモト大学推進コンソーシアム 問い合わせ先：一般社団法人とらいあ
Tel&Fax 0233-29-8150 E-MAIL toraia@ic-net.or.jp 事務局携帯 070-4200-1929
事務局：山形県最上総合支庁総務課連携支援室 一般社団法人とらいあ
撮影協力：地域開発チーム WATS

公式WEB



公式Facebook



新庄・最上ジモト大学2022開校

地域を知る。大人とつながる。新たなジブンと出会う。
それって 結構おもしろいじゃん。

ジモト世代。

2022.7.16-2023.1.31

学校では学べない、卒業前に学んでおきたいヒト、モノ、コトを
地域の大人と学ぶ講座が今年もスタート

主催：新庄・最上ジモト大学推進コンソーシアム 問い合わせ先：一般社団法人とらいあ
Tel&Fax 0233-29-8150 E-MAIL toraia@ic-net.or.jp 事務局携帯 070-4200-1929
事務局：山形県最上総合支庁総務課連携支援室 一般社団法人とらいあ
撮影協力：地域開発チーム WATS

公式WEB



公式Facebook



注意事項

1. 新型コロナウイルス感染症の流行により、プログラムが変更または中止になる場合があります。詳しくはQRコードを読み取り、確認もしくは問合せ先までご連絡ください。
2. WEB会議システム(ZOOM等)を利用することがあります。
操作方法がわからない場合は問合せ先までご相談ください。
3. 新型コロナウイルス感染症予防のために下記をお読みになりご参加ください。
 - ① 三密【密集(ぎゅぎゅう)・密接(がやがや)・密閉(むんむん)]をさげましょう。
 - ② マスク・手洗い・手指の消毒にこころがけましょう。
 - ③ 風邪等の症状がある場合はプログラムへの参加をひかえましょう。
 - ④ 日ごろから健康管理をしましょう。

プログラムのカテゴリー		★マークは各プログラム自体の企画・運営への高校生の受入れが可能なプログラムです。希望者は問合せ先までご連絡ください。		内容	QRコード
黄色	は「キャリア」			日程	場所・定員など
緑色	は「体験・フィールドワーク」				
水色	は「課題発見・解決」				

大人と高校生の

グランドルール

(参加者が守るべき共有するルール！)



地元のことを
よく知ろう！



もっと自分から
積極的に語ろう！



ともに本気で
学ぼう！

グランドルール **Love** のルール

① よく聞こう！
聴こう！！

② 心を開こう！

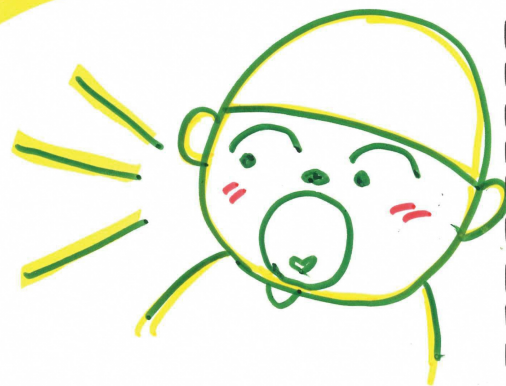


Listen

Open

③ 声を出そう！

④ 楽しもう！



Voice

Enjoy

令和4年度 新庄・最上ジモト大学プログラム 参加者数（高校別・延べ人数）

	開催者 (所属)	カテゴリ	プログラム名	開催時期	開催場所	定員	参加者数 合計	定員 充足率	新庄北	新庄北 最上校	新庄南	新庄南 金山校	神室産業	神室産業 真室川校	新庄東	北村山	その他
1	新庄市 総合政策課	体験・ フィールド ワーク	城下町・新庄 謎解き ウォークラリー	9月17日(土) 9:00～12:00	新庄市役所、 新庄城址周辺	15	25	167%	25								
2	新庄市 総合政策課	課題発 見・解決	自分の命と地域を災害 から守ろう！	10月1日(土) 10:00～12:00	新庄市民プラザ	20	14	70%	8		6						
3	新庄市 成人福祉課	キャリア	「手で話そう」～手話通 訳という資格を知ろう～	①8月6日(土) 10:00～12:00 ②9月3日(土) 10:00～12:00	新庄市民プラザ 他	20 20	8 6	40% 30%	3 4		5 2						
4	金山町 総合政策課	課題発 見・解決	ジモト食材革命！高校 生発 居酒屋メニュー開 発作戦	①7月28日(木) 15:45～ ②9月13日(火) 15:45～17:30 ③10月9日(日) 10:00～12:00	金山町中央公民館 他	 10 10	0 10 7	 100% 70%	 3			7 7					
5	最上町 地域おこし協力 隊	体験・ フィールド ワーク	モノづくりの面白さ～「好 き」を仕事に～	①8月4日(木) 10:00～12:00 ②10月16日(日) 10:00～12:00	前森高原自然ふれ あい陶芸館「カムロ 窯」	10 10	10 5	100% 50%	9 4						1 1		
6	舟形町 まちづくり課	体験・ フィールド ワーク	君とつくる地図～巡って 撮ってアップする、デジタ ル観光マップ～	①8月10日(水) 10:00～13:00 ②12月4日(日) 10:00～12:00	舟形町役場、 舟形町内各地	3 3	4 3	133% 100%	1 1						3 2		
7	真室川町 企画課	体験・ フィールド ワーク	まちの魅力をカタチにし たら～ノベルティで町を PR～	①7月30日(土) 10:00～12:00 ②8月12日(金) 13:00～15:00 ③10月2日(日) 10:00～12:00	真室川町役場 町民研修室	10 10 10	3 2 3	30% 20% 30%	1				2 2 2				
8	大蔵村 総務課	キャリア	役場の仕事をみてみよ う！	1月31日(火) 14:00～17:00	大蔵村役場	5	7	140%					3		4		
9	鮭川村 総務課	体験・ フィールド ワーク	愛の不時着～サケ編～	11月20日(日) 6:15～10:00	鮭川、 鮭川村中央公民館	10	2	20%	1						1		
10	戸沢村 まちづくり課	体験・ フィールド ワーク	オリジナル地元新聞を作 ろう！	2月18日(土) 9:30～15:30	戸沢村内	6	3	50%							3		
11	尾花沢市 定住応援課	体験・ フィールド ワーク	ヨット体験＆イベント運営 にチャレンジ-徳良湖が 作る歴史とドラマ-	①7月27日(水) 9:00～12:30 ②8月11日(水) 9:00～12:30	徳良湖ヨット倶楽部	10 10	4 11	40% 110%			4				1	8	
12	尾花沢市 定住応援課	課題発 見・解決	学んで発信！美味しい、 楽しい、おばねそば！	9月3日(土) 10:20～14:45	尾花沢市共同福祉 施設 他	20	8	40%	1							7	
13	尾花沢市 定住応援課	課題発 見・解決	「ふるさとからの返礼品」 探求プロジェクト	①8月18日(木) 15:00～16:45 ②9月16日(金) 16:30～18:00	北村山高等学校 北村山高等学校	30 30	36 30	120% 100%							5	31 30	
14	尾花沢市 定住応援課	課題発 見・解決	高校生の君とふるさと。 聞いて、感じて、伝える おばね	7月31日(日) 9:00～15:00	北村山高等学校 内、 尾花沢市内		0										
15	最上総合支庁 保健企画課	キャリア	医療福祉座談会	8月4日(木) 13:45～16:00	新庄市民プラザ	65	57	88%	23		20	2			12		
16	最上総合支庁 保健企画課	キャリア	医療現場見学会	①8月9日(火) 14:00～16:00 ②8月10日(水) 14:00～16:00	医療法人徳洲会新 庄徳洲会病院	 	0 0										
17	最上総合支庁 地域産業経済 課	キャリア	しごと……～若手従 業員のリアルなお話～	7月22日(金) 13:00～15:45	①新庄南高等学校 金山校	45	39	87%				39					
18				8月30日(月) 12:40～15:45	②新庄北高等学校	150	91	61%	91								
19				9月22日(木) 15:20～17:45	③新庄神室産業高 等学校	40	23	58%				23					
20				11月10日(木) 13:00～15:45	④新庄南高等学校	100	70	70%			70						
21				10月28日(金) 13:00～15:35	⑤新庄東高等学校	30	33	110%							33		
22				12月15日(木) 13:20～15:20	⑥新庄北高等学 校最上校	40	15	38%		15							
23				1月19日(木) 9:00～11:40	⑦新庄神室産業高 等学校真室川校	20	16	80%						16			
24	最上総合支庁 建設総務課	キャリア	ふるさとをまより未来をつ くる土木技術者たちのほ なし	10月27日(木) 10:00～12:00	新庄神室産業高 等学校	50	38	76%			2		17		19		

	開催者 (所属)	カテゴリ	プログラム名	開催時期	開催場所	定員	参加者数 合計	定員 充足率	新庄北	新庄北 最上校	新庄南	新庄南 金山校	神室産業	神室産業 真室川校	新庄東	北村山	その他
25	最上教育事務所	課題発見・解決	Youは何する？最上(てっぺん)で！	①7月29日(金) 17:30～19:00	Fiesta(こらっせ新庄)	15	6	40%	1		5						
				②9月16日(金) 17:30～19:00	ゆめりあ会議室	15	4	27%	1		3						
				③10月1日(土) 10月15日(土)	神室少年自然の家 あすラジ	15	5	33%	1		4						
26	最上小国川清流未来振興機構	体験・フィールドワーク	最上小国川鮎釣り甲子園大会～最上小国川の文化に触れる～	7月30日(土) 8:00～13:00	最上小国川 下白川橋付近 おらだの川公園(最上町)	30	24	80%	17		7						
27	有限会社カイセイカンパニー	体験・フィールドワーク	バズるデイスービスの夏祭り	①7月26日(火) 13:00～17:00	カイセイまっと新庄		0		中止								
				②8月2日(火) 13:30～15:00			0										
				③8月9日(火) 13:20～15:20		3	6	200%	1		2				1		2
28	glassydesign	キャリア	モガミノロシ MOGAMI NO NOROSHI	10月30日(日) 12:30～17:00	最上広域交流センター「ゆめりあ」	30	8	27%	3						5		
29	株式会社JPD	体験・フィールドワーク	企業広告を作って、サイネージで流そう！	8月9日(火) 9:00～17:00	最上広域交流センター「ゆめりあ」	8	7	88%	3		2				2		
30	株式会社スマザワ	課題発見・解決	高校生に学んでほしいSDGs	8月5日(金) 13:00～17:00	Fiesta(こらっせ新庄)	9	3	33%	3								
31	ユニクロ 新庄店	体験・フィールドワーク	ユニクロに潜入！全身ユニクロコーデスタイリングに挑戦！	①7月24日(日) 8:00～10:00	ユニクロ新庄店	10	9	90%	7								2
				②8月7日(日) 8:00～10:00		10	12	120%	9		3						
32	株式会社宮城	体験・フィールドワーク	今年の祭りは浴衣で出掛けよう！	①7月23日(土) 10:30～12:00	呉服のみやぎ	10	3	30%			1					2	
				②8月20日(土) 10:30～12:00		10	11	110%	2		7				2		
33	新庄TOM株式会社	キャリア	新庄オリジナルの財布をデザインして全国に発信しよう	①7月28日(金) 17:00～19:00	こらっせ新庄1階 Fiesta	6	6	100%	3		2				1		
				②8月8日(月) 17:00～19:00		6	6	100%	2						4		
				③8月19日(金) 17:00～19:00		6	5	83%	2						3		
34	東京電力リニューアブルパワー株式会社	キャリア	「18歳のリアル」ジブンとエネルギー社会のあした	11月12日(土) 13:00～16:00	雪の里情報館	20	4	20%	4								
35	M-Fluffy English-	キャリア	Under construction！高校生たちがイチから作り上げるプログラム	2月1日(水) 13:00～15:00	オンライン	30	2	7%					1		1		
36	認定NPO法人IVY	課題発見・解決	グローバル経済をシミュレーションするワークショップ	12月18日(日) 13:30～16:00	未定	25	4	16%	2						2		
37	市民活動団体Feel	体験・フィールドワーク	作って食べよう！これから一人暮らしをはじめる君に捧げるYouTube動画作成 part2	8月7日(日) 9:30～12:00	新庄市民プラザ 調理実習室		0		中止								
				12月10日(土) 13:30～15:30		9	15	167%	9		6						
38	高校生地域開発チームWATS	体験・フィールドワーク	YouTubeライブ配信でかたるにやあ～♪	7月17日(日) 13:00～16:00	スタイルハート	10	3	30%					1		2		
39	地域活動グループよりみちくら部	体験・フィールドワーク	推し語りしたくないか？俺はしたい。	①7月31日(日) 10:00～16:00	最上広域交流センター「ゆめりあ」	16	10	63%	9		1						
				②8月7日(日) 10:00～16:00	新庄市民プラザ	16	6	38%	4		2						
				③9月4日(日) 10:00～16:00	新庄市民プラザ	16	3	19%	3								
40	ボードゲーム三国同盟	体験・フィールドワーク	ボードゲームで新庄を豊かに	①7月30日(土) 10:00～14:00	新庄市民プラザ	20	16	80%	5		8				3		
				②12月28日(水) 9:30～12:30	雪の里情報館	20	13	65%	5		2				6		
41	尚絅学院大学ボランティアチームTASKI	課題発見・解決	TASKI塾 ～地元の魅力と防災編～	9月17日(土) 10:00～12:30	オンライン	10	2	20%	2								
42	東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科	体験・フィールドワーク	古着トーーク！(ヴィンテージファッション体験)	7月16日(土) 13:00～15:00	新庄市民プラザ	10	5	50%			5						
合計						1197	781	65%	276	15	169	55	51	16	117	78	4

令和4年度 新庄・最上ジモト大学プログラム 参加者数（市町村別・延べ人数）

	開催者 (所属)	カテゴリ	プログラム名	開催時期	開催場所	定員	参加者数 合計	定員 充足率	新庄市	金山町	最上町	舟形町	真室川町	大蔵村	鮭川村	戸沢村	尾花沢市	その他
1	新庄市 総合政策課	体験・ フィールド ワーク	城下町・新庄 謎解き ウォークラリー	9月17日(土) 9:00～12:00	新庄市役所、 新庄城址周辺	15	25	167%	14	2		2	4	2		1		
2	新庄市 総合政策課	課題発 見・解決	自分の命と地域を災害か ら守ろう！	10月1日(土) 10:00～12:00	新庄市民プラザ	20	14	70%	7		3		2	1	1			
3	新庄市 成人福祉課	キャリア	「手で話そう」～手話通訳 という資格を知ろう～	①8月6日(土) 10:00～12:00 ②9月3日(土) 10:00～12:00	新庄市民プラザ 他	20 20	8 6	40% 30%	5 4	1 1			1	1				1
4	金山町 総合政策課	課題発 見・解決	ジモト食材革命！高校生 発 居酒屋メニュー開発 作戦	①7月28日(木) 15:45～ ②9月13日(火) 15:45～17:30 ③10月9日(日) 10:00～12:00	金山町中央公民館 他	 10 10	0 10 7	 100% 70%	 4 2	 4		1 1 5	1					
5	最上町 地域おこし協 力隊	体験・ フィールド ワーク	モノづくりの面白さ～「好 き」を仕事に～	①8月4日(木) 10:00～12:00 ②10月16日(日) 10:00～12:00	前森高原自然ふれ あい陶芸館「カムロ 窯」	10 10	10 5	100% 50%	6 3		2 1		1				1 1	
6	舟形町	体験・ フィールド ワーク	君とつくる地図～巡って 撮ってアップする、デジタ ル観光マップ～	①8月10日(水) 10:00～13:00 ②12月4日(日) 10:00～12:00	舟形町役場、 舟形町内各地	3 3	4 3	133% 100%		1 1		3 2						
7	真室川町 企画課	体験・ フィールド ワーク	まちの魅力をかたちにした ら～ノベルティで町をPR ～	①7月30日(土) 10:00～12:00 ②8月12日(金) 13:00～15:00 ③10月2日(日) 10:00～12:00	真室川町役場 町民研修室	10 10 10	3 2 3	30% 20% 30%					3 2 3					
8	大蔵村 総務課	キャリア	役場の仕事をみてみよう！	1月31日(火) 14:00～17:00	大蔵村役場	5	7	140%	2	2			2	1				
9	鮭川村 総務課	体験・ フィールド ワーク	愛の不時着～サケ編～	11月20日(日) 6:15～10:00	鮭川、 鮭川村中央公民館	10	2	20%	2									
10	戸沢村 まちづくり課	体験・ フィールド ワーク	オリジナル地元新聞を作 ろう！	2月18日(土) 9:30～15:30	戸沢村内	6	3	50%	1							1		1
11	尾花沢市 定住応援課	体験・ フィールド ワーク	ヨット体験&イベント運営 にチャレンジ-徳良湖が作 る歴史とドラマ-	①7月27日(水) 9:00～12:30 ②8月11日(水) 9:00～12:30	徳良湖ヨット倶楽部	10 10	4 11	40% 110%	3 3							1		4 4
12	尾花沢市 定住応援課	課題発 見・解決	学んで発信！美味しい、 楽しい、おばねそば！	9月3日(土) 10:20～14:45	尾花沢市共同福祉 施設 他	20	8	40%	1				1				6	
13	尾花沢市 定住応援課	課題発 見・解決	「ふるさとからの返礼品」 探求プロジェクト	①8月18日(木) 15:00～16:45 ②9月16日(金) 16:30～18:00	北村山高等学校	30 30	36 30	120% 100%	3 1		3		1				9 10	20 18
14	尾花沢市 定住応援課	課題発 見・解決	高校生の君とふるさと。 聞いて、感じて、伝えるお ばね	7月31日(日) 9:00～15:00	北村山高等学校 内、 尾花沢市内		0					中止						
15	最上総合支 庁 地域産業経 済課	キャリア	しごとーーーク～若手従 業員のリアルなお話～	8月4日(木) 13:45～16:00	①新庄南高等学校 金山校	45	39	87%	13	24			1		1			
16				①8月9日(火) 14:00～16:00	②新庄北高等学校	150	91	61%	55	4	6		10	2	3	3	7	1
17				②8月10日(水) 14:00～16:00	③新庄神室産業高 等学校	40	23	58%	14		2	2	3	2				
18				7月22日(金) 13:00～15:45	④新庄南高等学校	100	70	70%	41	5	6	2	2	1	6	6	1	0
19				8月30日(月) 12:40～15:45	⑤新庄東高等学校	30	33	110%	15	3	4	5	1			1	2	2
20				9月22日(木) 15:20～17:45	⑥新庄北高等学校 最上校	40	15	38%	3		9						2	1
21				11月10日(木) 13:00～15:45	⑦新庄神室産業高 等学校真室川校	20	16	80%	2				9		2	3		
22	最上総合支 庁 保健企画課	キャリア	医療福祉座談会	10月28日(金) 13:00～15:35	新庄市民プラザ	65	57	88%	28	4	10	3	4	1	4	1	1	1
23	最上総合支 庁 保健企画課	キャリア	医療現場見学会	12月15日(木) 13:20～15:20 1月19日(木) 9:00～11:40	医療法人徳洲会新 庄徳洲会病院	 0 0	 0 0	 	 	 	 	中止						
24	最上総合支 庁 建設総務課	キャリア	ふるさとをまより未来をつ くる土木技術者たちのはな し	10月27日(木) 10:00～12:00	新庄神室産業高 等学校	50	38	76%	18	4	4	2	6			1		3

	開催者 (所属)	カテゴリ	プログラム名	開催時期	開催場所	定員	参加者数 合計	定員 充足率	新庄市	金山町	最上町	舟形町	真室川町	大蔵村	鮭川村	戸沢村	尾花沢市	その他
25	最上教育事務所	課題発見・解決	Youは何する？最上(てっぺん)で！	①7月29日(金) 17:30～19:00	Fiesta(こらっせ新庄)	15	6	40%	1	1	1	1		1	1			
				②9月16日(金) 17:30～19:00	ゆめりあ会議室	15	4	27%	1			1		1	1			
				③10月1日(土) 10月15日(土)	神室少年自然の家 あすラジ	15	5	33%	1		1	1		1	1			
26	最上小国川清流未来振興機構	体験・フィールドワーク	最上小国川鮎釣り甲子園大会～最上小国川の文化に触れる～	7月30日(土) 8:00～13:00	最上小国川 下白川橋付近 おらだの川公園(最上町)	30	24	80%	16		4	2	1			1		
27	有限会社カイセイカンパニー	体験・フィールドワーク	バズのデイスービスの夏祭り	①7月26日(火) 13:00～17:00	カイセイほっと新庄		0					中止						
				②8月2日(火) 13:30～15:00			0											
				③8月9日(火) 13:20～15:20		3	6	200%	4		1							1
28	glassydesign	キャリア	モガミノノシ MOGAMI NO NOROSHI	10月30日(日) 12:30～17:00	最上広域交流センター「ゆめりあ」	30	8	27%	4	1	1				1		1	
29	株式会社JPD	体験・フィールドワーク	企業広告を作って、サイネージで流そう！	8月9日(火) 9:00～17:00	最上広域交流センター「ゆめりあ」	8	7	88%	6								1	
30	株式会社スマザワ	課題発見・解決	高校生に学んでほしいSDGs	8月5日(金) 13:00～17:00	Fiesta(こらっせ新庄)	9	3	33%	2								1	
31	ユニクロ 新庄店	体験・フィールドワーク	ユニクロに潜入！全身ユニクロコーデスタイリングに挑戦！	①7月24日(日) 8:00～10:00	ユニクロ新庄店	10	9	90%	3	1			1			2	2	
				②8月7日(日) 8:00～10:00		10	12	120%	7	1	1		2				1	
32	株式会社宮城	体験・フィールドワーク	今年の祭りは浴衣で出掛けよう！	①7月23日(土) 10:30～12:00	呉服のみやぎ	10	3	30%									1	2
				②8月20日(土) 10:30～12:00		10	11	110%	6			1	4					
33	新庄TCM株式会社	キャリア	新庄オリジナルの財布をデザインして全国に発信しよう	①7月28日(金) 17:00～19:00	こらっせ新庄1階 Fiesta	6	6	100%	3			1				1		1
				②8月8日(月) 17:00～19:00		6	6	100%	2		3							1
				③8月19日(金) 17:00～19:00		6	5	83%	2		2							1
34	東京電力ニューアブルパワー株式会社	キャリア	「18歳のリアル」ジブンとエネルギー社会のあした	11月12日(土) 13:00～16:00	雪の里情報館	20	4	20%	3				1					
35	M-Fluffy English	キャリア	Under construction！高校生たちがイチから作り上げるプログラム	2月1日(水) 13:00～15:00	オンライン	30	2	7%	1				1					
36	認定NPO法人IVY	課題発見・解決	グローバル経済をシミュレーションするワークショップ	12月18日(日) 13:30～16:00	未定	25	4	16%	3									1
37	市民活動団体Feel	体験・フィールドワーク	作って食べよう！これから一人暮らしをはじめる君に捧げるYouTube動画作成 part2	8月7日(日) 9:30～12:00	新庄市民プラザ 調理実習室		0					中止						
				12月10日(土) 13:30～15:30		9	15	167%	10				1		2		2	
38	高校生地域開発チームWATS	体験・フィールドワーク	YouTubeライブ配信でかたるにやあ～♪	7月17日(日) 13:00～16:00	スタイルハート	10	3	30%	2	1								
39	地域活動グループ よりみちくら部	体験・フィールドワーク	推し語りしたくないか？俺はしたい。	①7月31日(日) 10:00～16:00	最上広域交流センター「ゆめりあ」	16	10	63%	6	1	1	1					1	
				②8月7日(日) 10:00～16:00	新庄市民プラザ	16	6	38%	5			1						
				③9月4日(日) 10:00～16:00	新庄市民プラザ	16	3	19%				1	1				1	
40	ボードゲーム三国同盟	体験・フィールドワーク	ボードゲームで新庄を豊かに	①7月30日(土) 10:00～14:00	新庄市民プラザ	20	16	80%	11	1	1		2					1
				②12月28日(水) 9:30～12:30	雪の里情報館	20	13	65%	8	2	1						1	1
41	岡崎学院大学ボランティアチーム TASKI	課題発見・解決	TASKI(塾 ～地元の魅力と防災編～	9月17日(土) 10:00～12:30	オンライン	10	2	20%	2									
42	東北芸術工科大学コミュニケーションデザイン学科	体験・フィールドワーク	古着トーーーク！(ヴィンテージファッション体験)	7月16日(土) 13:00～15:00	新庄市民プラザ	10	5	50%	2			1	2					
合計						1197	781	65%	359	67	67	33	79	14	23	22	56	61

令和4年度 新庄・最上ジモト大学プログラム 参加者数（高校別・実人数）

	生徒数（R4.5.1現在）				参加生徒数（実人数）				参加率			
	学年	男	女	計	学年	男	女	計	学年	男	女	計
新庄北高	1年	72	65	137	1年	70	62	132	1年	97.2%	95.4%	96.4%
	2年	86	71	157	2年	4	11	15	2年	4.7%	15.5%	9.6%
	3年	79	73	152	3年	2	14	16	3年	2.5%	19.2%	10.5%
	計	237	209	446	計	76	87	163	計	32.1%	41.6%	36.5%
新庄北高 （最上校）	1年	3	8	11	1年	1	6	7	1年	33.3%	75.0%	63.6%
	2年	6	6	12	2年	3	5	8	2年	50.0%	83.3%	66.7%
	3年	12	7	19	3年	0	0	0	3年	0.0%	0.0%	0.0%
	計	21	21	42	計	4	11	15	計	19.0%	52.4%	35.7%
新庄南高	1年	27	57	84	1年	23	48	71	1年	85.2%	84.2%	84.5%
	2年	40	55	95	2年	30	39	69	2年	75.0%	70.9%	72.6%
	3年	34	60	94	3年	4	7	11	3年	11.8%	11.7%	11.7%
	計	101	172	273	計	57	94	151	計	56.4%	54.7%	55.3%
新庄南高 （金山校）	1年	7	8	15	1年	6	5	11	1年	85.7%	62.5%	73.3%
	2年	7	7	14	2年	7	5	12	2年	100.0%	71.4%	85.7%
	3年	6	11	17	3年	6	10	16	3年	100.0%	90.9%	94.1%
	計	20	26	46	計	19	20	39	計	95.0%	76.9%	84.8%
新庄神室産業高	1年	50	28	78	1年	1	2	3	1年	2.0%	7.1%	3.8%
	2年	55	30	85	2年	20	23	43	2年	36.4%	76.7%	50.6%
	3年	75	42	117	3年	1	0	1	3年	1.3%	0.0%	0.9%
	計	180	100	280	計	22	25	47	計	12.2%	25.0%	16.8%
新庄神室産業高 （真室川校）	1年	3	6	9	1年	3	5	8	1年	100.0%	83.3%	88.9%
	2年	5	6	11	2年	3	5	8	2年	60.0%	83.3%	72.7%
	3年	8	6	14	3年	0	0	0	3年	0.0%	0.0%	0.0%
	計	16	18	34	計	6	10	16	計	37.5%	55.6%	47.1%
新庄東高	1年	94	57	151	1年	4	4	8	1年	4.3%	7.0%	5.3%
	2年	62	50	112	2年	43	27	70	2年	69.4%	54.0%	62.5%
	3年	69	40	109	3年	0	4	4	3年	0.0%	10.0%	3.7%
	計	225	147	372	計	47	35	82	計	20.9%	23.8%	22.0%
北村山高	1年	17	13	30	1年	0	2	2	1年	0.0%	15.4%	6.7%
	2年	16	25	41	2年	14	23	37	2年	87.5%	92.0%	90.2%
	3年	17	30	47	3年	1	5	6	3年	5.9%	16.7%	12.8%
	計	50	68	118	計	15	30	45	計	30.0%	44.1%	38.1%
合 計	1年	273	242	515	1年	108	132	240	1年	39.6%	54.5%	46.6%
	2年	277	250	527	2年	110	115	225	2年	39.7%	46.0%	42.7%
	3年	300	269	569	3年	13	35	48	3年	4.3%	13.0%	8.4%
	計	850	761	1,611	計	231	282	513	計	27.2%	37.1%	31.8%
その他	出典：山形県学校名鑑				学年	男	女	計				
					1年	0	2	2				
					2年	0	0	0				
					3年	0	2	2				
					計	0	4	4				

カテゴリー	体験・フィールドワーク			提供者	新庄市総合政策課			
プログラム名	城下町・新庄 謎解きウォークラリー							
日時	①令和4年9月17日（土）9：00～12:00			場所	新庄城址周辺			
	②				新庄市役所301・302会議室			
	③							
協力者								
参加者(延べ)	高校生	25人		地域の大人・大学生	3人		合計	28人
目的 （地域課題・達成目標）	新庄藩初代藩主・戸沢政盛公が新庄に城を築いてから400年を迎える中、地域の歴史的資源に対する認知度向上を図る。 ※シビックプライド（まちに対する誇りを持ち、自分自身が関わって地域を良くしていこうとする当事者意識）を醸成する足掛かりとする。							
プログラム 内容	町名の由来等が記載された標柱をチェックポイントに、グループで、新庄の歴史に関するクイズを解きながら新庄城址周辺を回るウォークラリーを行った。ウォークラリー前には、新庄藩主戸沢家や藩主が行ったまちの整備が現在の町名に継承されていること等を伝えた。振り返りでは、体験から得られた気づきを言語化し、次の行動に促すため「やったこと」「気づいたこと」「今日知ったことを誰に伝えるか」をまとめた。							
実施に 当たって の工夫	・新庄市の歴史について“楽しみながら”学ぶ機会とするため、クイズを解きながら新庄城址周辺を歩くウォークラリー形式とした。 ・グループでの活動となるため、最初にアイスブレイクの時間をとった。 ・ウォークラリー後の振り返りでは、個人ワーク後に班及び全体での発表を行い、参加者の気づきを全体で共有した。							
目的に対する 成果	アンケートによると「今まで知らなかった地域の魅力を知ることができた」と全員が回答。「今回のプログラムを通じてもっと地域のことを勉強したり、地域と関わりを持ちたいか」との問いには、「とてもそう思う」「そう思う」合わせると100%であった。地域の歴史的資源に対する認知度向上を図ることができたと考える。							
所感・感想 改善点	今回のプログラムを通じて、多くの高校性がもっと地域のことを勉強したり地域と関わりを持ちたいと感じてくれた。ジモト大学を1つのきっかけとして、地域活動等に関心の高い生徒がその後も継続して活動ができるような、地域活動団体や市民活動団体と繋がりをつくるプログラム等も検討していきたい。							
高校生の声	・新庄市は、江戸時代からの歴史的風景を保存し、より多くの人に伝えようとしていることを知った。 ・今まであまり気にしていなかった標柱の説明を見てなるほどと関心することがたくさんあった。 ・新庄市の歴史や街の風景などを改めて知り、地域の理解がより深まるようなことを学んだ。							

活動の様子

新庄藩主・戸沢政盛公や城下のつくりについて学ぶ



標柱に書かれた旧町名の由来を読みながら、クイズを解く①



標柱に書かれた旧町名の由来を読みながら、クイズを解く②



新庄北の生徒が参加してくれました



カテゴリー	課題発見・解決	提供者	新庄市総合政策課
プログラム名	自分の命と地域を災害から守ろう！		
日時	①令和4年10月1日（土）10:00～12:00	場所	新庄市民プラザ 大ホール
協力者	ウェザーハート災害福祉事務所 代表 千川原 公彦氏（講師）		
参加者(延べ)	高校生 14 人	地域の大人・大学生 8 人	合計 22 人

目的 (地域課題・達成目標)	地震や水害等の自然災害が多い日本において、地域コミュニティの希薄化による地域の防災意識低下を防ぐため、地域の大人と若者が一緒に地域防災について考え、その大切さを学ぶことで、災害発生時に地域の中で具体的な行動ができる人材を増やす。
プログラム内容	講師としてウェザーハート災害福祉事務所代表千川原公彦氏を招き、避難所運営を疑似体験できるカードゲーム（HUGゲーム）を行った。実際に避難所を運営する際に本部はどこに設置するか、足のわるい避難者はどこに誘導するかなど避難所運営について災害時に配慮しなければならないこと、自分にできることなどを学んだ。ゲーム中はジモトの高校生と地域の大人の方とでグループを作り、グループ内で相談しながら行った。
実施に当たっての工夫	・ジモトの高校生と地域の大人の方が交流できながらHUGゲームをできるよう、バランスのいいグループ分けを心掛けた。 ・グループ全員が発言しやすいように1グループの人数を5名程度とした。 ・講座で学んだ内容を今後実践してもらうため、持ち帰ることができる資料を準備した。 ・コロナウイルス感染症対策として、換気・消毒を行った。
目的に対する成果	講座後のアンケート結果から、ほとんどの人が今回の講座で学んだ内容を自身の生活や地域活動に活かしていけると感じていた。また、防災についてずっと同じ考え方ではいけないという気づきや、何か災害があった時には積極的にボランティアへ参加したいと回答している方もいた。
所感・感想改善点	普段なじみのない「避難所運営」という難しい題材であったが、高校生も地域の大人の方と交流しながら楽しくゲームを進めていたように感じる。今回の講座が、地域防災や避難所運営に関心も持つきっかけとなった嬉しい。今後も様々なテーマで高校生と地域の大人の方が交流しつつ楽しく学べるような講座を企画していきたい。今回はアイスブレイクがないままゲームに入ってしまったため、参加者からは少し堅苦しい印象もあったようであった。次回はグループごとにアイスブレイクをするなど工夫をしたい。
高校生の声	・災害で避難所が開設された時に考えなければいけないことがわかった ・もしも自分の地域などで起こった時にどうすれば良いかなどを学ぶことができた ・自分が災害時にできることや普段知ることのない避難所の現状を学ぶことができた

活動の様子

当日は15名の高校生が参加し、地域の大人の方と交流



避難所の実態について、実際の写真や映像を見ながら学んでいる様子



千川原先生にアドバイスをもらいながらHUGゲームを行う様子



地域の大人の方の中で高校生も積極的に発言している様子



カテゴリー	キャリア	提供者	新庄市成人福祉課
プログラム名	「手で話そう」～手話通訳という資格を知ろう～		
日時	①令和4年8月6日(土) 10:00～12:00 ②令和4年9月3日(土) 10:00～12:00	場所	新庄市民プラザ 創作実習室 新庄市民プラザ 第5.6.研修室
協力者	新庄市聴覚障がい者協会		
参加者(延べ)	高校生 14 人	地域の大人・大学生 6 人	合計 20 人
目的 (地域課題・達成目標)	手話言語条例が制定されたことを受け、手話及びろう者に対する理解促進と手話の普及を推進するため、新庄・最上ジモト大学に参画し地元高校生にろう者の日常と「手話通訳」という資格について知ってもらう。		
プログラム内容	・市内在住のろう者と手話通訳者から、日常生活での不自由さや手話通訳の必要性和手話通訳資格の種類や資格を身に付けるまでの流れ。ろう者を講師とした手話講座。 ・障がい者への理解促進、手話の普及のためのアイデア出し		
実施に当たっての工夫	ろう者が講師をすることで、聞き手との間の「手話通訳」の仕事を体感してもらう。「差別解消条例」「合理的配慮」「手話言語条例」の様々なパンフレットを配布し、「障がい者」について総合的に理解してもらう。ろう者とのコミュニケーションを楽しんでもらう。		
目的に対する成果	まず、手話及び手話通訳、ろう者に興味を持ってもらうことが出来た。ろう者とのコミュニケーションの取り方について楽しく学べたというアンケートの回答を得られた。		
所感・感想改善点	手話の必要性や資格について意欲的に学んでもらえ、講師も生き活きと対応していたのが印象的であった。奉仕員から高校時代に興味をもって手話を始めたという話、資格取得後の活躍の場や、取得後も世界情勢やニュースに出てくる新しい言葉の勉強が続くなどの話が聞かれた。手話講座については、基本の挨拶などを学んだ。また、理解促進事業のアイデアを多数出してもらった。聴覚障がい者協会とも協議をし、活用していきたいと思う。		
高校生の声	・基本的な手話を覚えて、ろう者の方ともしっかり話してみたいと思った。 ・手話のことを詳しく知れた。 ・生活の中で使えるように、家でも復習をしようと思う。		

活動の様子

あいさつや自己紹介など簡単な手話を習いました



手話通訳者から資格について学びました



参加者同士で手話を練習



参加者のみなさんと記念撮影



カテゴリー	課題発見・解決		提供者	金山町総合政策課		
プログラム名	ジモト食材革命！高校生発居酒屋メニュー開発作戦					
日時	①令和4年7月28日（火）15：45～		場所	新庄南高金山校		
	②令和4年9月13日（火）15：45～17：30			新庄南高金山校		
	③令和4年10月9日（日）10：00～12：00			グリーンバレー神室		
協力者	金山町教育委員会、肴や太郎店主					
参加者(延べ)	高校生	17人	地域の大人・大学生	11人	合計	28人
目的 （地域課題・達成目標）	ジモト食材の魅力を発掘し、6次産業化に結び付くような商品開発を行い、地域の商店を元気にする。					
プログラム内容	金山の特産品の中から数品を絞り、3～4チームのワークショップによるメニューの検討を行う。講師の意見や話し合いをしてメニューを3つに絞る。試作を重ねて、試食会を行う。町産業まつりに合わせて出展。高校の魅力化PRを合わせて来場者と会話を行う。飲食店でメニュー化したり、SNS発信することで飲食店を応援するプログラムとする。					
実施に当たっての工夫	高校生主体ではあったものの、適宜講師を含めた大人がアドバイスをしたり、成功に向けたお手伝いをした。マスコミに周知し、新聞社とテレビ局に取り上げてもらった。メンバーとの連絡はグループラインを活用し、こまめに連絡・相談をしながら進めた。					
目的に対する成果	高校生の柔軟な発想で質の高いメニューが完成した。来場者からの評価も高く、すぐに飲食店での商品化が決まった。農家の関心も高く、今後さらに踏み込んでメニューを共同開発し、商品化する話が出てきた。					
所感・感想改善点	当初の想定以上に高校生の発想と行動力でいい成果が出ました。学校側の全面的な協力にも感謝したいです。地元に残り住みたい、就職したいとの声が複数あって嬉しかったです。新聞やテレビに取り上げられたことでの反響もあり、高校生を称賛したり応援する機運が高まったと感じました。町外から3名が参加してくれたことも成果です。来年度は、さらに多くの市町村から参加してもらえるようなプログラムを考えます。事務局（総合支庁連携支援室）の丁寧な対応にも感謝します。					
高校生の声	地域の魅力を知ることができた。地域の人たちがたくさん協力してくれて感謝したい。学校でできないことを学ぶことができて良かった。活動に参加して自身の成長を感じられた。このまま地元に残って地元に関わっていきたい。					

活動の様子			
講師の監修を受けての試作		出展開始の集合写真	
試食の様子		賞品の品ぞろえの様子	

カテゴリー	体験・フィールドワーク			提供者	最上町地域おこし協力隊		
プログラム名	モノづくりの面白さ～「好き」を仕事に～						
日時	①令和4年 8月 4日(木) 10:00～12:00			場所	前森高原自然ふれあい陶芸館『カムロ窯』		
	②令和4年10月 16日(日) 10:00～12:00				前森高原自然ふれあい陶芸館『カムロ窯』		
協力者							
参加者(延べ)	高校生	15	人	地域の大人・大学生	9	人	合計 24 人
目的 (地域課題・達成目標)	大学を卒業し昨年より最上町に移住した若き陶芸家の二人から、自分の「好き」を仕事にする良さと大変さについて話を聞き、高校生自身の職業観等を深めてもらとともに、実際に自分で茶器を製作し、モノづくりの楽しさを体験してもらうことを目的とする。						
プログラム 内容	<1回目>①オリエンテーション②プレゼン『モノづくりの仕事の面白さ～「好き」を仕事にするためには～』(内容：陶芸家という仕事の紹介、現在に至るまでの経緯や地域おこし協力隊としての活動内容等)③陶芸体験 <2回目>①オリエンテーション ②茶道体験 ③ワークショップ『自分の将来について考えていることを共有しよう』						
実施に 当たって の工夫	・プログラム提供者がどのように大学や進路を決定し現在に至るかを具体的に説明してもらうことで、高校生自身の進路や職業選択の参考にしてもらうことを心掛けた。 ・最上町の新たな芸術文化として活動を開始した『カムロ窯』やその作品について、体験を通して興味や理解を深めてもらうことを心掛けた。						
目的に対する 成果	・プログラム提供者の説明や実際の体験を通じて、参加者に仕事や地域の魅力など、様々なことを考えてもらうきっかけになったと感じている。また、様々なことに積極的に参加したり、取り組むことの大切さについても伝えられたと感じている。						
所感・感想 改善点	・参加申し込みがすぐに定員になったことから、高校生が興味を持ちやすい、または参加しやすいプログラム内容が提供できたと考えている。 ・プログラム提供者は、自身の目標や将来像をしっかりと定めた中での進路や職業選択により現在に至っていることもあり、プレゼン内容がとても心に響くものであった。 ・体験時間が延びて、高校生自身の話を聞く時間が短くなってしまったので、そこは改善点と感じている。						
高校生の声	・ものづくりを通して地元の魅力や面白さを学べた。 ・地元にも魅力がたくさんある・陶芸にもいろいろな種類があり、自ら行動することで見つけられることもある ・自分から動くことの大切さや、地元や県外関係なく活躍できる場所があることがわかりました ・自分から色々なことに参加することの大切さを感じました。 ・陶芸と茶道という体験活動を通して人との関わりをもてた事以上に自分の近くの地域にこんないい場所があったんだということを知れて良かった。それだけでも、上京した後でもこの地元にまた来たいと思った。						

活動の様子

地域おこし協力隊のプレゼンの様子



陶芸体験の様子①



陶芸体験の様子②



抹茶体験の様子



カテゴリー	体験・フィールドワーク			提供者	舟形町まちづくり課				
プログラム名	君とつくる地図～巡って撮ってアップする、デジタル観光マップ～								
日時	①令和4年8月10日（水）10:00～13:00			場所	舟形町役場				
	②令和4年12月4日（日）10:00～12:00				舟形町内				
協力者									
参加者(延べ)	高校生	7	人	地域の大人・大学生	10	人	合計	17	人
目的 (地域課題・達成目標)	高校生になると、町で活動する機会や町について学ぶ機会が少なくなってしまう。町の魅力を知り、地域の大人と関わる中で、地元に対する興味関心を深め、地元愛の醸成につなげたい。								
プログラム 内容	【1日目】 ①デジタル観光マップとは何かを学び、どのような情報を掲載するとよいかを学んだ。 ②町には、どんな観光スポットや紹介したい飲食店があるのかを調べた。 ③「映える」写真の取り方の練習を行った。 【2日目】 ①実際に、紹介したいスポットなど、町内を数か所巡った。 ②町外へ町の魅力を発信している町民と話をすることで、暮らしの良さに気づく視点を学んだ。 ③掲載する写真や記事について原稿を書いた。								
実施に 当たって の工夫	聞いたり見たりして知っているモノやコトを、実際に足を運び触れることで実感してもらえるよう、町内の巡る場所は高校生たちが普段あまり行かないところや、行ってみたいと希望したところを選択した。								
目的に対する 成果	デジタル観光マップを作製する取組みを通して、普段町で暮らすなかで感じている「舟形町の魅力」をアウトプットし、自らの言葉で発信することができた。また、他の参加者の話を聞いたり、実際に足を運ぶことで、新たに「地元の良さ」に気付くことができた。将来地元へ戻ってきたい、地元へ残りたいという気持ちにもつながることができた。								
所感・感想 改善点	「舟形町といえば」と誰もが思い浮かべる所はもちろん、町内の高校生からは「この場所から見える景色がキレイ！」と、新たな情報も得ることができた。普段町で暮らすなかで、景色をきれいだと感じ、写真で残してくれていることをとてもうれしく感じた。 第2回目の開催時期が予定よりも遅くなり、写真撮影が難しくなってしまったため、急遽、地域の大人と話す時間を設けた。当初の予定から変更になった部分もあったが、これまで知らなかった町の魅力を知り、より興味を深めるきっかけにつながれたのではないかなと思う。								
高校生の声	・舟形町に住んでいても知らない、舟形町の魅力をさらに詳しく知ることができたと思う。 ・場所に直接行ってみると写真ではわからない良さがわかったり、地元の方の話を聞いて将来について考えるいい機会になった。 ・マップの説明を、どうしたらわかりやすく伝わるかということを考えることができた。 ・物事を俯瞰で見つめることで、新たな発見をすることができた。								

活動の様子

舟形町のおススメのスポットを最初に一人ひとり考えました。



自分がおススメする場所を紹介。たくさん出てきました。



おススメスポットをカテゴリ別にまとめました。



高校生が作成した紹介記事を掲載した観光マップのサイトをだいま準備中。



新庄・最上ジモト大学プログラム 実施報告書

カテゴリー	体験・フィールドワーク		提供者	真室川町企画課	
プログラム名	まちの魅力をカタチにしたら～ノベルティで町をPR～				
日時	①令和4年7月30日（土）10：00～12：00		場所	真室川町役場	
	②令和4年8月12日（金）13：00～15：00			真室川町役場	
	③令和4年10月2日（日）10：00～12：00			真室川町役場	
協力者	alfonatski（るーつ企画）				
参加者（延べ）	高校生	8人	地域の大人・大学生	13人	合計21人
目的 （地域課題・達成目標）	①自分と、自分のルーツとなる地元について深く掘り下げて考える契機とする。 ②考えや抱いたイメージを町のノベルティとして具現化、達成感を味わう。 ③自信をもって地元を話題にする。				
プログラム内容	ノベルティグッズを作成し町をPRする。 ①ワークショップ（表現の手段のひとつとして、コラージュ等の技法を体験） ②ワークショップ（ノベルティのコンセプト決定、アイディア出し） ③ワークショップ（イメージの擦り合わせ、デザイン案確定） ④LINEを用いてのデザイン修正				
実施に当たっての工夫	座学のプログラムであったため、誰に向けて、どんな機会に発信したいのかといったことを話し合いながら、イメージを膨らませるためスマホ検索を用いながらワークショップを進めた。協力者の方が、参加者全員が話しやすい雰囲気を作ってくれた。				
目的に対する成果	①「今の自分」をテーマにコラージュで表現でき、参加者と共有することができた。 ②ノベルティ配布に適したイベントや場所、機会を話し合う中で、町の魅力と課題について考えることができた。 ③配布の手段として「ふるさと納税」に着目するなど、視野の広がりがあった。				
所感・感想改善点	ノベルティ製作にあたり、協力者の助言があったとはいえ、写真ではなくあえて自分達が描いたイラストを使用したいという主体性を発揮してくれた。また、より多くの人に有効な手段で町の魅力を伝えたい、自分達の作品を届けたいとの思いから、「ふるさと納税」の仕組みに着目するなど視野の広がりがあったことは、まさに高校生の学びであると感じた。 多忙な高校生のスケジュールを考えると、なかなか深掘りとまでいけないプログラム事情もあり、プログラムの完成度という観点ではもうひと工夫必要であった。				
高校生の声	学校生活のことからテレビCMの話題まで、絵を描きながらプログラムには直接関係のないおしゃべりもあり、楽しかったと話してくれた。				

活動の様子

参加者全員でひとつの作品を作成
周囲への気配りも大切



コラージュの技法を体験
テーマは「今の自分」



各々が描いた原画をもとに
イメージを擦り合わせていきます



最終日 協力者のお二方と
あとはグッズの完成を待つばかり



カテゴリー	キャリア		提供者	大蔵村総務課		
プログラム名	役場の仕事をみてみよう！					
日時	①令和5年1月31日（火）14：00～17:00		場所	大蔵村役場		
協力者						
参加者(延べ)	高校生	7人	地域の大人・大学生		合計	7人
目的 （地域課題・達成目標）	村の職員採用の募集に応募する人が減っている現状があり、その理由に役場の実態を知らないことがあるのではないかと考えた。内部を見てもらうことで職業を選ぶうえでの選択肢のひとつにし、熱意をもって仕事に取り組む公務員を目指す高校生を増やしたい。					
プログラム 内容	広報誌作成をしてもらう。インタビュー班、カメラ班に分かれて大蔵村長へのインタビュー、写真撮影、記事の執筆、ページレイアウトをした。また村公式ご当地キャラクターとの写真撮影や、庁舎内の見学を行った。					
実施に 当たって の工夫	普段の仕事を感覚的に理解してもらうため、質問の順番やその答えに対する更に深堀する質問の仕方、カメラアングルの考え方をレジュメにまとめた。実際に行っているときに隣でアドバイスを行った。					
目的に対する 成果	具体的ではなかったにしても、庁舎の中の雰囲気や、こんなことをしている、というイメージを掴んでもらえたと考える。					
所感・感想 改善点	インタビューが長くなってしまい、高校生の集中力が切れてしまったと感じた。時間の配分や段取りの工夫が必要だった。					
高校生の声	役場の雰囲気や村長さんの考えなどこれからに繋がるようなことを学びました。力を入れていることについて話をきいて、道路の除雪のきれいさに納得した。役場の仕事内容の一部を知れてこれからの進路活動の役に立った。大蔵村について村長さんから直接話を聞けて、自分の町でも共通することだったり逆に無いことだったりを知れた。広報の作り方なども考えながら役場の仕事について学ぶことができた。					

活動の様子		
大蔵村長へのインタビュー		話をききながら、要所所でメモを取っていました
取材内容を文章にしています		使用する写真を選び、レイアウトを考えます
		

カテゴリー	体験・フィールドワーク	提供者	鮭川村総務課
プログラム名	愛の不時着～サケ編～		
日時	①令和4年11月20日(日) 6:15～10:00	場所	鮭川、鮭加工場、鮭川村役場
協力者	サーモンロードの会 矢口会長、サカタント支配人 松並氏		
参加者(延べ)	高校生 2 人	地域の大人・大学生 2 人	合計 4 人
目的 (地域課題・達成目標)	鮭川村では伝統的にウライで鮭の捕獲を行っている。また、鮭のふ化活動も行っており、鮭川を遡上する鮭を減らさないよう循環型社会をつくる取り組みを行っている。これらの活動を若い世代に伝え、伝統を絶やさないことが課題となっている。		
プログラム内容	・鮭川にて行われるウライによる捕獲活動の見学。 ・サーモンロードの会のふ化活動の見学。 ・捕獲した鮭の塩漬け体験。 ・鮭の研究を行っている方の講義		
実施に当たっての工夫	危険の伴うフィールドワークであったため、けがをしないための事前準備に細心の注意を払った。普段体験できないことを積極的に取り入れ、新たな地元の姿を見てもらえるようなプランを意識した。		
目的に対する成果	高校生たちに鮭川村伝統の捕獲方法と調理方法を知ってもらった。また、これらの文化を残していくために地元漁協(サーモンロードの会)が取り組んでいることを知ってもらった。		
所感・感想改善点	全体をとおして、鮭川村の文化を伝える良い機会となった。高校生に教えるために自らも学習することで、意図せず大人も学ぶ機会となった。高校生が求めている講義内容がわからず、協力者の伝えたいこととの間に乖離が無いようプランをつくるのが難しかった。また、高校生自身が考えて取り組む場面をつくることができず、一方的な講義となったため、来年度までの改善点となった。		
高校生の声	自分たちが想像する魚の捕り方と異なり驚いた。発眼卵放流の活動に興味を湧いた。鮭は皮が硬くさばくのが難しかった。		

活動の様子	
ウライの様子を見学	
鮭研究者と一緒に鮭を持って記念撮影	
サーモンロードの会のさばき方を指導 矢口会長から	
鮭研究者のサカタント支配人松並氏による鮭に関する講義	

新庄・最上ジモト大学プログラム 実施報告書

カテゴリー	体験・フィールドワーク		提供者	戸沢村まちづくり課		
プログラム名	オリジナル地元新聞を作ろう！					
日時	①令和5年2月18日（土）9:30～15:30		場所	戸沢村内		
協力者						
参加者(延べ)	高校生	3人	地域の大人・大学生	5人	合計	8人
目的 （地域課題・達成目標）	地元においても地域の魅力を知る、体験する機会は少ないと感じる。また若者の転出が増え、都会に出て就職する人が多いのが現状である。地域の魅力に気づき、少しでも地元に貢献したいと思ってもらうきっかけにしてほしい。					
プログラム内容	戸沢村の魅力や観光情報を戸沢村内外に広めるために、新聞を作成し情報発信をするという内容である。当日は高麗館、最上川舟下り、いきいきランドほんぼ館の3か所を巡った。それぞれの場所で写真を撮ったり、地元の方のお話を聞いたりして情報収集を行った。その後、感想や学んだこと等をまとめて、1人1枚の完全オリジナルの新聞を作成した。					
実施に当たっての工夫	事前に参加者へ当日の動きを連絡したため、当日はスムーズに進めることができた。また、「新聞を作る」というプログラムなので、書きやすいようにあらかじめレイアウトを入れたり、読んでほしいターゲットの説明をしたりしてイメージがわかりやすいよう努めた。					
目的に対する成果	プログラムを通して、地元の魅力に気づき、将来のことを考えるきっかけになったのではないかと感じている。地元を離れることになっても、この経験で学んだことや地元に誇りを持ってくれることを期待する。					
所感・感想改善点	参加者の確保が難しく延期になってしまったが、様々な方に協力していただきプログラムを実施することができた。戸沢村在住の高校生から初めて戸沢村を訪れたという高校生まで参加があり、行く場所それぞれで興味津々に地域の方のお話を聞いていたので、このような機会を作れて良かったと思う。 少ない人数ではあったが、地元についてたくさんのことを学んでもらえたと感じる。また、来年度以降も地域の方と高校生が繋がれるきっかけを作っていきたいと考える。					
高校生の声	・地域の魅力を学べた。 ・地域の大人の人と活動できて良かった。 ・いろいろな人の話を聞いて、話すことができ楽しかった。					

活動の様子

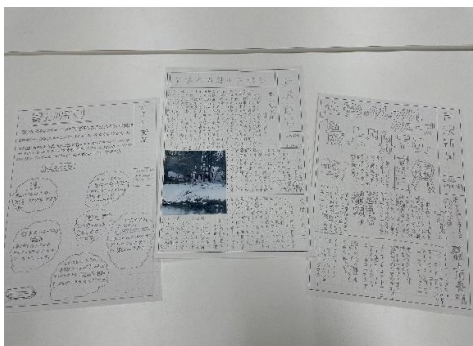
戸沢村自慢の「最上川舟下り」を体験



完全オリジナルの新聞を作成中



完成した新聞



カテゴリー	課題発見・解決		提供者	尾花沢市定住応援課		
プログラム名	ヨット体験&イベント運営にチャレンジ～徳良湖が作る歴史とドラマ～					
日時	①令和4年7月27日（水）9:00～12:30		場所	徳良湖ヨット倶楽部		
	②令和4年8月11日（祝）9:00～12:30					
協力者	徳良湖ヨット倶楽部、手をつなぐ育成会					
参加者（延べ）	高校生	15人	地域の大人・大学生	4人	合計	19人
目的 （地域課題・達成目標）	「花笠音頭」発祥の地であり自然景観が豊かな徳良湖周辺は、新しいビジネスやレジャーの拠点となるポテンシャルを秘めた地域であり、地域の歴史や文化と融合した観光・交流機能の強化が課題とされる。また、交流人口や定住促進の面でも利活用の必要がある。					
プログラム内容	・徳良湖の歴史と継承活動について徳良湖ヨット倶楽部の講話を聴講 ・ヨット、カヌー体験、②においては手をつなぐ育成会参加者の乗船補助等も実施 ※乗船補助等……ヨット、ボート等の湖畔への搬送及び乗降補助、参加者用レクリエーションゲームの設営及び遊戯時の補助					
実施に 当たって の工夫	①地域活動団体の目的や活動内容を重点的に話をしてもらい、運営側としての意識付けを行った ②安全確保のため湖面活動の前に陸地にて指導を受け、体験教室の補助を主体的に行えるようにした ③複数校から参加者が集まったため、参加者同士の対話が生まれるような声かけを随時行った。					
目的に対する 成果	・運営を体験することで、参加者にどのような配慮が必要か、楽しんでもらうためにどのような工夫をするべきかを感じ取り、今後自らが企画実施を行う際の指標になるようにする。 ・歴史からはじまり、現在は様々な体験や学びを生み出すことのできる場としての徳良湖という認識を持っていただけだものと考えている。					
所感・感想 改善点	実施するにあたり計画の段階から地域団体の協力があり、円滑な事業運営ができた。徳良湖ヨット倶楽部の皆さんには、半日の中で高校生を運営の一員として役割を与えてもらい、また次に自分が何をすべきか主体性を促すような取組みをしていただいた。参加者は積極的、自発的に動き、特にヨット愛好会メンバーについては指示がなくともヨットの係留から乗船補助までをスムーズにこなし、企画側としても予想外であった。複数校、また日本語が堪能でない留学生もいたが、対話交流を促し、楽しく活動できていたように見える。					
高校生の声	・普段の学校ではできない体験ができた。 ・お客さんへの説明や案内の難しさを感じた。 ・体に障がいを抱える人と共に過ごす新たな経験を積むことができた。 ・今回のように外に出て体を動かすようなプログラムであれば、また参加したい。 ・尾花沢市の人たちはとても心が広く、良い人ばかりで過ごしやすい。将来は尾花沢市で働きたい。					

徳良湖の歴史を大人から学びます



参加者に楽しんでもらえるイベントづくりにチャレンジ

徳良湖の魅力を全身で体験



ヨットの準備も主体的にやりました



新庄・最上ジモト大学プログラム 実施報告書

カテゴリー	課題発見・解決		提供者	尾花沢市定住応援課	
プログラム名	おばねのそばを学んで発信！みんなの楽しいそばレシピ				
日時	①令和4年9月3日（土）10:20～14:45		場所	グースカフェ（徳良湖オートキャンプ場）	
協力者	高橋晃治氏（たか橋店主）、グースカフェ、北村山総務課連携支援室、北村山高校、うろこや菓子店				
参加者(延べ)	高校生	8人	地域の大人・大学生	3人	合計11人

目的 （地域課題・達成目標）	・地元の人の試行錯誤や熱意に触れ、地域資源は人の手と汗によって造られるものであることを学ぶ ・実際の動画作成や発信を体験することで「人に何かを伝える」「人に何かを見てもらう」ことの難しさを知る
プログラム内容	ジモトで尾花沢そばを盛り上げる人と語り、学ぶことを目的に、市内でそば店を経営し尾花沢そばの振興に取り組む高橋さんから、地元でそば屋を行うまでの生い立ちや、そば振興への取り組みを聞き、高橋さんと自分が地元でしたいこと、将来の夢をどんどん話すトークセッションを実施。その後、北村山高校そばガールズが開発した商品の提供を行いながら、カフェ運営体験の様子を特設のInstagramアカウントに投稿
実施に当たっての工夫	・トークセッションの実施に当たっては、高橋氏と事前に複数回打合せを行い、高校生から十分に意見や気持ちを引き出す意識を共有したうえでリハーサルを実施。 ・地元の菓子店に直接打診し、運営体験でありながらも高いクオリティを持った商品を提供できるようにすることで、集客広報にあたって市民へのインセンティブを高めた。 ・当日は生徒から積極的な発言や、自発的な運営体験への参画を促すよう声がけ。
目的に対する成果	・トークセッションでは、多少の個人差はあったものの、自分の夢や考えを高橋氏に感情豊かに伝え、よいフィードバックを得ることで、モチベーション向上につながったものと考えられる。 ・Instagramへの投稿が初めての生徒も多かったが、参加者同士相互に協力しながら取り組んでいる様子が見られた。
所感・感想改善点	・トークセッションにおけるリハーサルは実施しておいて大正解という感想を持った。そもそもの流れを打合せし、話し方の練習も行い本番に臨んだ結果、無駄な空白が生まれず高校生へのフリもスムーズに進み、なごやかな雰囲気の中かつ高橋氏のメッセージを伝えきることができたのではないかと考えている。 ・運営体験については、人線をグースカフェに一任していたものの、当日は事務局側が臨機応変に差配することとなった。事前の打合せは必要であったと考えられる。
高校生の声	・自分の夢に向かって毎日頑張ろうと思った ・普段の学校ではできない体験ができてよかった ・カフェで接客を初めて体験できて勉強になった

活動の様子

高橋氏とのトークセッション		ホンモノのカフェで体験！	
はじめての情報発信！		そばガールズ開発のクッキー	

新庄・最上ジモト大学プログラム 実施報告書

カテゴリー	課題発見・解決	提供者	尾花沢市定住応援課
プログラム名	「ふるさとからの返礼品」探求プロジェクト		
日時	①令和4年8月18日(木) 15:00~16:45 ②令和4年9月16日(金) 16:30~18:00	場所	北村山高等学校学習センター
協力者	みちのく村山農業協同組合、株式会社オーティービー、株式会社ローカルプライト、北村山高等学校		
参加者(延べ)	高校生 66 人	地域の大人・大学生 7 人	合計 73 人

目的 (地域課題・達成目標)	郷土愛の育成や地元回帰を行う理由は1人ひとり異なる。コロナ禍にあって地域の交流や大人・仲間との対話機会が減っている現在、ふるさとのことを知り、好きになるための機会を創出する必要がある。
プログラム内容	日本全国に誇る食や文化、観光資源を持つ尾花沢市。その陰にはこれらを支える地元の努力があり、その取り組みをふるさと納税の観点や生産普及に携わるプロと対話しながら学ぶ。その後オリジナリティのある返礼品のアイデア創出と実現に向けたワークショップを行う。
実施に当たっての工夫	・地場産品や体験型商品の魅力を伝えるため、各分野の生産取扱やPRに精通したプロフェッショナルの企業と団体にファシリテーターを依頼。なるべく少人数のグループ組にし、生徒同士、生徒と大人との間で十分な対話時間とワークショップ確保。 ・北村山高等学校の時間割に合わせて開催し、当該校生の多数参加を見込んだ。
目的に対する成果	・ファシリテーターの方々の話にも興味深い内容に写ったようで、生徒たちからもどんどん大人側に語りかけるなど、明るく活気ある場を生み出すことができたと考えられる。 ・「尾花沢市の魅力ってなに?」「どんな可能性がある?」と真剣に悩んだことがない参加者がほとんどであり、特に市内在住の参加者にとっては深掘りする機会となったものと考えられる。
所感・感想改善点	・商品化が叶うアイデアの発現にはまだ至っておらず、各グループからの企画書を引き取り検討している段階。考えてくれた生徒たちのためにも、フィードバックできる方法を模索したい。 ・時間がかかり押ししてしまった。企画書のデザインを考える時間をもう少し確保する必要がある。 ・「あそこまで活発に話す生徒たちを初めて見た」という北村山高の教員もあり、動画や
高校生の声	・返礼品についてよく考えることができた ・自分達の意見だけでなく、他のグループの意見も聞けて色々な発見ができた ・自分たちで内容を考えてどうやったら楽しんでもらえるかなど考える事ができた ・地域のためになること考える大切さを学んだと思った

活動の様子

「地元のプロ」の皆様と濃い対



楽しく、でも真剣に悩む参加



オリジナル返礼品の企画書づく



全グループでプレゼンテーショ



カテゴリー	キャリア			提供者	最上総合支庁保健企画課				
プログラム名	医療福祉座談会								
日時	①令和4年8月4日（木）13:45～16:00			場所	新庄市民プラザ（第1研修室）				
					新庄市民プラザ（第5、6研修室）				
					新庄市民プラザ（小ホール）				
協力者	最上地域保健医療対策協議会								
参加者(延べ)	高校生	57	人	地域の大人・大学生	5	人	合計	62	人
目的 （地域課題・達成目標）	最上地域は医師をはじめとした医療・介護従事者が他の地域に比べ不足している状況にある。最上地域の将来を担う若者に医療・介護職への関心を深めてもらい、将来的に最上地域で就業する医療・介護従事者の確保・定着に結び付ける。								
プログラム内容	参加者は「薬剤師」、「理学療法士・診療放射線技師」、「看護師・介護福祉士」の3つのコースに分かれ、希望する職種のコースで、仕事の具体的な内容・やりがい等について講師から話を聴く。講師については、最上地域で活躍する薬剤師・理学療法士・診療放射線技師・看護師・介護福祉士の方々に依頼し、参加者からの質問に答えていただきながら、懇談を進めた。								
実施に当たっての工夫	参加者が積極的な姿勢で参加できるよう、以下の点を工夫した。 ・当日会場で発言することを躊躇する参加者を想定し、事前に講師への質問用紙を配布し、当日会場で回収したうえで、講師に回答いただいた。 ・各会場でプロジェクタ、スクリーンを使用し、具体的なイメージが参加者により視覚的に伝わるようにした。								
目的に対する成果	事業実施後のアンケートでは、「実際に業務に従事されている方の話を直接聞くことが出来て、とても参考になった。」「普段知ることができない仕事の内容を聞くことができて、とても有意義な時間だった。将来に向けて今できることを頑張っていきたい」などの感想が寄せられ、医療・介護の仕事への興味・関心や、医療・介護分野への就業志望意欲を高めてもらうことができた。								
所感・感想改善点	昨年度から、事前に希望職種を調査したうえで講師の選定を実施し、希望職種（原則2職種）の話をより深く聴くことが出来るようにしたが、今年度の事業実施後のアンケートの結果でも、「今回の進め方でよい」との回答が8割超を占めており、概ね好評だった。一方で、アンケートの回答の中には「普段経験できないような体験ができればもっとよい（体験型のプログラム）」といった声も寄せられており、開催方法及び内容についてさらなる検討が必要。								
高校生の声	・看護師の仕事の内容を詳しく知ることができ、自分の将来に繋がる、ためになる話を聞くことが出来た。 ・どの職業もコミュニケーション能力が大事だということがわかった。 ・実際に働いている方のリアルな声を聞くことで、進学した後のことを考えるよい機会となった。								

活動の様子	
薬剤師コース	
理学療法士・診療放射線技師コース	
看護師・介護福祉士コース	

カテゴリー	キャリア			提供者	最上総合支庁地域産業経済課				
プログラム名	しごとトーク～若手従業員のリアルなお話～								
日時	①令和4年7月22日（金）13:00～15:45			場所	県立新庄南高等学校金山校				
協力者	(株)キリウ山形、(株)JPD、(有)カイセイカンパニー								
参加者(延べ)	高校生	39	人	地域の大人・大学生	4	人	合計	43	人
目的 (地域課題・達成目標)	地域の職場で働く若手社員から、高校生に対して、自身の経験に基づく仕事のやりがいや暮らしについて語ってもらう。地域の事業所の魅力や地元で暮らすことの良さを感じてもらい、様々な職業で働くイメージ喚起を図り、地元事業所への就職等促進につなげる。								
プログラム内容	学年ごとに分かれ、若手社員から仕事のやりがいや暮らしについて語ってもらい、その後意見交換を行う。								
実施に当たっての工夫	①今の仕事の紹介、②学生時代の話、③今の仕事との出会い、仕事に就いたきっかけ ④仕事で大切にしている価値観・やりがい・こだわり、⑤高校生へのメッセージ この5項目についてスケッチブック（20枚程度）に記載いただき、当日、それをめくりながらお話をいただく。								
目的に対する成果	全体オリエンテーションのあと、生徒らは学年ごと自分の教室に戻り、トークゲストが各学年の教室で、自作の「紙芝居」を使って自らの仕事の内容・魅力などについて話しをした。（質疑応答を入れて約20分） 終了後、別の学年の教室に移り、同じようなトーク交流を3回繰り返し、生徒らは全てのゲストの話を聞くことができた。								
所感・感想改善点	トークゲストの話は、生徒のみならず、一緒に聞いていた学校の先生たちも興味深かったようだった。トークゲストからは、「学年が上がると、やはり聞く真剣さも違う気がする。」「10分で話＋10分で意見交換だったが、10分では話すのにとても短かった。」などの声があった。今後の「特別授業」への協力についても、「日程等が合えば」と前向きな声をいただいた。								
高校生の声	「やりがいや楽しさを見つけることが、長続きする秘訣だ。」「自分なりのストレス発散の方法を見つけ、大変な時期を乗り越えて、自分で選んだ仕事を続けたい。」「最初から無理と言わず、とにかくやってみることが大事だと思った。」「失敗してももう一度頑張りたいと思った。」「職場の先輩などとの関係を大切にする。人との関係を大切にしたい。」								

活動の様子

大講義室での全体説明の様子



職場の様子を詳しく分かりやすく説明するトークゲスト



最初から「無理」と言わずにやってみる大切さに傾く生徒



社会人になってどんな生活を送っているのかリアルなお話が聞けた



カテゴリー	キャリア		提供者	最上総合支庁地域産業経済課		
プログラム名	しごとトーク～若手従業員のリアルなお話～					
日時	①令和4年8月30日（火）12:40～15:45		場所	県立新庄北高等学校		
協力者	山形東亜DKK(株)、(株)白岩土木建築、(株)ヌマザワ、新庄信用金庫、萩野学園、小松行政書士事務所、新庄市役所、最上総合支庁連携支援室					
参加者(延べ)	高校生	91人	地域の大人・大学生	8人	合計	99人

目的 (地域課題・達成目標)	地域の職場で働く若手社員から、高校生に対して、自身の経験に基づく仕事のやりがいや暮らしについて語ってもらい、地域の事業所の魅力や地元で暮らすことの良さを感じてもらい、様々な職業で働くイメージ喚起を図り、地元事業所への就職等促進につなげる。
プログラム内容	グループごとに分かれ、若手社員から仕事のやりがいや暮らしについて語ってもらい、その後意見交換を行う。
実施に当たっての工夫	①今の仕事の紹介、②学生時代の話、③今の仕事との出会い、仕事に就いたきっかけ ④仕事で大切にしている価値観・やりがい・こだわり、⑤高校生へのメッセージ この5項目についてスケッチブック（20枚程度）に記載いただき、当日、それをめくりながらお話をいただく。
目的に対する成果	トークゲスト8名が指定された教室で、1回10～15名程度の生徒らに向かって、自作の「紙芝居」を使って自らの仕事の内容・魅力などについて話しをした。（質疑応答を入れて約20分） 終了後、生徒の場所移動の時間があり、同じようなトーク交流を3回繰り返し、生徒はトークゲスト8名のうち、3名の話聞くことができた。（どの生徒はどのゲストの話聞くかは、予め学校側で希望をとり、割り振り）
所感・感想改善点	トークゲストの話は、生徒のみならず、一緒に聞いていた学校の先生たちも興味深かったようだった。
高校生の声	「どの職種にも共通していて、高校生のうちから勉強やコミュニケーションを頑張った方がいいと思った。」「より深いリアルな話を聞くことで、進路などについて学ぶことができた。」「他人の意見を聞いたり色々な情報を得てから決めるのもいい。」「身近なことに目を向けることで、自分にプラスになることや、思いもなかったことが転がっている。」「地域との関わりや、地域に戻ってくるきっかけなど知ることができてためになった。」

活動の様子

グループトークでは、講師の先輩から生徒へ質問する場面も



講師に質問する場面



グループトークで紙芝居を熱心に見入る生徒達



写真を活用しながら仕事の内容をイメージで伝える工夫



カテゴリー		キャリア		提供者		最上総合支庁地域産業経済課				
プログラム名		しごとトーク～若手従業員のリアルなお話～								
日時		①令和4年9月22日（金）15:20～17:45		場所	県立新庄神室産業高等学校					
協力者		(株)スリーエム、トヨタカローラ山形、新庄市農業協同組合、社会福祉法人舟和会えんじゅ荘								
参加者(延べ)		高校生	23	人	地域の大人・大学生	4	人	合計	27	人
目的 （地域課題・達成目標）		地域の職場で働く若手社員から、高校生に対して、自身の経験に基づく仕事のやりがいや暮らしについて語ってもらう。地域の事業所の魅力や地元で暮らすことの良さを感じてもらい、様々な職業で働くイメージ喚起を図り、地元事業所への就職等促進につなげる。								
プログラム 内容		グループごとに分かれ、若手社員から仕事のやりがいや暮らしについて語ってもらい、その後意見交換を行う。								
実施に 当たって の工夫		①今の仕事の紹介、②学生時代の話、③今の仕事との出会い、仕事に就いたきっかけ ④仕事で大切にしている価値観・やりがい・こだわり、⑤高校生へのメッセージ この5項目についてスケッチブック（20枚程度）に記載いただき、当日、それをめくりながらお話をいただく。								
目的に対する 成果		質疑応答では、学校側の協力もあり、自発的に生徒1人1回以上は質問をしていた。また、今回から「（質問が無かった時用の）質問袋」も使い、和やかな雰囲気、交流の時間が十分とれた。終了後の生徒アンケートからは「地元でもたくさんの仕事があることがわかった」「地元で仕事をすることの良さやメリットを知れた」などの声があった。								
所感・感想 改善点		今回のゲストは4名とも「最上に住み続けている」方（うち2人は高卒後地元就職、他2名は進学後も最上地域在住、その後地元就職）。一方、生徒アンケートによると、卒業後の進路は「最上地域外に行きたい」人の割合が高かった。可能ならば今後、「一度地元を出たが、地元に戻った」ゲストがいてもよいかもしれない。								
高校生の声		「就きたい仕事にかなり繋がる話が聞けて、その仕事の良さもたくさん知ることができた。」「地元で仕事をすることの良さを知ることができた。」「ミスしてもそこから学ぶことが大事。」「地元でもたくさんの仕事があることがわかった。」「仕事の楽しさが伝わった。」「コミュニケーション能力や職に対する意識の大切さがわかった。」								

活動の様子

オリエンテーションでアンケートに事前アンケートに記入



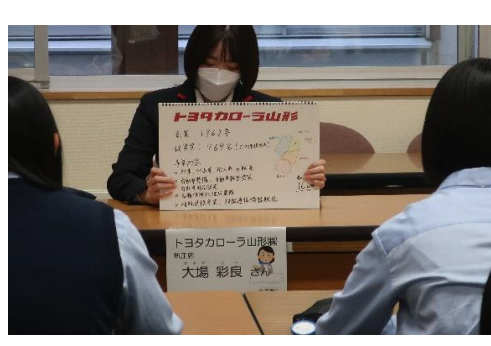
実際に作った商品を見て歓声が上がる



グループワークで紙芝居を熱心に見入る生徒達



企業の説明や仕事内容を丁寧に説明する様子



カテゴリー		キャリア		提供者		最上総合支庁地域産業経済課	
プログラム名		しごとトーク～若手従業員のリアルなお話～					
日時		①令和4年11月10日（木）13:00～15:45		場所		県立新庄南高等学校	
協力者		(株)JPD、丸充建設(株)、山形銀行新庄支店、金山町役場					
参加者(延べ)		高校生	70人	地域の大人・大学生	4人	合計	74人
目的 (地域課題・達成目標)		地域の職場で働く若手社員から、高校生に対して、自身の経験に基づく仕事のやりがいや暮らしについて語ってもらう。地域の事業所の魅力や地元で暮らすことの良さを感じてもらい、様々な職業で働くイメージ喚起を図り、地元事業所への就職等促進につなげる。					
プログラム内容		グループごとに分かれ、若手社員から仕事のやりがいや暮らしについて語ってもらい、その後意見交換を行う。					
実施に当たっての工夫		①今の仕事の紹介、②学生時代の話、③今の仕事との出会い、仕事に就いたきっかけ ④仕事で大切にしている価値観・やりがい・こだわり、⑤高校生へのメッセージ この5項目についてスケッチブック（20枚程度）に記載いただき、当日、それをめくりながらお話をいただく。					
目的に対する成果		生徒は4グループに分かれ、各教室ごと担当の先生によるオリエンテーションの後、トークゲストが自作の「紙芝居」を使って自らの仕事の内容・魅力などについて話しをした。（質疑応答を入れて約20分）金山町役場の笹原さんは、パワーポイントを使った。終了後、生徒らは別のゲストの教室に移り、同じようなトーク交流を3回繰り返し、生徒らは4名のゲストのうち、3名の話聞くことができた。					
所感・感想改善点		担当の先生からは、1グループ20人程度であったため、紙芝居形式だと後ろの席の生徒にとっては少し見づらかったかもしれないので、次回以降、グループの人数によっては全員パワーポイント形式でもよいのでは、という話があった。 今回のゲスト4名のうち3名は「新庄南高校出身」であり、「最上に住み続けている」方だった。					
高校生の声		「検定など資格を取ることが重要だと思った。」「何事にも全力で取り組んだり、時間を大事にしていく。」「高校の時に身につけた技術は社会に出てからも使えると思った。」「仕事をする上ではお客様は大切と思った。」「仕事の楽しさや難しさを学んだ。」「地域のことが好きな人が多いと思った。」					

活動の様子



仕事のやりがいや内容を分かりやすくパワーポイントを使って説明



講師の話の後、生徒達でグループワークで意見を出し合う



クイズ形式で場を和ませる工夫



職場の様子がわかるように写真を使って



カテゴリー	キャリア		提供者	最上総合支庁地域産業経済課		
プログラム名	しごとトーク～若手従業員のリアルなお話～					
日時	①令和4年10月28日（金）13:00～15:35		場所	新庄東高等学校		
協力者	金沢南幼稚園、(株)ハムシステム庄内、特別養護老人ホーム紅梅荘、(株)沼澤工務店、山形航空電子(株)					
参加者(延べ)	高校生	33人	地域の大人・大学生	5人	合計	38人
目的 （地域課題・達成目標）	地域の職場で働く若手社員から、高校生に対して、自身の経験に基づく仕事のやりがいや暮らしについて語ってもらう。地域の事業所の魅力や地元で暮らすことの良さを感じてもらい、様々な職業で働くイメージ喚起を図り、地元事業所への就職等促進につなげる。					
プログラム内容	グループごとに分かれ、若手社員から仕事のやりがいや暮らしについて語ってもらい、その後意見交換を行う。					
実施に当たっての工夫	①今の仕事の紹介、②学生時代の話、③今の仕事との出会い、仕事に就いたきっかけ ④仕事で大切にしている価値観・やりがい・こだわり、⑤高校生へのメッセージ この5項目についてスケッチブック（20枚程度）に記載いただき、当日、それをめくりながらお話をいただく。					
目的に対する成果	体育館での全体オリエンテーションのあと、生徒らは班ごとに移動し、トークゲストが体育館内の各ブースにて、自作の「紙芝居」を使って自らの仕事の内容・魅力などについて話しをした。（質疑応答を入れて約20分） 終了後、生徒らは別のゲストのブースに移り、同じようなトーク交流を3回繰り返し、生徒らは5名のゲストのうち、3名の話聞くことができた。					
所感・感想改善点	今回のゲストは5名のうち4名は「最上に住み続けている」 質疑応答では、学校側の協力もあり、生徒も積極的に質問をしていた。また、和やかな雰囲気、交流の時間が十分とれた。					
高校生の声	「福祉で夜勤のとき、20人を一人で見守るというのがすごいと思った。」「仕事の大変さややりがいなど知らないことを聞いた。」「仕事はつらいことだらけではない。」「仕事をしていく上での人間関係など、職場関係は良くなっていることなどを詳しく聞くことができた。」「仕事のやりがいは自分自身が楽しむことだと感じた。」「やりがいのある仕事を見つけると少しでも楽しく仕事ができると思った。」					

活動の様子

生徒からいろいろな質問が出て丁寧に答える先輩講師



先輩講師の皆さんから生徒へ向けた激励



気軽に話ができるグループトークでは、笑い声も飛び交う



職場で工夫していることなどを実際に使っている道具でリアルに説明



カテゴリー	キャリア			提供者	最上総合支庁地域産業経済課				
プログラム名	しごとトーク～若手従業員のリアルなお話～								
日時	①令和4年12月15日（木）13:20～15:20			場所	県立新庄北高等学校最上校				
協力者	㈱山形メタル、㈱西塚農場、最上ふれあい学園								
参加者(延べ)	高校生	15	人	地域の大人・大学生	3	人	合計	18	人
目的 （地域課題・達成目標）	地域の職場で働く若手社員から、高校生に対して、自身の経験に基づく仕事のやりがいや暮らしについて語ってもらう。地域の事業所の魅力や地元で暮らすことの良さを感じてもらい、様々な職業で働くイメージ喚起を図り、地元事業所への就職等促進につなげる。								
プログラム内容	グループごとに分かれ、若手社員から仕事のやりがいや暮らしについて語ってもらい、その後意見交換を行う。								
実施に 当たって の工夫	①今の仕事の紹介、②学生時代の話、③今の仕事との出会い、仕事に就いたきっかけ ④仕事で大切にしている価値観・やりがい・こだわり、⑤高校生へのメッセージ この5項目についてスケッチブック（20枚程度）に記載いただき、当日、それをめくりながらお話をいただく。								
目的に対する 成果	質疑応答では学校側の要望もあり、各生徒に「ふせん」を1冊渡し、先輩トークの間に質問や感想などをふせんに書いておき、それをもとに生徒が質問する方式。生徒も積極的に質問をしていた。ふせんは各グループの交流時間が終わったらゲストの背面（黒板）に貼ってある模造紙に貼り付け、学校側で最後に全てのふせんをゲストの方に渡していた。								
所感・感想 改善点	今回のゲスト3名はそれぞれ「最上校」「神室産業高校」「新庄南高」出身者で、学校卒業後県外に出て戻ってきた方は1名。（うち2名は最初から地元就職）								
高校生の声	「分からないことは聞くということが大事だと思った。」「信頼関係はすぐにできるものではないので、ゆっくり時間をかけて作ってほしい。」「趣味や得意なことをして自分に合った就職をしたい。」「未来を見据えることが大事。」「何事にも頑張ってみることが大事。」「話を聞いてあらためて最上に就職したいと思った。」								

活動の様子

開会・オリエンテーション



プライベートの話題に盛り上がる



メモをとりながら先輩の話を真剣に聞く生徒達



実体験を交えた話がみずみずしくも聞き応えがありました



カテゴリー	キャリア			提供者	最上総合支庁地域産業経済課				
プログラム名	しごとトーク～若手従業員のリアルなお話～								
日時	①令和5年1月19日（木）9:00～11:40			場所	県立新庄神室産業高等学校真室川校				
協力者	(株)ヤマトテック、アヒコファインテック(株)、神室工業(株)								
参加者(延べ)	高校生	16	人	地域の大人・大学生	3	人	合計	19	人
目的 （地域課題・達成目標）	地域の職場で働く若手社員から、高校生に対して、自身の経験に基づく仕事のやりがいや暮らしについて語ってもらう。地域の事業所の魅力や地元で暮らすことの良さを感じてもらい、様々な職業で働くイメージ喚起を図り、地元事業所への就職等促進につなげる。								
プログラム 内容	グループごとに分かれ、若手社員から仕事のやりがいや暮らしについて語ってもらい、その後意見交換を行う。								
実施に 当たって の工夫	①今の仕事の紹介、②学生時代の話、③今の仕事との出会い、仕事に就いたきっかけ ④仕事で大切にしている価値観・やりがい・こだわり、⑤高校生へのメッセージ この5項目についてスケッチブック（20枚程度）に記載いただき、当日、それをめくりながらお話をいただく。								
目的に対する 成果	生徒は3グループに分かれ、各教室ごと担当の先生によるオリエンテーションの後、トークゲストが各教室にて、自作の「紙芝居」を使って自らの仕事の内容・魅力などについて話しをした。（質疑応答を入れて約20分） 終了後、生徒らは別のゲストの教室に移り、同じようなトーク交流を3回繰り返し、生徒らは3名のゲスト全員の話聞くことができた。								
所感・感想 改善点	質疑応答では先生方の協力もあり、そのような協力もあり、生徒も積極的に質問をしていた。 今回のゲスト3名は全員「真室川校」出身者で、全員高校就職後現企業に就職。								
高校生の声	「あいさつや報連相、コミュニケーションが大事だと思った。」「挨拶は就職指定からも大切だ。」「地域との関わり方や仕事をしていて感じる達成感が伝わった。」「報連相が特に大事。」								

活動の様子

開会・オリエンテーション



勤めている企業はどんなことをやっているのか図解で説明



地元での暮らし方や通勤について等生



卒業生から後輩へ激励の言葉。



カテゴリー	キャリア			提供者	最上総合支庁建設総務課			
プログラム名	ふるさとをまもり未来をつくる土木技術者たちのはなし							
日時	①令和4年10月27日（木）10:00～12:20			場所	山形県立新庄神室産業高等学校			
	②							
	③							
協力者	山形県建設業協会最上支部青年部							
参加者(延べ)	高校生	38人		地域の大人・大学生	28人		合計	66人

目的 (地域課題・達成目標)	人口減少、高齢化が顕著に進む中、我々の社会基盤を支える建設業の担い手の確保が喫緊の課題。地域の仕事の魅力を次代の若者に伝え、建設業界の理解を深め、ふるさとで活躍する意識を持つ生徒を増やす。
プログラム内容	①地域の建設業に従事する若手技術者4名から、仕事の充実感、やりがい、夢などをパネルディスカッション形式で紹介。 ②意見交換会で、5～6人の7グループ毎に、建設業に従事する若手技術者達から仕事をする上で必要なもの、プライベートのことなど、リアルな話をもらった。
実施に当たっての工夫	①パネルディスカッションでは、パネラーへの事前アンケートを行い、1日のスケジュールや写真等についてスクリーンに投影し、生徒がリラックスしてイメージしやすい説明に努め、コーディネーターも情報共有しておくことでスムーズな進行ができた。 ②参加生徒に事前アンケートを行い、アンケート結果を意見交換時の話題とするなど、活発な意見交換が行われる環境づくりに努めた。
目的に対する成果	高校生への事前アンケートでは、就職するときに不安に思うことについて、「上司や先輩との人間関係」と「十分な収入」が上位であったが、先輩から色々と話を聞き出したことにより、それらの不安が軽くなったとの意見が多くあった。また、「建設業」と聞くと、体力的にきついとか危険な仕事というイメージが先行していたようだが、働きやすい環境が整っていること等の話を聞いて、考え方が変わったという声が聞かれた。
所感・感想改善点	来年度(案)⇒「高校生に伝えたい私の仕事の魅力とそれにまつわる物語」をテーマにパネリストに事前アンケートを実施。それを基にプレゼンテーション用パワポを作成する。【構成例】①自己紹介、②仕事の内容(1日のスケジュール)、③私の学生時代、④今の仕事との出会い、きっかけ、⑤仕事で印象に残っているエピソード、⑥この仕事で大事にしている思い・こだわり・やりがい、⑦休日の過ごし方、⑧高校生へメッセージ パネリストは普段の仕事が忙しいので、プログラムを充実させるため可能な限り対応したい。
高校生の声	・結構マイナスイメージがあったり、絶対に行かないであろう仕事だろうって自分で思ってたけど、話をしてくれた人たちもとてもフレンドリーだったり、楽しく話を聞かせてもらってマイナスイメージなどが取れました。視野が広がり興味も持てました。 ・土木の仕事は休みもないしお金もあまりもらえない仕事だと思っていたがそんな事はなく、休みも十分にあり給料もそこそこ貰えることがわかってイメージが変わった。

活動の様子	
先輩のリアルな話に聞き入る高校生	
パネルディスカッションの様子	
意見交換会の様子	
意見交換会の結果を	

カテゴリー	課題発見・解決		提供者	最上教育事務所	
プログラム名	Youは何する？最上（てっぺん）で！				
日時	①令和4年7月29日（金）17:30～19:00		場所	Fiesta	
	②令和4年9月16日（金）17:30～19:00			ゆめりあ会議室	
	③令和4年10月1日（土）／10月15日（土）			神室少年自然の家/あすラジ	
協力者	神室少年自然の家、コミュニティ放送あすラジ				
参加者(延べ)	高校生	15人	地域の大人・大学生	4人	合計19人
目的 （地域課題・達成目標）	地域の課題をつかみ、地域活動を実践することにより、地域の良さに気づく。さらに、活動によりつながった地域の大人や仲間とともに、今後も地域活動に携わる。				
プログラム内容	①プログラム説明会（プログラムの概要、活動スケジュール、手順等の説明、企画書作成と支援体制の説明等） ②活動の準備（高校生企画者の企画の完成、実施に向けた準備、青年ファシリテーター等の支援者からのアドバイス） ③各自の活動の実践（実践1：満天☆最上（てっぺん）レストラン 実践2：新庄のいい音集めました）				
実施に 当たって の工夫	(1)青年ファシリテーター等の助言のもと、高校生企画者が、「最上地域の特性やよさに迫る活動、やってみたいと思う活動」を企画し、実施できるようにするといった、高校生の主体性を重視したプログラムとした。 (2)高校生も青年ファシリテーター忙しく、なかなか集まって話し合うことが難しいため、SNSやオンライン会議を通して、高校生企画者の活動をサポートしたり、意見交換したりした。				
目的に対する 成果	・高校生企画者は、自身が興味のある分野に関して企画し、実践した。地域の魅力を再発見する機会となり、楽しみながら活動することができた。 ・青年ファシリテーターや地域の様々な人たちと、高校生が繋がりながら活動を進めることができた。				
所感・感想 改善点	高校生たちが、それぞれやりたいことに挑戦することができた。集まったメンバーは6名だが、それぞれがやりたいことに向かって企画書を作り、途中で内容の変更などもありながら、最終的に高校生自身が満足し、充実した活動につなげることができた。また、高校生の思いを実現するために神室少年自然の家やコミュニティ放送あすラジの協力もいただき、なかなか一人では実現が難しいことにも挑戦する機会を提供することができた。行動力のある高校生企画者たちなので、今後も引き続き様々な活動に取り組んで欲しいと思う。				
高校生の声	・今まで知らなかった地域の魅力を知ることができた。 ・自然の魅力を実感した。自分を発見することにもつながった。 ・次回も、今回のように、自分たちがやりたいことをサポートしてもらえるプログラムに参加したい。 ・このまま地元に残り、地域おこしをしていきたい。				

活動の様子	
みんなで地元の課題や魅力について語り合いました 	林の中で、「満天☆最上（てっぺん）レストラン」オープン！ 
最上の食材を使ったハンバーガー＆鮭のちゃんちゃん焼きができました 	「新庄のいい音集めました」集めた音をあすラジで生放送しました 

カテゴリー	体験・フィールドワーク	提供者	最上小国川清流未来振興機構
プログラム名	最上小国川鮎釣り甲子園～最上小国川の文化に触れる～		
日時	①令和4年7月30日(土) 8:00～13:00	場所	最上小国川おらだの川公園付近(最上町)
協力者	鮎釣り指導者(大人)		
参加者(延べ)	高校生 24 人	地域の大人・大学生 17 人	合計 41 人
目的 (地域課題・達成目標)	最上地域には最上小国川という素晴らしい鮎釣りの聖地があるが、高校生はその魅力や文化に親しむ機会がない。鮎釣りを通して郷土愛を育むとともに、歴史文化や清流の素晴らしさを感じてもらうことにより、流域の魅力や文化に対する意識の醸成を図る。		
プログラム内容	鮎釣り指導者(大人)の協力を受け、指導者1人につき、高校生2名の班を作り、3時間の競技時間で鮎の釣果を競った。(経験者は指導者なし。)参加者は競技の間、鮎釣り文化や地域の魅力について話しながら釣りに熱中した。1位から3位の上位入賞者には賞品を準備し、参加者全員に参加賞のほか最上町、舟形町の特産品を使った特製の昼食を振る舞った。		
実施に当たっての工夫	前回と会場を変更したため、安全対策と大会の流れを確認するため入念に会場の下見を行った。また、熱中症予防のため、参加者・スタッフ全員に飲料等の配布と呼びかけを行うとともに、本部に保健師を配置し緊急時の体制も整備することで対策を徹底した。さらに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、前回よりも参加人数を絞り、参加者に大会1週間前からの体調チェックシートを受付時に提出を求めた。		
目的に対する成果	アンケートの結果、ほぼ全員がプログラムに対し充実感を覚えていた。指導者との交流もあったため、鮎釣りの手法といった学校では学べないことを初め、鮎釣り文化の魅力がとても伝わった内容になったと同える。プログラムを通じて鮎釣りに興味を持った参加者も多く見られ、郷土愛の醸成や清流文化の素晴らしさを伝えることにおいて大変有意義なものになったと感じる。		
所感・感想改善点	水分補給のアナウンスや釣り場の近くに水分補給用のクーラーボックスを配置することに加え、天気の情報収集や救護体制の徹底など、安全面は十分配慮した。今回の会場が駅から離れた場所だったため、次回開催時はバスの運行など参加しやすくすることも検討したい。参加者にとっては、楽しみながら地域の文化と地域の大人と関わる機会になったと思う。		
高校生の声	・ジモトにしかない財産があるということ。豊かな自然を活用し、これほどまでに楽しい企画をすることができ、様々な人々と触れ合うことができる地元でしかできないことがあるということを学ぶことができた。 ・鮎釣りを通して最上の自然の豊かさにあらためて気づくことができました。 ・スマホなどが普及してきている今、自然と触れ合うことの大切さを学ぶことができた。		

活動の様子	
集合写真	
オトリ鮎の付け方を習う参加者	
上位入賞者と指導者の記念写真	
	

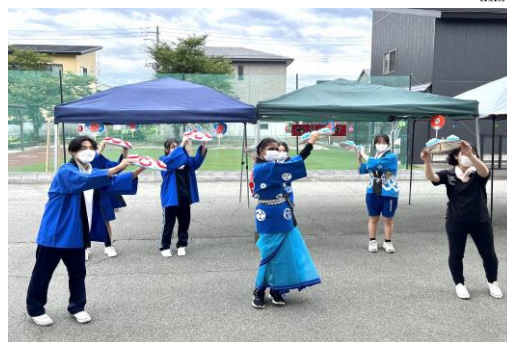
カテゴリー	体験・フィールドワーク		提供者	有限会社カイセイカンパニー		
プログラム名	バズるデイサービスの夏祭り					
日時	①令和4年8月2日（火） 13：30～15：00		場所	カイセイほっと新庄		
	②令和4年8月9日（火） 13：20～15：20					
協力者	カイセイほっと新庄職員					
参加者(延べ)	高校生	6 人	地域の大人・大学生	11 人	合計	17 人
目的 （地域課題・達成目標）	高齢者の方でデイサービスに通うのをためらう方が多い。早くから通う事で、重度化予防ができる事を発信するために「気軽に通える場作り」として夏祭りを企画・実行する。介護の担い手不足解消の為、若者へ介護職の魅力発信の方法について考える機会としたい。					
プログラム 内容	施設職員が考えた夏祭りの企画内容を高校生に伝え、そこに高校生よりアイデアを貰い、その内容も企画に取り入れた。夏祭り当日は、アイデアを下さった高校生の代表者より民族舞踊を披露して貰ったり、施設利用者様と一緒に花笠音頭を踊ったり、質問コーナーで施設利用者様との交流を図った。					
実施に 当たって の工夫	コロナ感染予防の為、打ち合わせはオンラインで開催した。出来る限り開催できる形を考え、当日の高校生には外から参加して貰い、ご利用者様と窓越しで対面して貰った。一方的にならないように、質問コーナー等を設けて利用者様とやりとりしたり、高校生の方より踊りを披露してもらう等、交流の場を作った。また、他事業所とzoomを使用してオンラインでの交流の場を設けた。					
目的に対する 成果	利用者様が楽しそうに笑顔で参加されていたり、高校生の笑顔も多く見られており、良い交流が図られていた。さらに明るく賑やかに盛り上げている施設職員の姿から、介護職のイメージアップに繋がったのではないかとと思われる。					
所感・感想 改善点	当初、高校生が参画できるプログラムを考えていたが、参加者が集まらなかったため、まずは一緒に楽しんで参加して貰う内容に変更したことで多数の高校生より参加して貰う事ができた。コロナ禍により制限が多い中の開催となったが、工夫により施設利用者様と交流が持て、高校生も楽しんで参加して頂けたように感じた。					
高校生の声	・地域の人々と交流をして、介護施設の利用者様と話したり、祭り形式で交流して関わり方を学べたこと。・利用者の方へのふれあい方、高校生のスタッフとしての積極的なサポート・高齢者の方と関わることで、若い力をもっと発信できることに改めて気がついた。・地域や大人、お年寄りとの繋がりやコミュニケーションの大切さを学びました。					

活動の様子

代表高校生による民族舞踊の披露



手作りの笠で、利用者様と一緒に花笠音頭を踊った。



質問コーナーでは、利用者様より様々な問いかけがあり、盛り上がった。



高校生・利用者様の笑顔溢れるプログラムとなった。



カテゴリー	体験・フィールドワーク		提供者	glassydesign		
プログラム名	モガミノノロシ MOGAMI NO NOROSHI					
日時	①令和4年10月30日（日）12:30～17:00		場所	新庄駅ゆめりあ内		
				花と緑の交流広場		
協力者	大友まさみ様、VOICE様					
参加者(延べ)	高校生	8 人	地域の大人・大学生	16 人	合計	24 人
目的 （地域課題・達成目標）	山形県内企業の6割以上が経営課題として上げている「人手不足」。最上地域商工会議所の会員アンケートでも「採用・人材育成」が課題のトップに。さらには最上は県外からの移住率ワースト1という今、最上地域で働き手や担い手を探す企業と、最上地域で働きたい人や学生それぞれの声を届け、正しい知識や情報をまとめ、新たな地域で働く魅力発見の場や人との繋がりを得るための場の提供を目指す。					
プログラム 内容	豪華なホテルの会場や、大きなイベントホールで行われている採用側がブースを設け、学生や求職者が歩いて回る従来の合同説明会や採用イベントに、時代に合わせた新たな選択肢を生み出す。イベント「モガミノノロシ」では採用側がステージに立ち、熱い想いをプレゼンテーション（地域企業のPR力向上にも期待できる）する新しい採用イベント。					
実施に 当たって の工夫	学生や求職者は見たい企業、見たい時間に会場に自由に出入り可能。音響や会場設営など会場に入るだけでワクワクするような演出を行った。オンラインでの視聴参加も可能にした。。これまでのブースの規模や広告費で集まる学生に差が生まれるようなことのない、企業の大小関係ないフェアな採用活動の場にした。まだ認知の無いプロジェクトのため、初回で希望の集客は難しいと捉え、あえて人通りの多いゆめりあを選んだ。					
目的に対する 成果	何より、継続する土台づくりが重要となるため、認知＋ブランドイメージづくりに今回は徹底した。会場設営に係るセットや、ポスター、チラシ、SNSでのプロモーションも含め、次回以降をしっかりと見据え戦略的に行った。イベント参加者は希望通りではなかったものの「ゆめりあ」という会場を選択した成果とし、ゆめりあ利用の方へ準備した登壇企業パンフレットを150袋配布に成功。（事務局さん、県の方協力のもと）。					
所感・感想 改善点	ジモト大学のプログラム発表からのプロモーション期間では、やはり短すぎたと感じている。各高校を周りプレゼンを行ったが実際に届けたい高校生へ十分に届けられたかという全く手応えを感じ取れなかった。地域住民への認知の精度を上げようとすれば当然コストがかかる。何より主となる高校生へのアプローチに関しては、手段・選択肢が少なすぎるので次回そこを改善していきたい。登壇者のプレゼンテーションの質（楽しませる・引き込む）を改善するためにサポートが必要だと感じた。まずは何と言っても認知を高め母数を上げていきたいと思う。					
高校生の声	・地元企業の経営理念など、最上地域で働く大人の方の思いを知ることができた。・地元での仕事の選択肢について学びきっかけになった。・地元は最高					

活動の様子

モガミノノロシメインビジュアルが飾られた受付デント



来場者へ向けて熱くプレゼンテーションする加藤社長



登壇者によるトークセッション。最上の可能性について、SNSからの



全員での記念撮影



カテゴリー	体験・フィールドワーク			提供者	株式会社JPD				
プログラム名	企業広告を作って、サイネージで流そう！								
日時	①令和4年8月9日（火）9:00～17:00			場所	ゆめりあ花と緑の交流広場				
協力者									
参加者(延べ)	高校生	7	人	地域の大人・大学生		人	合計	7	人
目的 （地域課題・達成目標）	最上地域には魅力的な地域や企業が沢山あるのに、PRがうまくできておらず知られていない事が多い。ジモトの企業に役立つお仕事を考えたい。自分で考え企画した動画を完成させることで、学びや成長を得る。								
プログラム 内容	動画の制作に興味がある方向け！ 動画制作を生業とする大人たちと一緒に、新庄駅の隣接施設であるゆめりあ内にある企業を宣伝するプロモーションビデオを企画し、動画の企画と撮影を行います。そしてゆめりあにあるサイネージに、制作した動画を期間限定で放映します。								
実施に 当たって の工夫	2グループに分かれて、制作物の方向性が被らないようにテーマをそれぞれ決めて制作にあたった。撮影担当・出演者など分担した。 協力してもらった店舗の意向に沿えるよう注意を払って制作した。								
目的に対する 成果	動画広告が2本製作され、その場でクライアントに発表することができた。 動画制作のしかた、協力してひとつのものを作り上げる時の一連の流れを体験してもらえたと思います。								
所感・感想 改善点	最初からオンライン開催を前提としないプログラム内容でしたが無事開催することができました。 オンライン講座や座学では味わえないライブ感のある制作体験をしていただけたと思います。 クリエイティブな分野に少しでも興味を持っていただける機会になれば幸いです。								
高校生の声	・実際にクライアントがいて、本物の仕事に近い体験をさせてもらったので、勉強になった。・たった30秒の広告に必要なことや苦労を学んだ。・物を綺麗に見せるための光の所の探し方や、どうやって切り取りするかなど細かいところまで見させていただいた・今回のプログラムで地元で仕事をすることに魅力を感じた								

活動の様子			
アイスブレイクのようす		喫茶コーナーで撮影するようす	
ミーティングのようす		制作物発表のようす	

カテゴリー		課題発見・解決		提供者		株式会社ヌマザワ	
プログラム名		高校生に学んでほしいSDGs					
日時		①令和4年8月5日（金）13：00～17：00		場所		Fiesta（こらっせ新庄1F）	
協力者		株式会社最上まいたけ・新庄市教育委員会（ALT先生派遣）					
参加者(延べ)		高校生	3人	地域の大人・大学生	3人	合計	6人
目的 （地域課題・達成目標）		今、私たちはなんの不自由もなく生活をしています。しかし、私たちの子供や孫の世代も同じ生活ができるとは限りません。これから生きる高校生に現状把握と未来志向をSDGsを通して楽しく学んで頂くことを目的としています。					
プログラム内容		持続可能な開発目標（SDGs）を地元経営者と外国の方と一緒に楽しく学ぶプログラムです。身近なニュースを新聞記事から切り取り、未来志向でSDGs17の目標に紐づけて自分で意見を述べて頂きました。他人の意見を聞くことも学びになります。最後に「CSR検定4級（SDGsの基礎講座）を受験して頂き修了書をお渡しさせて頂きました。					
実施に当たっての工夫		気候変動問題やエネルギー問題など身近な事例を用いることでより高校生の興味を引きました。また、意見発表では、高校生だけの意見ではなく、大人や外国の方の意見を聞くことでより参加者の気づきと学びにつながりました。そして、SDGsの基礎講座ミニテストを行うことで振り返りの学習効果を高めました。最後に修了証とSDGsバッジをお渡しさせて頂きました。					
目的に対する成果		SDGs17の目標をすべて伝えることはできませんでしたが、生徒たちがより関心度の高い地域課題に対して自分の意見をしっかり述べて頂くことで当事者意識を醸成できたと感じています。また、価値観の違う人と交流することで参加者の行動変容に変化を与えることができた実感しています。					
所感・感想改善点		この度のプログラムは①「SDGsの基礎を学ぶ」②「SDGsの理解を深めるためのワークショップ」③「CSR検定4級（SDGsの基礎講座）試験」のスケジュールで進行しました。事務局・インターン学生・地元経営者・ALTの先生方に支えられてこのプログラムが提供できたと感じています。ご協力頂きましたすべての皆様へ感謝申し上げます。課題としては、より多くの生徒さんにSDGsを伝えたい思いがありましたので、もう少し参加人数を増やしたかったことが挙げられます。次回はプログラム内容をより楽しそうな内容に変更し、高校生目線のワクワクするようなプログラムの企画に努めます。					
高校生の声		・SDGsに関する知識だけでなく、それを抽象化した思考法、たとえばボトムアップや長期思考、多角的な視点を学びました。 ・日本と外国では環境も教育も違うがSDGsという目標には変わりはないこと					

活動の様子

参加者みんなで記念撮影
(高校生3名・インターン学生1名
ALT先生2名・地元経営者1名)



活発な意見交換の様子



異文化交流の様子



参加者の意見発表の様子



カテゴリー	体験・フィールドワーク		提供者	ユニクロ新庄店	
プログラム名	ユニクロに潜入！全身ユニクロコーデスタイリングに挑戦！				
日時	①令和4年7月24日（日）8：00～10：00		場所	ユニクロ新庄店	
	②令和4年8月7日（日）8：00～10：00			ユニクロ新庄店	
協力者					
参加者(延べ)	高校生	21 人	地域の大人・大学生	人	合計 21 人
目的 （地域課題・達成目標）	高校卒業後、新庄最上から進学で県外へ行かれた方がまた地元に戻ってきて地元を盛り上げてくれるように、高校生の皆さんへ将来のことを考えるきっかけになればいいなという思いで参加いたしました。				
プログラム 内容	前半は店長のキャリアの紹介、ユニクロの会社説明、仕事選びの視点、将来何がしたいんだろう？これから一緒に考えていく。後半はユニクロの商品を使ってコーディネート提案していこう。テーマに沿って、要望通りのコーディネートを組めるかな？スタッフがフォローしつつ行う。				
実施に 当たって の工夫	自分が高校生だったら何を知りたいか、どんな使い方なら伝わるか考えて資料を作った。当日は、高校生が自分の考えや意見を発信しやすいよう接した。学びたいことを学べるように、1回目と2回目で内容を少し変更した。				
目的に対する 成果	高校生の皆さんのアンケート結果から、将来について考えるきっかけになった。コーディネートが楽しかったとの意見をいただき目標は達成されたと感じている。昨年からの取り組みだがこの先も継続して続けていきたい。新庄最上だけでなく、ユニクロ全店でもできる施策と思うのでこの取り組みをジモト大学の皆さんに全国へ広げていってほしい。				
所感・感想 改善点	地元の高校生とお客様という立場以外に関わることはなかったので非常に貴重な機会となりました。本当にありがとうございます。皆さんの学びたいことがキャリアよりもコーディネートでした。ただ、アンケート結果ではキャリアについて考えるきっかけになったとの回答をいただき意味のある講演会だったのかなと感じました。改善点として、実施の前に高校生がないを学びたいのかが先に知れるといいなと思います。座席量を作ってお名前を呼べるよう次回移行していきます。				
高校生の声	・服の製造過程、仕事選びで大切なこと・仕事を選ぶときいろいろな選び方があること・店長さんのユニクロの店員になった理由と楽しさ・時と場合に合った服装のコーディネート				

活動の様子

店長のキャリアについて



製造過程などを学びます



TPOにあったまたお客様の要望に合わせたコーディネート



みんなで！



カテゴリー	体験・フィールドワーク			提供者	株式会社宮城				
プログラム名	今年の祭りは浴衣で出掛けよう！								
日時	①令和4年 7月23日（土）10:30～12:00			場所	呉服の宮城				
	②令和4年8月20日（土）10:30～12:00				呉服の宮城				
協力者									
参加者(延べ)	高校生	14	人	地域の大人・大学生	2	人	合計	16	人
目 的 （地域課題・達成目標）	日本の大切な文化のひとつである「キモノ」に興味をもってもらい、身近なものに感じてもらう。また親から子へキモノが受け継がれていく事で、文化を含め世代間を繋いでいきたい。								
プログラム内容	女性は浴衣＋半幅帯、男性は浴衣＋角帯で練習します。 浴衣（ゆかた）はレンタルの用意があります。レンタルの浴衣を使用する場合は、クリーニング代として1500円の費用が掛かります。ご自分で浴衣をご用意できれば、レッスン料は0円です。 ※定員：女性6名、男性6名								
実施に当たっての工夫	浴衣の着方を親しみやすいイラストで示したプリントを男女共に用意した。実際に羽織ってみる前に、手順を説明する際に必要な浴衣を構成するパーツの呼び方についても、よく使われる慣用語やことわざなどを使って学んでもらいリラックスして受講出来るように心掛けた。（「袖の下」「袖ふりあうも他生の縁」など）								
目的に対する成果	単純に浴衣の着方の手順をマスターするだけではなく、歴史的な成り立ちや現在のTPOで着用することの意味、現代の浴衣が着物全般の中でどんな位置付けにあるのかなどを話したところ、興味深く聞いてくれていた。浴衣だけでなく伝統的な衣服全般への興味持ってもらうきっかけとなったように思う。全員が浴衣を着ることができ、お互いに写真を取り合うなどして、楽しんで体験してもらえた様子だった。								
所感・感想改善点	浴衣に触るのも初めてという高校生も多い中、着物を自分一人で着てみたいという意欲は非常に高く、質問をするなど一人一人主体的に体験に参加してくれ、教えていて手ごたえを感じた。浴衣を着ることが出来て喜んでいる様子を見て、こちらも嬉しくなった。また参加したい。 参加者の中には母の浴衣や祖母が用意してくれたというものを持参の高校生もあり、それをきっかけに地域に根付いた家族の歴史や風習に触れる機会を設けられたという点において実施の意義を感じた。 SNS等でもジモト大学について宣伝があるとよいと思う。								
高校生の声	・ 浴衣の着方のほかにも、浴衣を着用するようになった歴史や浴衣の柄に込められた意味など、たくさん様々なことを学ぶことができた。 ・ 浴衣の着方、浴衣を自分で着る楽しさを学ぶことができた。								

活動の様子

浴衣の着方のレクチャー



一人で帯を結べた！



カッコいい浴衣の着方



みんなで記念写真



カテゴリー	キャリア			提供者	新庄TCM株式会社			
プログラム名	新庄オリジナルの財布をデザインして全国に発信しよう							
日時	令和4年7月28日（木）17:00～19:00			場所	Fiesta（こらっせ新庄）			
	令和4年8月 8日（月）17:00～19:00				Fiesta（こらっせ新庄）			
	令和4年8月19日（金）17:00～19:00				Fiesta（こらっせ新庄）			
協力者	プロスノード株式会社 栗田昭夫会長							
参加者（延べ）	高校生	17人		地域の大人・大学生	2人		合計	19人
目的 （地域課題・達成目標）	新庄らしさを取り入れ「販売すること」を意識してデザインする。積極的な意見交換の中で新庄らしさや新庄の良さに気づき、それを全国にアピールできるようなお財布を作り、地域の人に発表する。							
プログラム内容	1日目はオンライン参加となり、新庄の職人さんに意見を聞きながら、どのようにデザインをしていくのか、方法を教えてもらった。2日目は考えてきたデザインを発表し、販売することを意識しながらデザインを固めていったり、新庄らしさをどう取り入れていくかお話し合った。3日目はサンプルを作ってもらった。ニーズや使い心地などにも重点を置き、職人さんに意見をもらいながらデザインを固めていった。							
実施に当たっての工夫	個々でコツコツと進めるプログラムの内容になるかなと予想していたのですが、積極的にアイデアを交換して欲しいと思い、アイスブレイクや自己紹介を丁寧に行うように意識しました。							
目的に対する成果	販売を意識する部分ではまだ足りないところがありましたが、高校生らしい考えが反映されていたり、新庄らしさについても意外な着眼点があり、お財布が出来上がるのが楽しみでした。盛りだくさんの内容だったので、プログラム終了後もFiestaを拠点に活動を続けられるようにしたものの、発表やお披露目の機会、そのもっと先がでなかったのが心残りです。							
所感・感想改善点	目標を達成するには圧倒的に時間が足りなかったと反省しています。この活動をきっかけにFiestaにも興味を持ってもらい、活動を続けて行けたらと考えていたのですが、Fiestaが休止してしまい、私も上手くサポートしていくことができず、中途半端に終わってしまったことを反省しています。平日のスケジュールになってしまったので、1日の活動時間をもう少しとれるように工夫したり、栗田さんに指導をもらうのも時間がとれていなかったように感じるので、プロスノードさんからもう一人意見をもらえる人がいてもよかったのではないかと思います。デザインするのを楽しもうという雰囲気があったので、よかったと思います。							
高校生の声	・ 財布作りをする上で大切なこと 新庄の魅力・ 財布を作るために形や色彩に加え、地域の特色やその年の流行などを参考にしていること。 ・ デザインの楽しさ、アイディアを出し合うこと 財布の外側のデザインだけをすると感じていたけれど、機能面でも考える体験をしてもものづくりの難しさと楽しさを学んだ。							

活動の様子

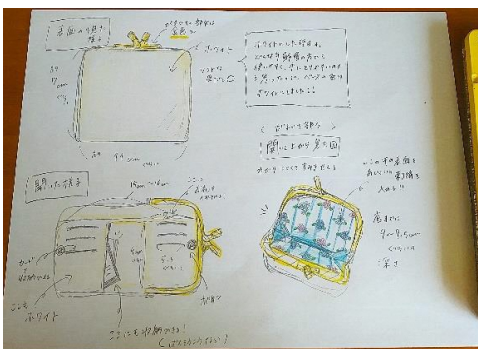
素材に触れながら意見を出し合います



本物のお財布を型にしてデザインするといよいよとアドバイス。



持ち寄ったデザインの一つ。ここからどんどん変化していきまいた。



実際にお金を入れて使い心地を確かめました。



カテゴリー	キャリア			提供者	東京電力リニューアブルパワー株式会社				
プログラム名	「18歳のリアル」ジブンとエネルギー社会のあした								
日時	①令和4年11月12日（土）13:00～16:00			場所	雪の里情報館				
協力者									
参加者(延べ)	高校生	4	人	地域の大人・大学生	4	人	合計	8	人
目的 （地域課題・達成目標）	第4次山形県総合発展計画より「政策の柱1：次代を担い地域を支える人材の育成・確保」における(施策3)社会の変化に対応して自立する力を伸ばす教育の充実への対応の一つとして、『社会の変化』×『自己の成長』を目指したキャリア講座を開催することで、ジモト理解、エネルギーリテラシー向上に貢献する								
プログラム内容	近年、持続可能な社会づくりを進めていくための政策として地域にまち・ひと・しごとを取り戻す「地方創生」、自然災害の激甚化に対応する「国土強靱化」、地球温暖化を防ぐ「脱炭素化」という3つの柱が注目されており、それらは“エネルギー”と深い関わりがあることから、エネルギー社会の今を、キャリアデザイン講座の形式のなかで、参加学生自身を主役にした『18歳のリアル』を映し出しながら、ともに考えるプログラム。								
実施に当たっての工夫	導入からクロージングまで、参加者とインタラクティブに対話していく方式を採用した。また、途中で学生自らが自身の言葉で宣言するワークや、他者との相互理解を促すためのペアワークを取り入れる等して、講義形式という形ではなく会場一体型の講座方式を志向した。								
目的に対する成果	概ね目的は達成できた。地元山形（新庄・最上）から日本、そして世界のエネルギーがどうなるのか。また生きるうえで必要なエネルギーの将来に向けて、山形で何ができるのか。そのような問いについて、自ら考え、同世代の考えを聴くことで、知識としての理解が深まっただけでなく、地元への思い、自身の目指す役割ということまで考えた学生がいたのは大きな成果だと考える。								
所感・感想改善点	会場は大変広く、環境としては申し分のない場所で開催できたがゆえに、参加人数が一桁だったことは大変残念な思い。もう少し一定の人数が集まったら、より相互作用が生まれ、幅広い意見が出たのではないかなと思うと惜まれる。ただ、事務局の皆様はじめ、関係者の方々が最後まで伴走してくれたのは心強かった。								
高校生の声	・ 普段考えたことの無かったエネルギーについて知れて勉強になった。 ・ 山形県の政策は見たことがあるが、国の立場として今後エネルギー政策をどう考えていこうとしているのかを知ることができて、新しい発見だった。 ・ 地元で再生可能エネルギーを増やしていくための取り組みについて、将来自身も貢献していきたい。								

活動の様子

講座開始時のルール説明の様子（半円を囲むような形で集合形式）



講義風景①（地球温暖化と関連災害についての解説）



参加高校生のみなさんと



講義風景②



カテゴリー	体験・フィールドワーク	提供者	M-Fluffy English-
プログラム名	under construction!高校生たちがイチから作り上げるプログラム		
日時	①令和4年 2月 1日(水) 13:00~15:00	場所	オンライン
協力者			
参加者(延べ)	高校生 2 人	地域の大人・大学生 人	合計 2 人
目的 (地域課題・達成目標)	高校生が主体的に本当にやりたいことをやれる場所の提供をすることが目的です。大人の好むパターンに作りがちになってしまうのが探究活動をしている高校生から滲み出ており、それを踏襲したやり方ではなく本来何がやりたいのかを自分たちで見つけてもらうこと		
プログラム内容	やりたいことを持っている高校生が集まって話し合う中でどんな形になっていくのか、高校生自身も手探りな中でどれだけ楽しめるか、どんなことが起こるのか。お互いのやりたいことを話し合うことから始まり、その中でやりたいことが分岐し始め、それぞれが別々に動き始める。そんな中で生まれたのが今回の曲。		
実施に当たっての工夫	とにかく見守ること、ヘルプが出せる場所にいること。それにより、途中、やりたいことが分かれ始めたタイミングで、別々に動くことを提案し、その結果、素晴らしい作品が生まれた。また、本来やりたかったことが見えなくなってしまうグループも、辞めるという決断をすることができたという一つの結論に辿り着けたことが良かった。		
目的に対する成果	やりたいことをやるためには、自分たちから自然と動かし、今はそれぞれがデバイスを持っているのでいつでも話し合いの場は持てる。そうやって見えないところで子供達は試行錯誤して生み出していく力を持っている。主体的に動くというのは、大人には実は見えないところで一番ワクワクすることが生まれているのだと思う。		
所感・感想改善点	いつになったら何がどう出来上がるのか、全く何も決まらずに、事務局の皆様には本当にご心配をおかけして申し訳ありませんでした。ただ、どうしても、大人からの指示を入れ込みたくなくて、とにかくギリギリまで待つという選択しかできませんでした。ともに見守っていただき、本当にありがとうございました。		
高校生の声	人が興味を持つような物を作る！		

活動の様子

楽曲はこれから!!

M-Fluffy English-

楽曲はこれから!!

カテゴリー	課題発見・解決			提供者	認定NPO法人IVY				
プログラム名	グローバル経済をシミュレーションするワークショップ								
日時	①令和4年12月18日（日）13：30～16：00			場所	新庄市立図書館				
協力者	IVYyourrh所属学生								
参加者(延べ)	高校生	4	人	地域の大人・大学生	5	人	合計	9	人
目的 （地域課題・達成目標）	自分たちの生活が、グローバル経済と切っては切れない状況にあること、最上で作られているものもこの流れに沿って流通していることを、ともすれば気がつかずに過ごしてしまっている・最上における生活が世界の動きと無関係ではないことを理解する・貿易における格差は、日本国内でも存在することを知る・公正な社会とはどんな社会なのかを考える。								
プログラム内容	「貿易」を中心に、世界経済の動きを疑似体験することによって、そこに存在するさまざまな問題について学び、その解決の道について考えることを目的としたシミュレーションするゲーム形式のワークショップ（開発教育協会作成）です。外務省NGO相談員制度活用。								
実施に当たっての工夫	参加者がなかなか集まらなかったため、とらいあの皆さんと広報の再考を行い、急遽チラシを作成し高校等で配布してもらった。								
目的に対する成果	このゲームは、世界の貿易を体感するために、さまざまな仕掛けがなされている。それを種明かししていくことによって、世界の貿易の状況を明らかにしていく。その過程において貿易による不均衡・不公平に気づいていくことになる。振り返りを行った際には、貿易だけでなくさまざまな場面での不公平についても言及があった。また、国同士の貿易だけでなく、国内においても企業の格差が物流に影響を与えていることを感じたようだった。								
所感・感想改善点	参加者集めに苦労したこと。原因として、・新・貿易ゲームがネットで検索できるので、ネタバレを防ぐため名前を変えて広報を行ったが、インパクトに欠けてしまったこと。・コロナが再度蔓延してしまったことなど、さまざまな要因があったが、早くに予測できることもあったので、チラシの作成、配布などを前広に行うべきだったと反省している。参加した方からも、折角の機会なのに参加者が少なく残念だったと言われており、来年度以降実施するのであれば、開催形態（学校で行うか）、時期（雪の季節ではなく）、広報を再考する必要がある。								
高校生の声	・国家間の格差、不平等さ　・山形にIVYという国際的に活躍するNPOがあること・今回はDチームでの参加でしたが、資源や道具の少なさに不満を抱いた場面もありました。しかし、これはゲームだけでなく現実でも起きていることで一歩間違えば争いに繋がるものだということを実感しました。貿易についてはどこか他人事のように感じていた部分もありましたが、これからは当事者意識を持ってニュースを見ていきたいと思います。								

活動の様子

最初に今日の趣旨を説明



大人チームと交渉中の高校生



ひたすら製品を作り続けるチーム



最後に、参加者がワークショップでの気づきを発表



カテゴリー	体験・フィールドワーク	提供者	市民活動団体Feel
プログラム名	作って食べよう！これから一人暮らしをはじめる君に捧げるYouTube動画作成part2		
日時	①令和4年12月10日（土）13:30～15:30	場所	新庄市民プラザ 調理室
協力者			
参加者(延べ)	高校生 15 人	地域の大人・大学生 7 人	合計 22 人
目的 (地域課題・達成目標)	当地では高校卒業後、家を離れ一人暮らしを始める子供が多い。全て自分でやらなければならない生活の中で、食生活が一番疎かになりがちなことから、自炊への敷居が低くなるような簡単な料理体験を通じて、1つでも自分のレパートリーを手に入れてもらう。		
プログラム内容	ミニホットプレートを使ったメニュー4つの中から、1つは自分で料理し残る3つは見学を通して疑似体験。YouTubeにアップして、料理初心者や現在一人暮らしの人にも、簡単にできるコツを伝える。		
実施に当たっての工夫	単身用のキッチンの現状や、洗いものが多いと敬遠されることをふまえ、ミニホットプレートを使用。まな板や包丁など、道具も出来るだけ使わずに短時間でできるメニューをFeelメンバーとキッズキッチンインストラクターが考案。自分の作った一品の他に何をプラスすると栄養的に一食として完成するかも伝えた。ホットプレートはどこでも安く購入できるものを使用（ニトリ・1790円）		
目的に対する成果	ご飯もの、パンなどの主食から野菜がとれる副菜など、いろいろ作れることを体験できた。ホットプレートの使い勝手のよさはもちろん、まな板や包丁など使わず、キッチンばさみを使いながら洗い物をださない工夫を実際体験したことで、自炊に対するハードルが下がったと感じる。使う食材も実際自分の子供に送ったものもあり、現実を感じてもらえたのでは。また自力で一品作ることで自分に自信をもてたのではないかな。		
所感・感想改善点	高校生になってから、一度も調理実習をしていない生徒さん達。皆で作る楽しさも伝えることができたと思う。授業にはない手法は当団体の主な事業である幼児対象「食体験教室キッズキッチン」で培われたものでもあり、メニューもそのノウハウを活かした実践的なもの。年齢とわず単身者にもぴったりのものになりました。今回は試食せず持ち帰りだったので、体験メニューを減らすことになったのはとても残念だった。夏開催が12月まで延期となったことで動画編集に手をあげていた人もキャンセルに。今回も編集はスタッフ関係者となります。		
高校生の声	簡単な料理でいいから、とにかく作ってみること ホットプレートがあると簡単に自炊できる・おいしいものが作れる ハサミの使い勝手がよい 手軽に料理はできる みんなで作ると楽しい 将来自炊をすることがいかに難しいかわかった。どう料理に触れていくか考えたい 物をあまり使わない料理がこの先役にたつことを知った いかに洗いものを増やさないか		

活動の様子

伝授
一人暮らしになった時の調理のコツを



ホットプレートでオムレツ



工夫一つで簡単に栄養満点の料理ができるのに興味津々



キッチンバサミとトングは一人暮らしの必須アイテム



カテゴリー	体験・フィールドワーク		提供者	高校生地域開発チームWATS		
プログラム名	YouTubeライブ配信でかたるにゃあ〜♪					
日時	①令和4年7月17日（日）13:00～16:00		場所	スタイルハート		
協力者						
参加者(延べ)	高校生	3人	地域の大人・大学生	4人	合計	7人
目的 （地域課題・達成目標）	地域の情報発信など、インターネットを活用してLIVE配信する技能を身につける					
プログラム内容	WATSのメンバーとLIVE配信！高機能機材を使って一緒にLIVE配信番組を作りましょう！LIVE配信のシステムや機材の使い方も知れたりしちゃいます！					
実施に当たっての工夫	専門的知識を有していなくても、簡単に配信できるように仕組みを理解してもらった。また、機材などが無くても、スマホなどで配信出来ることなど、将来、情報発信ができるよう話しました。					
目的に対する成果	実際に機材を使ってもらい、LIVE配信を身近に感じてもらう事ができた。					
所感・感想改善点	LIVE配信自体が身近になりつつある昨今、自分たちでコンテンツを制作する事はハードルが高いと思います。特にテーマ決めや何を目的にやっていくのか？そういったことを少しでも体験してもらえたことは良かったと思います。将来、山形県・・・と言うより、最上地方の情報発信に少しでも興味を持ってもらえたらなあと思いました。					
高校生の声	新庄についてや地域の人の良さや力強さを知ることができた。 地元からいったん出るがいずれ地元に戻ってきたい 地域に貢献したい					

活動の様子

みんなと記念撮影



ハイスクールかたるにゃあ
2022 配信中



トークテーマは「学校生活」「新庄まつり」などたくさん語りました



YouTubeチャンネルもあるので
チェックしてください！



カテゴリー	体験・フィールドワーク			提供者	地域活動グループよりみちくら部				
プログラム名	押し語りしたくないか？俺はしたい。								
日時	①令和4年7月31日（日）10:00～16:00			場所	ゆめりあ会議室				
	②令和4年8月7日（日）10:00～16:00				市民プラザ 2階ギャラリー				
	③令和4年9月4日（日）10:00～16:00				市民プラザ 2階ギャラリー				
協力者	地域の大人、大学生								
参加者(延べ)	高校生	19	人	地域の大人・大学生	20	人	合計	39	人
目的 （地域課題・達成目標）	多様性を尊重し合える空気感が地域に醸成されていないことを課題として捉え、不確かな未来を生きる力を養うためにも、自己表現力を高めることと、お互いに多様性を尊重し合うことの必要性を、若い世代から涵養したい。								
プログラム内容	このプログラムでの推しは「好き、おすすめしたい、お気に入り」の意味とし、ジャンルを問わず「すっごく好き」なものから「なんとなく好き」なものまで気軽に語り合える内容とした。最初に5～6名のグループに分かれて自分の推しについて語り、他のメンバーからの感想や質問で内容を深めた。それを踏まえて参加者全員に対して、自分の推しを1人ずつ語った。								
実施に当たっての工夫	・本題である押し語りと同じぐらいの時間をアイスブレイクに費やし、自分の思いを他者に伝えやすい雰囲気づくりを行った。・自分の推しを語るうえで、自分の気持ちを整理できるような簡単なチェックシートを用意した。・応援（リアクション）するためのうちわを用意した。・各人の推しをプロジェクターで投影し、可視化することで理解しやすくした。								
目的に対する成果	アイスブレイクを含めたプログラム実施の中で、自己表現力を含めたコミュニケーション能力の向上や新たな視点の発見、多様性を尊重し合うことへの理解の促進といった狙いについて、参加者があえて意識することなく自然に学ぶことができたと考える。								
所感・感想改善点	・ジモト大学のプログラムが多様化する中で、よりみちくら部は常に「楽しさ」を第一に考えたプログラム提供を心がけている。高校生にとって、ジモト大学はあくまでキッカケであるという考えのもとに、その後にどう繋がっていくのかに重きを置きたい。・今回のプログラムについては、「推し」がテーマということで、プログラム名など、参加者の気持ちのハードルをどれだけ下げられるかを意識した。「押し語り」という、楽しいけれど難しいテーマだったが、参加者の様子からは上手く実施できたものと考えている。・運営スタッフも、高校生や進学した大学生メンバーが多かったせいか、参加高校生と楽しく活動できたようだった。・今後もプログラム提供する機会があれば、これまで同様尖った内容にしたい。								
高校生の声	・好きなものを肯定してもらえると嬉しいということ・推しは自分の生きがいになるだけではなく人と人を繋げてくれるすごい存在・それぞれ推しが違ったり世代が違うけどコミュニケーションを取る事の大切さを学んだ・自分の好きなモノ、コトを語り合うことは新たな発見をすることができること。・また押し語りプログラムやりたい！！								

活動の様子

自分の推しをお披露目



初回集合写真



みんなと推しを共有



アイスブレイクでチームごとに作戦会議



カテゴリー	体験・フィールドワーク			提供者	ボードゲーム三国同盟				
プログラム名	ボードゲームで新庄を豊かに								
日時	①令和4年7月30日(土)10:00~14:00			場所	新庄市民プラザ				
	②令和4年12月28日(水)9:30~12:30				雪の里情報館				
協力者	長澤英一郎さん、岸家具店、最上マイプロ推進委員会								
参加者(延べ)	高校生	29	人	地域の大人・大学生	10	人	合計	39	人
目的 (地域課題・達成目標)	高齢化、過疎化などから新庄の魅力がうすれつつあると感じた。そこで、幅広い年代の人がプレイすることのできるボードゲーム(カタン)を通して、新庄の魅力を再発見すると同時に、地域の方々とコミュニケーションを取ってもらい、新庄活性化につなげる。								
プログラム内容	①山形でボードゲームを作成した山形中央高校の生徒さんをお呼びし、参加者の人と共に山形版カタンをプレイしてもらってから、新庄版につながるアイデアを出してもらう。②実際にボードゲーム三国同盟で一回目のジモト大学のアイデアをもとに作成した新庄版カタンを参加者の方にプレゼンし、その後実際にプレイしてもらい、感想、改善点を出してもらう。								
実施に当たっての工夫	地域版のボードゲームを作成することはなかなか想像しにくいと感じたため、先行する山形中央高校が制作した「山形版カタン」をプレイしてもらうことにより、イメージしやすくなったこと。また、新庄の魅力もすぐに思い浮かぶものは限られてくると感じたため、新庄の観光マップを用意した。								
目的に対する成果	参加者が新庄の魅力について理解を深めてくれた他に、新聞やニュースに取り上げてもらったことにより、より多くの方に新庄版カタンの存在を知ってもらった。広報活動により今後さらに新庄の魅力を伝えられると感じた。また、初対面の人とでも仲良くプレイできるためボードゲームを通して、年代を超えてコミュニケーションを取ることができた。								
所感・感想改善点	第一回目のプログラムを行う前は完成するか分らなかったが、一回目で沢山のアイデアを出してもらったため、完成に近づいたと思う。そして、制作にあたって、駒やデザインはそれぞれが得意とする人に依頼したため予想以上のクオリティに仕上がった。また、参加者の感想を見て、楽しんでいただけた方が多かったため、嬉しかった。ボードゲーム自体のルールを説明するのが難しかったので改善していきたい。								
高校生の声	・新庄市などの伝統的なものや、名物などを知ることができた。また、ゲームで地域を紹介することもできるんだなと思いました。・最上地方のいいところを学べた・新庄の魅力を再認識できたし、新庄をPRする過程で説明力などがついた・ボードゲームと地域を関連付けることができる可能性								

活動の様子

山形版カタンプレイ



第一回目集合の様子



新庄版カタン体験



新庄版カタン楽しかった



カテゴリー	課題発見・解決			提供者	尚絅学院大学ボランティアチームTASKI				
プログラム名	TASKI塾～地域の魅力と防災編～								
日時	①令和4年9月17日（土）10:00～12:30			場所	オンライン				
協力者									
参加者(延べ)	高校生	2	人	地域の大人・大学生	18	人	合計	20	人
目的 （地域課題・達成目標）	関上のことを知ってもらい、震災を自分ごととして捉え、防災意識を高めてもらう。 自分の地域の防災について考える。 地域の魅力を再確認してもらう。								
プログラム 内容	テーマは「地域の魅力を再発見しながら防災について考えよう!」。TASKIから宮城県名取市関上地区の魅力を紹介と防災・減災について講義をした。高校生も自分の地元について発表することで魅力について改めて考え、起こりうる災害とも関連付けながら大学生とグループワークをした。								
実施に 当たって の工夫	高校生のならではの意見を尊重するために、地域の大人とは別のグループで大学生と話し合いを行った。大人の意見を参考にせず、高校生ならではの意見を話せる状況を作った。また、アイスブレイクを含めた自己紹介や山形のラーメンの話題にも触れるなど、楽しい話題も取り入れた。								
目的に対する 成果	関上の復興状況や防災の基本情報などから、防災が日常的なものであることを認識してもらうことができた。防災意識の向上に繋がった。自分の地域の防災に関しては、自分がどのような心持ちで防災・減災を考えていくかという視点になった。また、防災・減災に関して考えるきっかけが必要で、若者がそれを進めていくことに意味があるとの考えを得ることができた。								
所感・感想 改善点	プログラムは滞りなく、高校生と積極的にやり取りをしながら進めていくことができた。TASKIの発表も日々学んでいることや、感じていることを自分たちなりに高校生に伝えることができたのではないかなと思う。また、グループワークの時も、全体で発表や意見交換するときも、気軽に話せるような雰囲気作りができたのではないかなと思った。グループワークをファシリテートしていく中で、発表者の意見に対して話題などを広げながら進めていくことができたならより深い話し合いになったのではないかなと思う。								
高校生の声	・身近なことからでも、防災をする大切さや地域の方とコミュニケーションをとることを学んだ。 ・防災に当事者意識をもつべきだ、ということを学んだ。								

活動の様子

TASKIからの講義の様子



グループワークの様子



高校生から地元の紹介



最後はみんなでTASKIのポーズ!



カテゴリー	体験・フィールドワーク		提供者	東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科	
プログラム名	古着トーーーク！（ヴィンテージファッション体験）				
日時	①令和4年7月16日(土)13：00～15：00		場所	新庄市民プラザ	
協力者					
参加者(延べ)	高校生	5人	地域の大人・大学生	3人	合計8人
目的 (地域課題・達成目標)	①新品の服の他にも、古着という選択肢があるということに気が付く ②古着のファッションを楽しむことができる ③古着を通して、まつわる歴史や経緯、物語を知り、想像力を高めることができる				
プログラム内容	大学生が持ってきた古着を実際に触ったり、試着したりできます。参加者同士の軽い自己紹介やファッションへの興味を共有した後、自分の着ている服や着たい服について考えたり、古着の歴史への理解を深めたり、引き継がれてきた1着1着の服の物語を、カジュアルな会話の中で味わっていきます。				
実施に当たっての工夫	実際に古着に触れ、試着まで体験できるように、当日は実際に大学生が使用している古着20着以上を、古着屋のように陳列し、ざくばらんにコミュニケーションをとりながら古着ファッションが楽しめるようにした。また、それぞれの古着に関する歴史や元々の用途などを知ること、ファッションとしてだけではなく教養としての楽しみ方を提供できるようにした。				
目的に対する成果	参加してくれた高校生は最初は緊張気味だったが、並べられた古着にまず驚いてる様子で、古着を来ながら大学生と交流する中で徐々に打ち解けていった。また、試着し、お互いに褒め合うことで、自己肯定感の醸成にもつながったのではないだろうか。				
所感・感想改善点	概ね、プログラムとして成功したのではないと思う。参加者も飽きずに活動に親しむことができ、また参加者同士も和気藹々と交流することができた。また、当初の狙い通り、ファッションを楽しむだけではなく、歴史など、教科学習への興味にも派生したのではないと思う。				
高校生の声	・古着についてどんな歴史があるか、古着の良さについてを知ることができました。・古着の奥深さや面白さ				

活動の様子

大学生から古着を勧められている様子



古着の歴史に関するレクチャー



大切な冬着たち



高校生同士で試着する服を選んでる様子

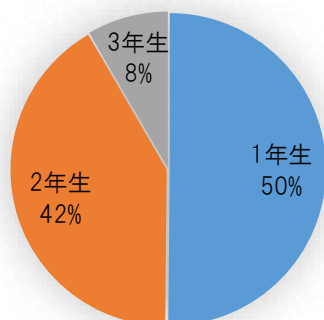


令和4年度 新庄・最上ジモト大学プログラム参加者 アンケート結果

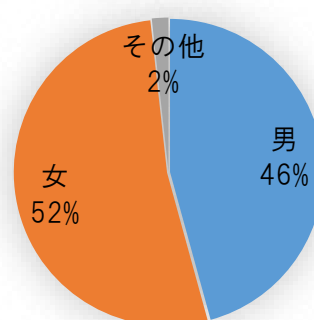
<調査概要>

- ・対 象：新庄・最上ジモト大学プログラムに参加した高校生
- ・回収数：633 件

【学年】

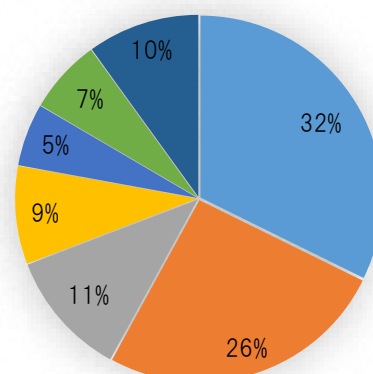


【性別】



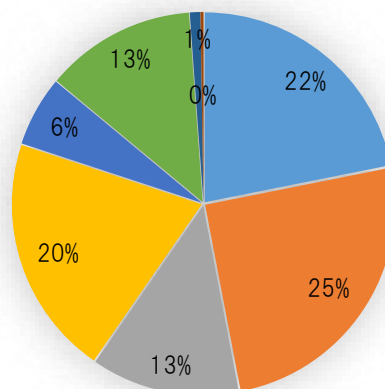
問1 このプログラムを選んだ理由を教えてください。（複数回答可）

- プログラム内容に興味・関心があったから
- 将来、役に立ちそうだったから
- 地域の人と関わりを持てそうだったから
- 授業に位置づけられているから仕方なく
- 先生や親などから勧められたから
- 友人が選んだから
- 参加しやすい日程、場所だったから
- その他



問2 今回参加したプログラムの良かった点を教えてください。（複数回答可）

- 今まで知らなかった地域の魅力を知ることができた
- 普段、学校ではできない経験ができた
- 活動に参加して自分自身が成長できた
- 将来を考えるきっかけになった
- 他校の生徒との交流の輪が広がった
- 地域の人と活動できてよかった
- 良かった点はなかった（イメージしていたものと違った）
- その他



問3 今回参加したプログラムでは、どのようなことを学んだと思いますか。

講師の方々皆さんが今の職業にやりがいと楽しさを感じていて、私も職業に対してポジティブに考えたい

地元企業の経営理念など、最上地域で働く大人の方の思いを知ることができた

仕事をしていくなかで成長するためには、限界をつくらず、自分で努力することが大切だとわかった

地元にもこんなに魅力を感じる仕事があるんだという事を学ぶことが出来た

自分がやりたいことや、好きなことを将来出来るように知識や経験を得るということが大切だと言うことがわかった

話をしてくれた人たちがとてもフレンドリーで、マイナスなイメージなどが取れました。視野が広がり興味も持てた

歴史や街の風景などをあらためて知り、地域の理解がより深まった

豊かな自然を活用し、様々な人々と触れ合うことができる地元でしかできない事があるということを知ることができた

普段何気なく通っている場所でも意外と知らないことがあること

自分の住んでいる地域にも意外と知らない場所があって、改めて自分の住んでいる地域について知ることが出来たと思う

信頼関係の大切さや自分の特徴やいいところを磨くことが大切ということ

地元で知らない楽しみ方があることを知れた

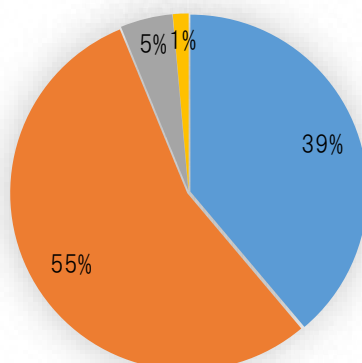
地域のためになることを考える大切さを学んだと思いました

自分の世界が広がったように感じた。他の人の感じ方や価値観を認める姿勢を学んだ

みんな、それぞれ違う意見がありとても面白かった

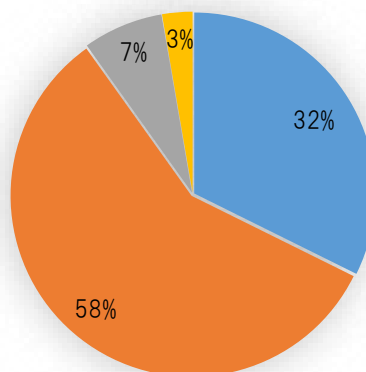
問4 今回参加したプログラムを通して、もっと地域のことを勉強したり、地域と関わりを持ちたいと思いましたか。

- とてもそう思う
- そう思う
- あまり思わない
- 全く思わない



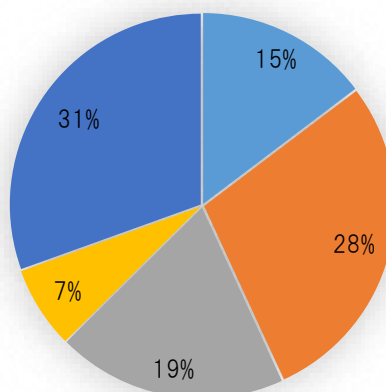
問5 またジモト大学プログラムに参加したいと思いますか。

- とてもそう思う
- そう思う
- あまり思わない
- 全く思わない



問6 将来、地元とどのように関わっていきたいですか。

- このまま地元に残りたい
- 地元からいったん出るがいずれ地元に戻ってきたい
- 地元には残らないが何らかの形で地元に関わっていきたい
- 地元に残りたくない
- まだ分からない



問7 その理由を教えてください。

自分の生まれ育った
この地域に貢献した
と思ったから

家族がいるし、新庄
が好きだから

地元がとても好きで、
愛着が湧いているか
ら

地元が好きなので他
県で様々なことを学
んで地域活性化に貢
献したいと思った

他の県などで必要な
知識を学んだ後地域
に戻って何かしら活
躍したいから

県外のことを知る
と、より一層地元の
良いところを知れる
と思うから

自分の夢のためのこ
とをしたい。でも地
元のことをずっと大
切にしていきたいから

大学で学びたいと思
っているグラフィッ
クデザインを活かし
て地元商品のPRを
してみたい

大学、就職は他県で
考えているが、地元
をよくしたいという
思いもあるから

自分のやりたいこと
をするためには地元
を出る必要があると
感じているため

したい仕事が地元
には数少ない

何もないから
田舎だから

将来の夢がまだはっ
きりしていないから

まだ自分の気持ちに
関する決定打がない
から

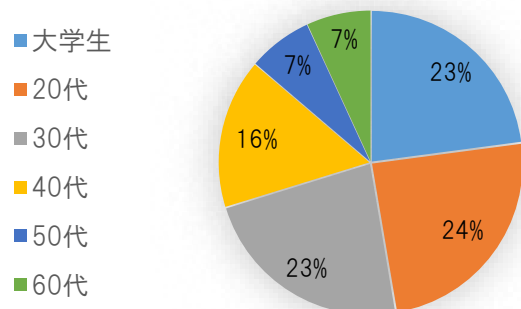
そのまま残りたいと
いう気持ちもあるけ
ど、買い物の不便さ
や人の少なさで、残
りたくないという気
持ちもあるから

令和4年度 新庄・最上ジモト大学プログラム協力者 アンケート結果

<調査概要>

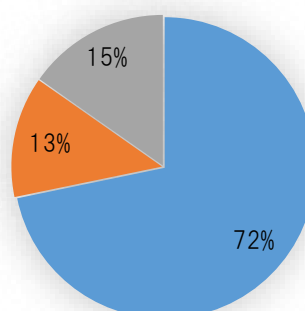
- ・対 象：新庄・最上ジモト大学プログラムに協力してくれた大人の方
- ・回収数：131 件

【年齢】



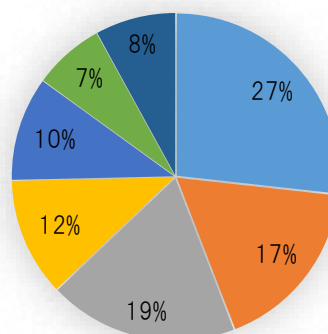
問1 「新庄・最上ジモト大学」を知っていましたか。

- 内容まで知っていた
- 名前だけ聞いたことがあった
- 今回初めて知った



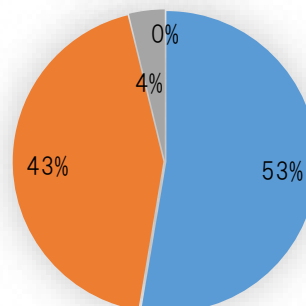
問2 今回、プログラムに参加した理由を教えてください。

- プログラム提供者から頼まれたから
- 会社(団体)から参加するよう言われたから
- 高校生と交流してみたいと思ったから
- 高校生の力になりたいと思ったから
- 地域のために役に立ちたいと思ったから
- 地域のことを学びたいと思ったから
- その他



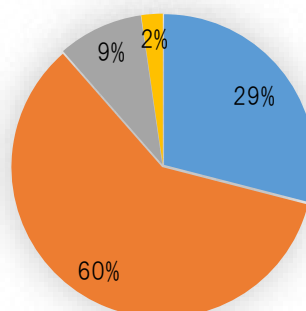
問4 プログラムに参加してみて、自分自身にとって充実感や満足感はありましたか。

- とてもそう感じる
- そう感じる
- あまり感じない
- 全く感じない



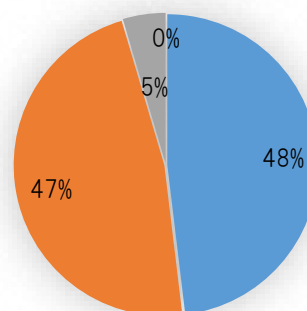
問5 プログラムを通して、高校生の変化や成長を感じることができましたか。

- とてもそう感じる
- そう感じる
- あまり感じない
- 全く感じない



問6 このようなプログラムにまた協力したいと思いましたか。

- とてもそう思う
- そう思う
- あまり思わない
- 全く思わない



問7 参加して良かったと感じた点を具体的に教えてください。

仕事やその他のことにどう向き合うか考え直すきっかけになった

高校生とコミュニケーションを取る機会が普段ないので楽しかった

高校生と繋がれたこと、何に興味があるのか知る事ができてよかった

高校生が少し変わったように感じたのと、自分自身も楽しむことが出来た！

10代の感覚に触れることができた

自分にはない考えやいろんな世代の考えを知れた

地元高校生を地元民として、応援する気持ちに気付く事ができた

地域の力が高校生の力になっていることが分かった

高校生の時の自分を思い出し、温かい気持ちになった

高校生の生き生きした顔を見ることができた

高校生と触れ合うことでいろんな事を逆に教えてもらった

高校生の頑張りを知ることができた

大人では考えつかない考えやアイデアを知ることができて大変勉強になった

地域の企業の考えや想い、志を伝えることができた

考えるのが楽しかった。高校生との交流が新鮮！

記事・広報



EDITORIAL COLUMN

社説

最上8市町村と県が「つくる最上地域政策研究所」は、発足から10年が経過した。地域内の課題について認識を共有し、2年を1期とし5期にわたって解決策を採ってきた。実際に事業化された施策もあり、その研究手法と成果は県内の行政関係者から注目されてきた。次の10年に向け、さらに実効性のある施策を打ち出し続けてもらいたい。

研究所は8市町村と県最上総合支庁、それに最上広域市町村圏事務組合が連携協定を結び、2012年度に設置した。市町村と県が共同で政策研究機関を設けるのは全国でも例がないとされ、当初は職員の政策立案能力の向上に主眼が置かれた。研究員は20〜30代を主体にした市町村と総合支庁の若手で、10年で活動に加わった職員は75人を数える。研究テーマは6次産業化、観光交流、地域交通、

最上地域政策研究所、発足10年

克雪対策、高齢者支援と多岐にわたり、第3期からは軸足を実現可能な施策の立案にシフトした。

研究成果が事業化された主な例として、地域内の高校生向け講座「新庄・最上ジモト大学」が挙げられる。「地域の持続的発展に向けた若手中核人材の確保」について研究所が提案。地域内の高校、

ども研究所の議論が契機となった。これらの成果が、他の自治体に注目される理由だろう。

10年の節目を迎えた第5期（20、21年度）は「若者の定着・回帰」をテーマにした。10人の研究員は月2回のペースで議論や研修を重ね、Uターン促進施策を立案。インターネットによる情報発信

実効性ある施策さらに

市町村、県に加え、企業や市民グループも参画する「オール最上」による事業として17年度にスタートした。21年度は尾花沢市が新たに加わり、延べ約900人の生徒が受講。最上地域における若者定着・人材確保事業の大きな柱となっている。ほかに、新庄市街地を走る市営バス「まちなか循環線」の新設（18年度）な

の強化、移住者サポーターや受け入れ地域の認証制度創設、相談センター設置などを戦略としてまとめた。報告書では、最上地域内の連携強化の必要性を指摘し「マンパワー不足だからこそ、県・市町村が一つになって取り組み、それをサポートする体制が重要」と結んだ。

事業として予算化した。移住・定住に関する情報サイト「ふるさと最上暮らし館（仮称）」を開発するとともに推進員を配置し、移住相談への対応、現地視察のコーディネートなどで市町村連携による取り組みを支援していく考えだ。

既に第6期の研究テーマも固まっている。先端技術で暮らしや産業を革新させるデジタルトランスフォーメーション（DX）が進展する中、デジタル化の本質を正確に捉え、地域に即した新たな施策を研究するという。より意義のあるものにするため民間企業との連携、協働も検討してほしい。

この10年で最上地域の人口減少は他の地域を上回るペースで進んだ。次の10年こそ、最上地域政策研究所の役割は大きなものになる。移住やUターン促進といった外に目を向けた施策に加え、この地域に住み、守り続ける人々の視点も重視しながら、議論を深めることを期待したい。

2022年4月4日

コンソーシアム総会
相互理解注力を確認

新庄・最上シモト大学

最上地域を中心にした高校生に地元の大人と交流しながら多様な学びを提供する「新庄・最上シモト大学推進コンソーシアム」（代表・泉洋之県最上総合支庁長）の総会が19日、新庄市の同支庁で開かれた。写真。6年目を迎える2022年度の活動を充実させるため、参加企業や団体との連携強化、相互理解に注力することを確認した。

シモト大学は最上地域と尾花沢市内の高校に通う生



徒を対象に、各自治体や地元企業などがさまざまなプログラムを用意。17年度に始まり、プログラム数、参加者数ともに年々増え、21年度は34の事業に延べ900人以上が参加した。一例として、高校生が主体となり、地域をPRする動画制作などに取り組んだ。22年度も新型コロナウイルス感染症対策を講じながら30以上のプログラム実施を目標とし、7月中旬以降の開始

を予定する。

総会には最上地域と尾花沢市の各首長や担当者、各高校の校長、各商工団体の代表ら約20人が出席。泉支庁長は「高校生はもちろんだが、大人にとっても学ぶ場として認知されている。地域の連携を深め、シモト大学の輪をさらに広げたい」などとあいさつした。

（佐々木亨）

最上総合支庁の施策

人材確保



新庄・最上ジモト大学の大蔵村プログラムに
新庄北高の生徒が参加。棚田米のPR動画作
りに挑戦した
〓2021年9月

「ジモト大学」で地域愛醸成

県内他地域に比べて人口規模が小さい最上地域だが、住みよい古里を後世に残すため若者の地元定着、人材確保に向けて経済界、教育、行政機関が一丸となった「オール最上」の取り組みを引き続き、子どもたちの成長に応じて展開する。

小中学生向けの地元企業見学ツアー、新社会人を対象にした仲間づくり研修会などを実施。そんな中、就職をリアルに意識する高校生が身近な大人と接することで地域を学ぶ「新庄・最上ジモト大学」の取り組みが年々、広がっている。

ジモト大学は2017年度

県内他地域に比べて人口規模が小さい最上地域だが、住みよい古里を後世に残すため若者の地元定着、人材確保に向けて経済界、教育、行政機関が一丸となった「オール最上」の取り組みを引き続き、子どもたちの成長に応じて展開する。

い、就労後のキャリア形成などについて情報発信を強化する。

本年度は移住定住を促す最上地域独自の施策「ふるさと最上暮らし館事業」にも乗り出す。地域外の若者をターゲットにした定期的、タイムリーな情報発信のほか、東京とオンラインで結んだ移住相談、移住を考える人向けの現地視察コーディネートなどを計画する。

女性の社会参画推進を目的にしたシンポジウム開催や、結婚を望む男女の希望に寄り添う「やまがた縁結びたい」として活動できる人材の育成事業にも取り組む。

職種で活躍する同世代の先輩を招いた特別授業などを企画し、地元で働くイメージが持てる場をつくる。進学などで古里を離れた人に向けて最上地域で働くことのやりが

い、就労後のキャリア形成などについて情報発信を強化する。

ワイド地域

酒田支社 0234(5)1580
鶴岡支社 0235(2)2810
新庄支社 0233(2)3580
尾花沢支社 0237(2)0165

村山支社 0237(5)2532
東根支社 0237(4)7333
寒河江支社 0237(8)4241

地域の情報をお寄せください

「ジモト大学」16日開校

最上地域など
最多の42講座

最上地域の高校生を主な対象に、多彩な学びの場を提供する「新庄・最上ジモト大学」の2022年度プログラムが16日を皮切りに始まる。6年目の今回は過去最多の42講座が用意され、それぞれ参加者を募集している。

「新庄・最上ジモト大学推進コンソーシアム」(代表・泉洋之真最上総合支庁長)が主催。最上8市町村と尾花沢市、同支庁が行政プログラムを、地元の企業や団体が地域プログラムを用意した。

各講座は昨年同様、キャリア、体験・フィールドワーク、課題発見・解決の三つに分類。葬祭業のヌマザワ(新庄市)はSDGs(持続可能な開発目標)について、地元経営者や外国語指導助手(ALT)と一緒に学ぶ講座を企画した。昨年12月に手話言語条例を制定した同市は手話通訳に関し、実践を交えた講座を開く。

22年度の初回講座は、古着ファッションの魅力をテーマに東北芸術工科大(山形市)の学生と交流する「古着トーク」で、16日に新庄市民プラザで開かれる。講座ごとに開催日時を設定しており、1日限りが多い。事務局の最上総合支庁の担当



2022年度新庄・最上ジモト大学の各プログラムを紹介するパンフレット



2022.7.16-2023.1.31

者らが管内の高校などを回り、説明会を開催した。問い合わせは一般社団法人とらいあ0233(29)8150。(佐々木亨)

最上小国川、高校生釣り甲子園

「最上小国川釣り甲子園大会」が30日、最上町の最上小国川公園付近で開かれ、高校生が全国有数の釣り場で竿を操り、その引きを楽しんだ。

最上地域の高校などから25人が参加し、生きたアユをおどりに使う釣りや、愛好者の「大きい石がある場所を狙う」「おどりのアユを静かに泳がせる」などと助言を受け、釣り糸を垂らした。アユが釣れると「やったー」と高校生は思わず笑顔に。新庄南高3年沼沢朔也さん(17)は「アユ釣り

この手応え、気持ちいい



全国有数の釣り場で高校生が竿を操り、その引きを楽しんだ「最上小国川釣り甲子園大会」

最上町

は初めて。手応えが強く、これは来たと思った。気持ちいい」と話していた。

アユ釣り人口拡大のため最上小国川清流未来振興機構が主催し3回目。最上地域の高校生などに学びの場を提供する「新庄・最上ジモト大学」のプログラムとして実施した。入賞者は次の通り。

(かつ内)は学校名と学年

①菊池陽雅・荻井壮旭(新庄北) ②佐藤翔吾・安達健(同) ③庄司光太郎(同3)

(斎藤百貴)

紙面編集・松浦悠人

しなやか 高校生

手話で意思疎通広く

2校から「ジモト大学」講座に

【新庄】 高校生に学校生活での不便な点を紹介した上で「肩をたたいた」場を提供する「新庄・最上ジモト大学」の手話について学ぶ講座が6日、新庄市民プラザで開かれた。新庄北、新庄南両校の1、2年生8人が音のない世界への理解を深めた。同市聴覚障害者協会（前島誠一会長）の会員が講師を務め、「こんにちは」など基本的な手話のあいさつについて解説。このほか、「外見だけでは耳が聞こえないことを分かってもらいたい」と、日常



グローバル思考養う

高校生対象、SDGs 講座

【新庄】 高校生を対象にしたSDGs（持続可能な開発目標）講座が5日、新庄市のこまつ



新聞記事をSDGsの観点から読み解き、意見を発表する生徒
＝新庄市・Fiesta

せ新庄1階のFiestaで開かれた。生徒たちと地元企業の経営者や外国語指導助手（ALT）を招いたワークショップに取り組み、世界的な課題をローカルな視点で捉える「グローバル」な思考を養った。SDGsの実践に力を入れる舞祭楽のヌマザワ（同市）が、地元と世界を客観的に見ることで進路を決める際のヒントにしてほしいと主催した。新庄北高の1、2年生3人が、2024年開学予定の東北農林専門職大学（仮称）などに関し、新聞記事を教材に「質の高い教育をみんなに」など17の開発目標の観点から意見を述べた。「4年間継続して学ぶことで学習レベルが上がる」といった意見が出た。

2年の安西花音さん（16）は「マイバッグ持参など自分ができる身近なことが、世界全体の環境問題につながる」と感じた」と話していた。高校生に学校と違った学びの場を提供する「新庄・最上ジモト大学」の一環として実施した。（土屋隆）



●「しごトーク」若手
従業員のリアルなお話が30日、
新庄市の新庄北高（高橋剛文校
長）で開かれ、1年生約120
人が最上地域で働く先輩から話を聞き、職
業理解を深めた。写真。

●「しごトーク」若手
従業員のリアルなお話が30日、
新庄市の新庄北高（高橋剛文校
長）で開かれ、1年生約120
人が最上地域で働く先輩から話を聞き、職
業理解を深めた。写真。

●「しごトーク」若手
従業員のリアルなお話が30日、
新庄市の新庄北高（高橋剛文校
長）で開かれ、1年生約120
人が最上地域で働く先輩から話を聞き、職
業理解を深めた。写真。

国際大会へ帆走特訓 広がる自治体や企業の支援

地域に根差し、めざす世界



尾花沢市の「徳良湖」から世界へ。市内の北村山高（大内郷親校
長）に所属する「ヨット」チームが、今年秋の国際大会に出
場に向け、練習を重ねている。地元の一社団法人「尾花沢ヨット倶
楽部」（尾花沢市長）が、活動を全面的に支援しているが、自治体や
企業にも支援の輪が広がっている。学校と地域の再興へ意気込みが
あふれる。写真：尾花沢市。

国際大会へ参加する「ヨット」チームは、市内の北村山高（大内郷親校
長）に所属する。今年秋の国際大会に出場に向け、練習を重ねて
いる。地元の一社団法人「尾花沢ヨット倶楽部」（尾花沢市長）が、
活動を全面的に支援しているが、自治体や企業にも支援の輪が
広がっている。学校と地域の再興へ意気込みがあふれる。写真：
尾花沢市。

カフェで接客体験 将来の職業考える

尾花沢

高校生に地域で学ぶ機会を創出する「新庄・最上ジモト大学」の尾花沢キャンパスが3日、尾花沢市の徳良湖オートキャンプ場管理棟内のグースカフェで開かれた。生徒が接客体験に取り組み、将来の職業について考えた。

北村山高の「そばガールズ」や新庄北高から生徒計8人が参加。市内でそば店を営む高橋晃治さんとトークセッションを行った。高橋さんが東京の飲食店で打ち込んだ修業について振り返りながら語り、生徒は「短大を目指している」「資格や検定に挑戦している」などと将来目指していることを発表した。

引き続き、カフェ運営体験に挑戦。来店客から注文を取り、生徒が考案したそばクッキーをプレゼントした。北村山高3年の菅野凜

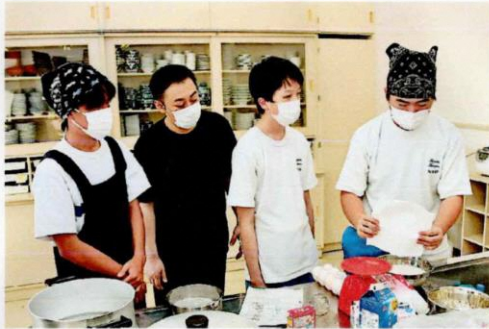
徳良湖、北村山高・新庄北高の8人



「グースカフェ」で接客を体験し、そばクッキーを振る舞う高校生＝尾花沢市

さん(18)は「メニューがおしゃれで楽しい。雑談しながら接客できて、よい経験になった」と話していた。(鈴木大和)

最上地域の高校生が金山町の食材を使って町内飲食店を応援しようと、メニュー開発を進めている。試作会で試食した飲食店関係者や教員らから「高校生ならではの発想だ」と評価する声が上がった。



金山町の飲食店を応援しようと、自分たちが考案したメニューを試作する高校生 〓同町・新庄南高金山校

最上地域の高校生がメニュー考案

金山グルメ期待

新庄南高金山校（同町）と新庄北高（新庄市）の1～3年生計約20人が参加。メニュー開発は5月に始め、生徒は金山の人口や産業、特産品などを学んだ後、ワークショップ形式で約30種類を考案した。

試作会は13日夕、新庄南高金山校で開催。約30案の中から▽豚丼爆盛り▽ブルーベリーチーズケーキ▽メープルプリン等の3品を作った。町内で飲食店を営む青柳成太郎さん（45）が指導。包丁遣いにぎこちなさを感じる場面はあったものの、助言を受けた生徒たちは1時間ほどで調理を終えた。

出来たての料理に生徒や教師らが箸をつけると「うまい！」と笑顔が広がった。豚丼担当の新庄北高1年堀米拓真さん（15）は「なんとか形にできた。最上の食材だからその魅力を感じた」と話し、青柳さんは「高校生の視点で考えた、いろいろな料理があって面白かった」と語った。

最上地域の高校生などに学びの場を提供する「新庄・最上ジモト大学」のプログラムとして実施した。一部の試作品は10月9日にグリーンバレー神室で開催予定の産業まつりで披露することになっている。

（斎藤吉貴）

豚丼爆盛り

ブルーベリーチーズケーキ

メープルプリン

来月披露

金山産落花生 × モンブラン モンナッツ いかが

新庄 金山町の落花生を使ったスイーツとして、モンブランの試作品が出来上がった。試作会が10月28日に新庄市の新庄信用金庫本店で開かれ、味を評価する意見や改善が出された。商品化を目指し、試験販売しながら、改良を進めていく。



ジモト大学の講座で考案された「モンナッツ」の試作品

商品化めざし試作、試験販売へ

モンブランは、高校生に学校とは違った学びの場を提供する「新庄・最上ジモト大学」の中で2019年9月に考案された。新庄南高金山校生や山形大生、同校金の若手職員らが話し合い、生地やクリームに落花生を使ったスイーツを考案。モンブランとピーナッツ（落花生）を掛けて「モンナッツ」と命名した。

イメージ図を元に試作品を手がけたのは、新庄市の菓子店おかしの家、の鈴木康志店長。スポンジの上に、落花生のペーストを練り込んだクリームと生クリームを重ねた。試作会では、落花生の粉末を砂糖でコーティングした「フラリスネ」もかけて味わった。参加者から香ばしさを感ずるもののほか、「実を一つ乗せてみて

は、お菓子の提案があった。モンナッツは今後、同店などで試験的に販売する。さらにジモト大学の講座で改良を進める予定だ。モンナッツ作りの取り組みは、日本財団（東京）の「わがまち基金」の助成を受け、地域課題解決に携わる人材「ジモト・ソーシャル・インベーター」育成の一環として行われた。（土屋隆）



関係者が集まり、商品化の方針や改善案を話し合った
〓新庄市・新庄信用金庫本店

山形新聞（2022 年 11 月 9 日）



最上地域の事業主や企業の採用担当者が高校生らに自社をアピールする催し「採用フェス モガミノロシ」が10月30日、新庄市のゆめりあで開かれた。食・福祉分野など六つの企業・店舗で働く先輩たちが仕事の魅力を伝えた。写真。

地元で働く先輩が仕事の魅力伝える
新庄、高校生らに

像を交えて説明。続くトークセッションでは、若者へのメッセージとして「発想力に期待。失敗を恐れずに挑戦して」といった意見が聞かれた。

催しは、同市のデザイン事務所「グラフィックデザイン」が企画。最上地域で生き生きと働く大人の生の声を若者に届け、地元就職を考えるきっかけづくりとして初めて開いた。

（佐々木亨）

山形新聞（2022 年 12 月 29 日）



「新庄版」ボードゲーム 体験

高校生ら企画、地元の魅力に触れる

ルールを確認しながら「新庄版」のボードゲームに挑戦する参加者

新庄市・雪の里情報館

新庄市の高校生が中心になって企画したボードゲームの体験会が28日、同市の雪の里情報館で開かれた。人気ゲームの「新庄版」で、地元の高校生や大人合わせで約20人が挑戦した。ドイツ生まれのボードゲーム「カタン」を元に、新庄東高2年の坂本直樹さん（16）が舞台を新庄市に置き換えて楽しむことを考えた。山形中央高の生徒が「山形版」を作ったことに刺激を受けたという。

新庄版はゲームの中心に新庄まつりを据え、受け取ったカードの組み合わせで山車や引き手を獲得する。体験会は「新庄・最上ジモト大学」の講座として開き、新庄北、新庄南、新庄東の各高校生が参加。生徒らはサイコロを振り、出た目に応じてカードを受け取るなど、ルールを確認しながらゲームを進めた。坂本さんは「大好きなボードゲームを通じて、新庄の魅力に触れる機会をつくりたい」と話した。同世代を中心に多くの人に体験してもらいたい」と話した。（佐々木亨）

高校生、広げた知識経験

シモト大学 フォーラム 活動成果語り合う

新庄 高校生に学校とは違った学びの場を提供する「新庄・最上シモト大学」の本年度の活動を報告し合う「シモト大学フォーラム」が4日、新庄市のゆめりあで開かれた。参加者が講座を通して得た成果や、今後の展望を語り合った。

シモト大学は、最上地域を

高校生に学校とは違った学びの場を提供する「新庄・最上シモト大学」の本年度の活動を報告し合う「シモト大学フォーラム」が4日、新庄市のゆめりあで開かれた。参加者が講座を通して得た成果や、今後の展望を語り合った。

シモト大学は、最上地域

活動の成果と今後の展望を語り合ったシモト大学フォーラム

新庄市・ゆめりあ

会場を提供する事業。この日は受講した最上地域の高校生や講座を提供した自治体、企業、事務局の県最上総合支庁などから約90人が参加した。

活動報告として、▽地元食材を使った居酒屋メニューの考案▽新庄の魅力に触れるボードゲームの作成▽SDGs（持続可能な開発目標）がテーマのプログラムに参加した高校生が登壇した。「地元の特産物を使っておいしいものを作ることができた」「身近な場所でもSDGsを実践できることを知った」など成果を述べた。講座提供者によるトークセッションも行われた。

本年度のシモト大学は39講座が既に実施され、計776人の生徒が受講した。18日には戸沢村の地元新聞を作成するプログラムが予定されており、参加者を募集している。問い合わせは同村まちづくり課02333(72)2152。(土屋隆)

戸沢の魅力 もっと知って

新庄東高生 体験通し新聞を制作

新庄東高の1、2年生3人が18日、戸沢村で体験活動をし、村の魅力を伝える新聞を作った。

同村職員が案内役となり、国道47号沿いの道の駅

村の魅力をまとめたオリジナル新聞を作る生徒

＝戸沢村

「どざわ」（モモカミの里高麗館）の見学や最上川舟下りを体験し、手書きのオリジナル新聞を作った。舟下りを「ジャングルクルーズ」と言い換えた見出しを付けるなど、3人の個性が光る作品が出来上がった。

2年の伊藤（いとう）さん（17）は「船頭さんのジョークを交えた解説が印象的だった。目を引く見出しと簡潔な文章を意識して記事を書いた」と話していた。

高校生に学校とは違った学びの場を提供する「新庄・最上シモト大学」の最終プログラムとして実施し

た。本年度のシモト大学は40講座が実施され、計779人が受講した。

(土屋隆)

R4.8 尾花沢市広報



Diary 地元のヒト・モノ・コトを学ぶ「ジモト大学」開講
7/27 ヨット体験で
徳良湖の魅力発見！

高校生対象のジモト大学尾花沢キャンパスが開講され、1回目の講座に新庄の高校生4人が参加しました。徳良湖で活動を行っている三浦好昭さんから徳良湖の魅力について話を聞いた後、ヨットクラブの長谷山会長の指導で実際にヨット操縦を体験。地域の大人と交流しながら尾花沢を知り、楽しみました。

R4.11 金山町広報

高校生もオリジナル商品を
出品しました！



新庄・最上ジモト大学のプログラムで、金山の特産品を使って商品開発を行いました。町内の料理店「肴や太郎」の青柳成太郎さんに助言をいただき、ブルーベリーチーズケーキを調理し、産業まつりの会場内で無料配布しました。三條輝さん（金山校2年）は「皆さんに協力してもらい、満足のいく商品が作れた。ジモト大学に参加できてよかった」と嬉しそうに話してくれました。



R4.11 最上町広報

もがみまち地域おこし協力隊通信

好きなことを仕事にする大変さ

今年度も気付けば半年が
終わり、残された協力隊の
任期も一年半となりました。
これまで、観光資源とし
ての陶芸体験とPR・商品
開発としてのイベント出店
などを中心に活動してきま
した。新庄や仙台などに
出し、地域性や展示方法な
ど様々なことを学ぶことが
でき、今後の商品開発に活
かしていこうと思いました。
さて、最近では「新庄・
最上ジモト大学」のプログ
ラムとして、陶芸体験と茶
道体験を2回に分け開催し
ました。このプログラムは、
地元の高校生に体験や活動
を通して、地元の魅力や自
分の将来を見据えるきっか
けの場を提供するものです。



今月号は川和田宗太郎が
お知らせします！



1回目は陶芸体験と私達の仕事や
将来についての講義を行いました。
陶芸体験では、抹茶茶碗を「手ずく
ね」という古来の技法を用いて制作
しました。思い描く器を作ることの
難しさをお教えできたかと思います。
2回目は、茶道体験を行いました。
自分で作った茶碗で茶を点てて飲む
ことで、様々な発見と茶道と陶芸と
いう日本文化を楽しんでいただけ
かと思いません。
プログラムを通して自分の「好き」
を仕事にすることの良さと大変さ
について、体験談をもってお伝えし
ました。高校生にとって少しでも、地
元の魅力を知ることや将来のこと
について考えるきっかけになっ
てほしいです。

R4.1 1 新庄市広報

手話教室・研修の開催

市聴覚障がい者協会が実施している手話奉仕員養成講座を支援しています。今年度からは、高校生を対象に実施している「新庄・最上ジモト大学」で手話に関するメニューを開講。9名の高校生が手話通訳の資格取得までの流れや、簡単な手話などを学んでいます。

また、民生委員・児童委員の研修会では、災害時に障がいのある方との関わり方を学ぶために、障がいのある方に講師をしてもらいました。



▲新庄・最上ジモト大学(8月)

R4.1 2 鮭川村広報



11/20日 ジモト大学鮭川プログラム開催

県の事業である新庄・最上ジモト大学の鮭川プログラムが開催され、2名の高校生が参加し「鮭川の鮭」について学びました。

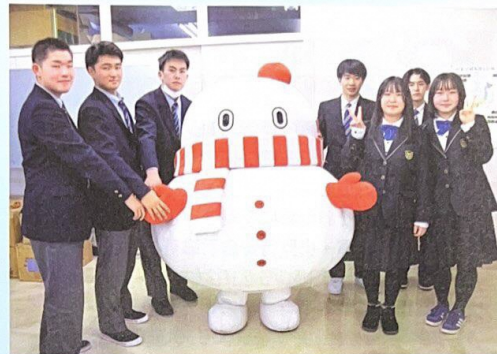
当日はサーモンロードの会会長の矢口春巳さん(鶴田野)と元鮭川村地域おこし協力隊の松並三男さんが講師となり、鮭の採捕現場の見学や加工場でのさばき体験、座学では鮭川に遡上する鮭の一生などの学習が行われました。

参加した高校生たちは、早朝からのプログラムにも関わらず、積極的に学ぶ姿が見られました。

R5.3 大蔵村広報

新庄・最上 ジモト大学 を開催しました

1/31(火)に新庄・最上ジモト大学を開催し、7名の高校生が参加しました。これは高校生を対象に住民や参加者との対話や協働を通じて、高校生が主体的に学ぶ姿勢を育むことを目指した取り組みです。今回は大蔵村で広報誌の作成のため、加藤村長へのインタビュー、写真撮影、ページレイアウトを体験してもらいました。



Q 大蔵村で「推し」ていきたい野菜や名産品は何ですか？
A 現在、大蔵トマトは年間の販売額が5億円、出荷量も山形県で1位です。山形では一番古い小屋酒造という造酒屋さんがあり、花羽陽、大吟醸絹が好まれています。また四ヶ村の棚田で作った米には「棚田米」という付加価値をつけることで1俵3万円という高い値段で販売することに成功しています。
Q 今一番力を入れて取り組んでいることは何ですか？
A 長く住み続けられる村づくりです。除雪はもちろんのこと、安心安全な村づくりを心掛けています。豪雪や豪雨などの自然災害対策や、交通事故対策にも力を入れています。
Q どのような村づくりに取り組んでいますか？
A 持続可能な村づくりを目指しています。そのために升玉砂防堰堤を利用

大蔵村には
こんなものもあります！



なるほど～！



(インタビュー終わり)

した発電施設で、エネルギーを自分たちで作っています。
Q 大蔵村の一番に自慢できることは何ですか？
A 自慢できるものは農業、観光などたくさんあります。その中で一つ選ぶとしたらトマトですね。農業は人手不足と言われていますが、大蔵村では若手の農家さんが増えています。先ほど話しましたが、出荷量は県内トップで、勢いのある分野です。
Q 村の未来に必要なこと、活性化しなければならぬことは何ですか？
A 農業と観光業のさらなる活性化です。個々人の仕事を成功させることで村全体が盛り上がります。子育て支援も力を入れて、生まれる前から生まれ後も安心して子育てができる、住みやすい村づくりが必要です。小中学生には村営の学習塾を無料で利用できるようにして学習面でもサポートできる体制をとっています。

村長さんの登場に高校生の皆さんはやや緊張した面持ちでしたが、インタビューが進むにつれて和やかな空気になりました。当初予定していた質問に加えてその場で考えついた質問をしてみるなど、積極的に参加してくれました。

インタビューの内容やページのレイアウトは高校生の皆さんが考えました。また写真もカメラ班のみなさんが撮ったものを使用しており、とても素敵な紙面になりました！



R4. 6～2 最上エコポリス通信

地域へのさらなる広がりを 新庄・最上ジモト大学 総会

高校生と地域住民の対話を通し、高校生が主体的に学ぶ姿勢を育むとともに、将来の定住や地域の中核となる人材の育成を目的とした「新庄・最上ジモト大学推進コンソーシアム」総会を4月19日に開催しました。

事業報告では、新たに尾花沢市が参画し取り組みの輪が広がったことや、これまでで最も多い34プログラムを実施し、延べ900名を超える高校生に参加いただいたことが報告され、新型コロナによって様々な社会活動が制限される中、プログラム参加をきっかけに高校生同士がつながりを深めて、主体的に地域活動に取り組んでいる好事例も出始めていることが紹介されました。

また当日は、ジモト大学開校当初からサポートいただいている大正大学 浦崎教授より『『最上級』のコンソーシアムに向けた次なる挑戦』と題してご講演いただき、地域連携の重要性を改めて確認することができました。

今年度は、ジモト大学が地域の新しい活力を生み出す場となっていくよう、企業や団体等との連携を図り、ジモト大学の輪をさらに地域全体に広げていけるよう取り組んでまいります。

[連携支援室 29-1239]



新庄・最上ジモト大学 2022 開校

新庄・最上ジモト大学の2022年度プログラムが7月16日からスタートしました。

ジモト大学は、地域の大人と高校生が地域のことを本気で語り、学び、交流する場として、地元企業や自治体等がプログラムを提供しています。6年目となる今年度は、これまでで最も多い42プログラムを実施予定です。SDGsについて学べるプログラムやふるさと納税の返礼品を考えるプログラムなど、今年度も多くの高校生が地域に出て、地域の大人と一緒に地域のヒト・モノ・コトについて学びます。たくさんの高校生の参加をお待ちしています。

[連携支援室 29-1239]



ジモト大学
Web サイト

第3回最上小国川鮎釣り甲子園大会、3年ぶりに開催！

7月30日に最上小国川おらだの川公園（最上町）付近で第3回最上小国川鮎釣り甲子園大会を開催しました。最上地域だけでなく宮城県からも参加し、高校生25名が快晴の中、鮎の友釣りに熱中し、3時間の熱戦を繰り上げました。

「鮎釣りを通して最上の自然の豊かさに改めて気づくことができた」、「鮎釣りの難しさと地域の人との関わり方を学ぶことができた」といった声をいただきました。鮎釣り体験を通して、ふるさと最上への愛着を一層深めてもらうことができたと思います。

[連携支援室 29-1240]

【大会結果】

- ◆第1位 新庄北高等学校（1年）菊池涼雅さん
新庄北高等学校（1年）荒井壮旭さん
- ◆第2位 新庄北高等学校（1年）佐藤翔吾さん
新庄北高等学校（1年）安達惺さん
- ◆第3位 新庄北高等学校（3年）庄司光太郎さん



新庄・最上ジモト大学活動中!!

- ☺ 地元のことをよく知ろう!
- ☺ もっと自分から積極的に語ろう!
- ☺ ともに本気で学ぼう!

をテーマに多くの高校生が学校を飛び出し、地域の大人とともに地域のヒト・モノ・コトについて学んでいます。

今回はプログラムの様子をご紹介します。



プログラムの様子はこちらの SNS からご覧いただけます。

〔連携支援室 29-1239〕

新庄市提供プログラム→

同市では昨年12月に手話言語条例を制定。ろう者の方からあいさつや自己紹介など簡単な手話を教わり、みんなで練習! 覚えが早くあっという間にマスターしていました。



例ヌマザワ(葬祭業)提供プログラム→

SDGsを通して「未来の地域の姿」を想像! 年代も国籍も経験も違う参加者とグループワークで対話しながらいろいろな価値観を学びました。



例カイセイカンパニー(介護・福祉サービス)提供プログラム

高校生と一緒に夏祭りを企画! 意欲の交流でしたが、高校生が披露してくれた踊りに施設利用者みなさんもニコニコ。



地域の大人と高校生の「医療福祉座談会」開催!!

8月4日、医療・介護職に関心のある高校生を対象に「医療福祉座談会」(場所: 新庄市民プラザ)を開催し、地元の医療現場で活躍する社会人から仕事の話を聞きました。「薬剤師」「理学療法士・診療放射線技師」「看護師・介護福祉士」の3コースに分かれ、希望する職種で参加者は真剣に耳を傾けていました。

また、実施後のアンケートでは、「実際に業務に従事されている方の話を直接聞くことが出来て、とても参考になった。」などの感想が寄せられ、医療・介護の仕事への興味・関心や、医療・介護分野への就業志望意欲を高めてもらうことができました。〔保健企画課 29-1257〕



【薬剤師コース】



【理学療法士・診療放射線技師コース】



【看護師・介護福祉士コース】

地元×働くもがみしごと——く仕事の魅力発信

8月30日と9月22日、県立新庄北高等学校、県立新庄神室産業高等学校を会場に地元の職場で働く先輩から仕事のやりがいや新庄・最上での暮らしについてお聞きする特別授業を開催しました。

先輩方からは、お手製の“紙芝居”を使い、わかりやすく楽しいお話をいただきました。

自分の進路や将来を深く考える機会になるとともに、地元企業の魅力や地域との関わり、地域に戻ってくるきっかけを知れて良かったという感想が聞かれました。

今後も地元定着に向けた取り組みとして、最上地域にもたくさんの企業、仕事があること、また、地元で楽しく生き活きと暮らし活躍している方がいることを知ってもらう機会をつくっていきます。

〔地域産業経済課 29-1309〕



働くセンパイによる特別授業
@新庄北高等学校



若手女性従業員のリアルなおはなし

@新庄神室産業高等学校

ふるさとをまもり未来をつくる 土木技術者たちのはなし

10月27日、新庄神室産業高校において、新庄・最上ジモト大学を開催し、同高校の2年生17名、新庄南高校の2年生2名、新庄東高校の2年生19名が参加しました。第1部のパネルディスカッションでは、最上地域で意欲的に建設業に携わる若者4人から、仕事の充実感・やりがい・夢などを紹介していただきました。第2部の意見交換では、進路選択を控えた高校生から、職場環境や工作上必要なことなどについて、地元で働く先輩の山形県建設業協会最上支部青年部員の方々と意見交換を行いました。



【建設総務課 29-1391】

地元で働くもがみしごトーーク 仕事の魅力発信

10月28日新庄東高校、11月10日新庄南高校で地域の職場で働く先輩から仕事のやりがいや新庄・最上での暮らしについてお話いただく特別授業を開催し、先輩との交流を通して仕事や企業に対する理解を深めました。

【地域産業経済課 29-1309】



地域に根ざしたジモト大学を目指して～フォーラム開催～

ジモト大学の取り組みへの理解や関心を一層深めてもらうため、「新庄・最上ジモト大学フォーラム」を2月4日にゆめりあ（新庄市）で開催しました。当日は、高校生や地元企業など約90名の方々に参加いただき、今後のジモト大学について一緒に考える機会となりました。

はじめに、ジモト大学の概要について紹介した後、今年度のプログラムに参加した高校生から、ジモト大学での活動の様子や学んだことなどについて、事例発表がありました。

トークセッションでは、“高校生も大人も参加したい、学びとなるジモト大学”をテーマに、プログラム提供者や参加高校生の皆さんから、より良いジモト大学にしていくためのアイデアをいただきました。

開催にあたり、地域で活動している団体や大学生にも協力いただき、フォーラムを通して、ジモト大学の輪がさらに広がったように感じました。

また、2月20日～28日まで、最上総合支庁ロビーにおいて、今年度のプログラムの様子が分かるパネル展示を行います。高校生が地域に出て、楽しんで活動している様子を是非ご覧ください。

【連携支援室 29-1236】

ジモト大学の Facebook
では随時活動の様子を
発信しています！



新庄・最上ジモト大学推進コンソーシアム 規約

(名称)

第1条 この会は、新庄・最上ジモト大学推進コンソーシアム（以下「コンソーシアム」という。）と称する。

(目的)

第2条 コンソーシアムは、新庄・最上地域の高校生を対象に地域課題等に関する住民等との対話や協働等を通じて、高校生の主体的に学習に取り組む態度を育成するとともに、地域住民としての当事者意識を醸成することにより、将来の定住や地域の中核となる人材育成を図ることを目的とする。

(事業)

第3条 コンソーシアムは、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 地域課題等に関する新庄・最上地域及び尾花沢市に在住又は通学する高校生（以下「高校生」という。）と住民等との対話や協働等を行うプログラムの実施に関すること
- (2) 高校生を対象とした尾花沢キャンパスの設置・運営に関すること
- (3) その他コンソーシアムの目的を達成するために必要な事項に関すること

(構成団体)

第4条 コンソーシアムは、別表及び別表2に掲げる団体（以下「構成団体」という。）をもって構成する。

(役員)

第5条 コンソーシアムに代表及び監事を置く。

- 2 代表及び監事は、構成団体の代表者（以下「委員」という。）の互選により定める。
- 3 代表は、コンソーシアムを代表し、会務を総理する。
- 4 監事は、財務及び会計を監査する。
- 5 代表及び監事の任期は、2年とする。

(総会)

第6条 コンソーシアムに総会を置く。

- 2 総会は、委員をもって構成する。
- 3 総会は、代表が招集し、代表はその議長となる。
- 4 総会は、委員の過半数が出席しなければ、開くことができない。
- 5 総会の議事は、議長以外の出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 6 委員は、やむを得ない場合は、代理者を出席させることができる。
- 7 代表は、必要に応じて、委員以外の者に総会への出席を求めることができる。

(議決事項)

第7条 総会は次に掲げる事項を議決する。

- (1) 事業計画及び予算
- (2) 事業報告及び決算の承認
- (3) 規約の変更
- (4) その他コンソーシアムの事業及び運営に関する重要な事項

(運営委員会)

第8条 コンソーシアムに執行機関として運営委員会を置く。

- 2 運営委員会は、総会において選任された運営委員をもって構成する。
- 3 運営委員会に委員長を置き、運営委員の互選により定める。
- 4 第6条第3項から第7項までの規定は、運営委員会について準用する。この場合において、同条第3項及び第7項中「代表」とあるのは「委員長」と、同条第4項から第7項までの規定中「委員」とあるのは「運営委員」と読み替えるものとする。

(部会)

第9条 運営委員会は、必要に応じて部会を置くことができる。

(事務局会議)

第10条 コンソーシアムに事務局会議を置く。

- 2 事務局会議の運営に関し必要な事項は、運営委員会において定める。

(ジモト大学サポーター)

第11条 コンソーシアムの目的及び事業に協賛する企業、団体、個人をジモト大学サポーター（以下「サポーター」という。）とする。

- 2 サポーターに関し必要な事項は、運営委員会において定める。

(経費)

第12条 コンソーシアムの経費は、負担金及びその他の収入をもって充てる。

- 2 前項の負担金の額は、総会の議決を経て定める。

(補則)

第13条 この規約に定めるもののほか、コンソーシアムの運営に関し必要な事項は、運営委員会において定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この規約は、平成31年 3 月19日から施行する。

(経過措置)

- 2 コンソーシアムの設立当初の代表及び監事の任期は、第 5 条第 5 項の規定にかかわらず、平成33年 4 月30日までとする。

附 則

- 1 この規約は、令和 3 年 4 月13日から施行する。

別表（第4条関係）

団 体 名	代 表 者
新庄北高等学校	校長
新庄南高等学校	校長
新庄神室産業高等学校	校長
新庄東高等学校	校長
最上総合支庁	総合支庁長
新庄市	市長
金山町	町長
最上町	町長
舟形町	町長
真室川町	町長
大蔵村	村長
鮭川村	村長
戸沢村	村長
東北芸術工科大学	学長
最上教育事務所	所長
一般社団法人とらいあ	代表理事
新庄商工会議所	会頭
もがみ北部商工会	会長
もがみ南部商工会	会長
新庄中核工業団地立地企業協議会	会長
新庄横根山工業団地企業協議会	会長
最上地域農業法人研究会	会長

別表2（第4条関係）

団 体 名	代 表 者
北村山高等学校	校長
尾花沢市	市長
村山総合支庁北村山地域振興局	局長

地域を知る。大人とつながる。新たなジブンと出会う。
それって 結構おもしろいじゃん。

ジモト世代。

令和4年度

新庄・最上ジモト大学推進コンソーシアム事務局業務委託事業

発行：令和5年3月

発行者：新庄・最上ジモト大学推進コンソーシアム

事務局：一般社団法人とらいあ
TEL & FAX 0233-29-8150
E-mail toraia@ic-net.or.jp